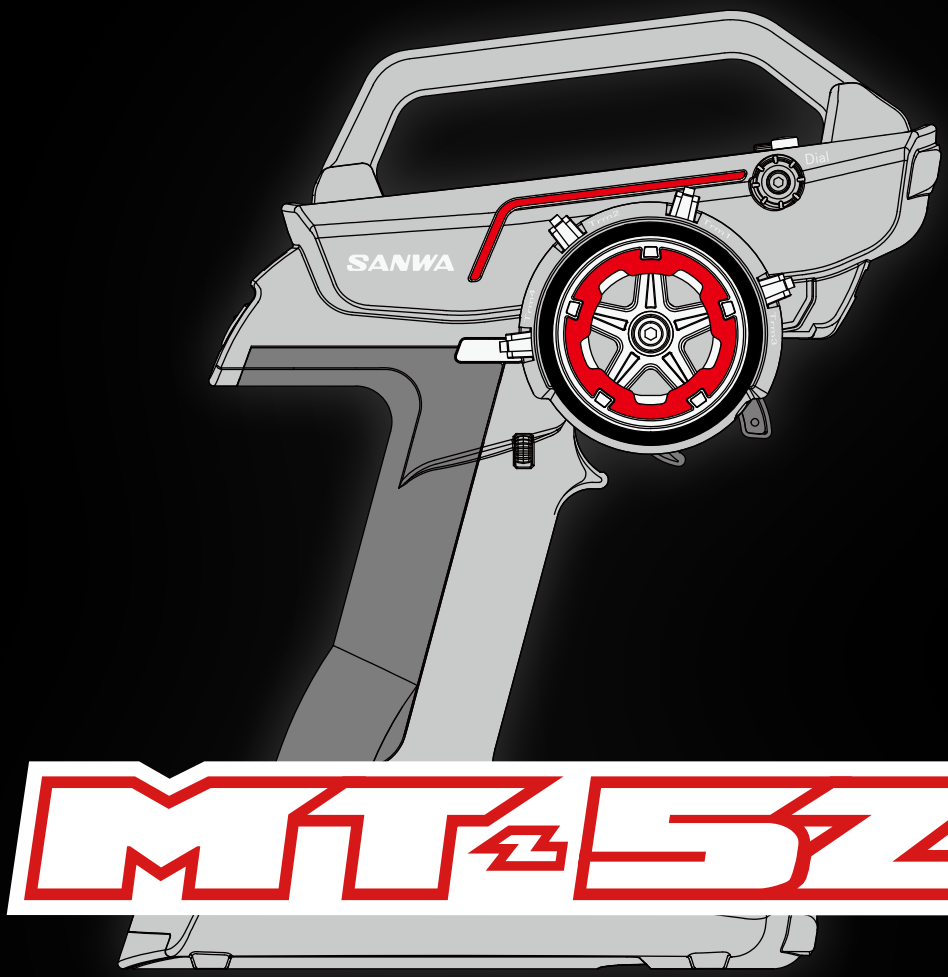


取扱説明書

フル・マニュアル

https://www.sanwa-denshi.co.jp

SANWA

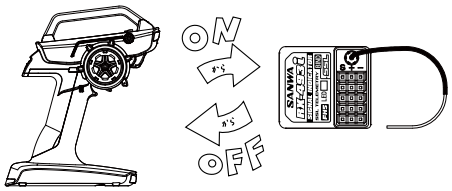
Ver.1.00.01 [2026/11/12]

プロポの安全な取扱いと注意事項

お買い上げいただいたプロポを正しく安全にご使用いただくために、本書
をよくお読みいただき、注意事項を必ず守ってください。
使用方法を誤ったり、安全に対する注意をおこたったりすると、
他人に迷惑をかけたり、自分自身をきずつけたりすることになります。
■安全確保のため、この各項目を必ずお守りください。

⚠ 警告　　搭載時及び操作上の注意

●プロポの電源スイッチを ON にするときは必ず
①送信機→②受信機の順でおこなってください。
また OFF にするときは①受信機→②送信機の
順番でおこなってください。
☆スイッチ操作を誤って逆にすると突然エンジンや
モーターが高回転になり、大変危険です。



●車体には必ずノイズ対策をおこなってください。
☆金属同士がこすれると電気的ノイズ（雑音）が発生し
正常な動作をしない原因となりますのでビス、ナット
のゆるみのないことを確認してください。
☆ガソリンエンジン、モーターなどからもノイズが発生
することがあります。抵抗入りプラグや、ノイズキラー
コンデンサー等のノイズ対策をおこなってください。

●走行前に必ずプロポの動作確認（通達テスト）
をおこなってください。
異常な動きをしたり、動かない場合は走行
させないでください。
机上でのテストが正常であっても走行中の電波の
到達距離は、受信機の搭載方法、アンテナの張り方、
送信機のアンテナの向き、地形等によって変わり
ますので、初走行の際は特にご注意ください。

●雨の日は絶対に走行 させないでください。
☆送信機内部は精密な電子部品でできていますので、
ケースを伝わって水が入ると誤動作や不動となり危険
です。
☆受信機、サーボ等が水没した
時は、すぐに回収して内部
を乾燥させてください。
乾燥後、正常に動作しても念
のためにサンワ サービスへ
点検にお出しください。



●受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないでください。
☆厚手のスポンジ等を使用し、防振対策をおこなってください。

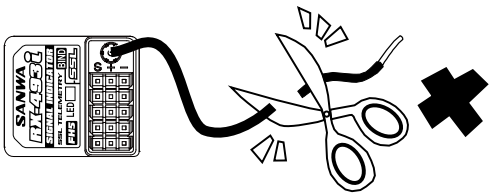
●受信機はスピードコントローラー、モーター、バッテリー
からできるだけ離して搭載してください。

●金属シャシーやカーボンシャシーに搭載する場合は両面
テープを3枚位かさねて使用し、受信機をシャシーから
離してください。

●電波障害がある場合は、受信機の搭載場所をかえるか、
タテ積⇔ヨコ積に搭載方法をかえてください。

●受信機のそばにモーターコードやバッテリーコードが
あると誤動作しやすくなるので、近づけないでください。

●受信機のアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて
張るようにしてください。
余分な長さを切断したり、折り返したりしないでください。
☆アンテナ線が短くなると走行できる範囲が狭くなるので
危険です。
☆アンテナ線は絶対に切断しないでください。



●アンテナ線はモーターコードやバッテリーコードに近づけ
ないようにしてください。

●金属シャシーやカーボンシャシーに導電性のピアノ線アンテナ
を使用するとノイズにより誤動作する可能性があります。
シャシーにアンテナ線を近づけないようにしてください。

⚠ 警告　走行の際の注意

RCカー等を走行する場合は、必ず下記事項を守り、他の人の迷惑にならないようにご注意ください。

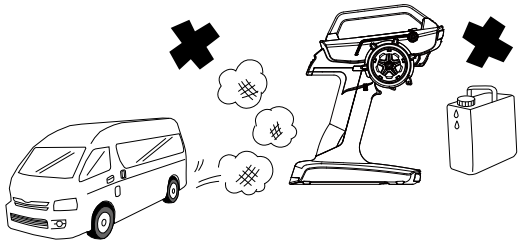
●車体は完全に整備をして安全を確認してください。
●人ごみや道路では絶対にRCカーを走行させないでください。
●走行後は必ず動力バッテリーのコネクターをはずし、車体から動力バッテリーをはずしてください。
●同時走行 の場合は必ず管制員を決めて、その指示に従って走行してください。
●他の人の走行を妨げないようにご注意ください。
●ラジコン保険に必ず加入してください。ラジコン保険の加入申込はラジコン操縦士登録代行店にお問合わせください。
●エンジンカーには必ず消音効果のある「マフラー」（消音機）を付けてください。
●早朝からのエンジン始動はやめてください。
●走行場所は必ずきれいに掃除をしてから帰ってください。

⚠ 注意　用途について

●模型用以外には使用しないでください。
●本製品は模型用として日本国内の電波法に基づいて製造されていますので海外ではご使用になれません。

⚠ 注意　日常のお手入れ

●エンジンの排気や燃料がついた時は、やわらかい乾いた布で拭いてください。汚れがひどい時には水または中性洗剤を染み込ませたきれいな柔らかい布を固くしぼって拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコール、モータークリーナー、ブレーキクリーナーなどは表面の仕上げをいためたり、変質する場合がありますので、ご使用にならないでください。

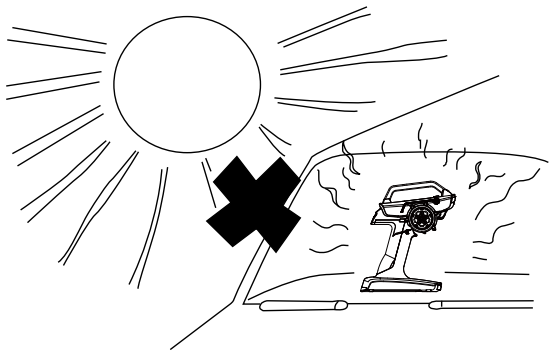


⚠ 注意　送信機の取扱いについて

●ぶつけたり、落としたり強い衝撃を与えたりしないでください。またタイヤトラクション剤等のついた手で送信機、受信機、サーボ、FETスピードコントローラー等にさわると、故障やケース変形の原因となります。

⚠ 注意　置き場所について

●次のような場所で保管しないでください。
☆極端に暑いところ、極端に寒いところ。
☆直射日光が長時間あたるところ。
特に窓を閉めきった自動車内で直射日光が当たる場所に放置すると季節により車内温度が８０℃以上になり、変形や故障の原因となる場合がありますので充分ご注意ください。
☆湿気の多いところ、風通しの悪いところ。
☆振動の多いところ。
☆ほこりの多いところ、蒸気や熱気が当たるところ。
☆エンジンの排気がかかるところ、燃料缶のそば。



マークの意味

⚠ **警告**　事故や怪我をしないために必ず守っていただきたいこと。

⚠ **注意**　故障をおこさないために必ず守っていただきたいこと。

プロポの安全な取扱いと注意事項

⚠ 注意　安全に使用していただくための注意事項

- 2.4GHz 帯はラジオコントロール専用の周波数ではありません。この周波数帯は ISM（産業、科学、医療）バンドと共用されているので都市部では電子レンジ、無線 LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ機器、ゲーム機や携帯電話の Bluetooth、VICS などの近距離通信の影響を受ける可能性があります。またアマチュア無線、移動体識別用構内無線局にも使用されているため、これらの影響に注意して使用してください。なお、既存の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は速やかに電波の発射を停止し干渉回避対策をおこなってください。
- RC サーキット等では 2.4GHz システムに影響を与える可能性のある機器の使用を最小限にし、必ず事前に安全性の確認をおこなってください。また、施設管理者の指示に従ってください。
- 建物や鉄塔などの後ろを走行させたときのように電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスの低下や操縦不能になる可能性があります。常に目視で確認出来る範囲で走行してください。
- 日本国内では技術適合証明試験を受け、認証番号を記載した技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールが使用できます。技術適合証明ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- 海外からの輸入品等の場合で技術適合証明ラベルが貼られていないプロポやモジュールを日本国内で使用することはできません。電波法違反になる場合があります。
- （財）日本ラジコン電波安全協会ではラジオコントロールに使用する電波を安全に使用していくための啓発をおこなっています。同協会の名称の入った技術適合証明ラベルが貼られている送信機やモジュールの使用を推奨します。
- 走行中は送信機のアンテナ内蔵部を握ったりしないでください。電波の出力が弱くなり走行できる範囲が狭くなるので危険です。
- 送信機のアンテナ内蔵部には金属製のクリップなどを取り付けないでください。
- 送信機のアンテナ内蔵部を受信機以外のサーボ、スピードコントローラーに極端に接近させると誤動作する場合がありますが、強い高周波出力の影響で異常ではありません。
- 受信機は精密機器です。強い衝撃や振動をあたえないでください。厚手のスポンジ等を使用し防振対策をおこなってください。
- 受信機のアンテナ線はできるだけ外へ出し、まっすぐ立てて張るようにしてください。余分な長さを切断したり、折り返したりしないでください。
- 受信機のアンテナ線はモーターコードやバッテリーコードなどのノイズ源に近づけないでください。
- 金属シャシーやカーボンシャシーに受信機を搭載する場合は両面テープなどを重ねて使用し、できるだけシャシーから離してください。



※技術適合証明ラベル例

INDEX

■セットの構成と規格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
■ご使用になる前に・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7～9
●ステアリング、スロットルのテンション調整、グリップパッドの調整(7)
●フル アジャスタブル トリガーの調整(8、9)
●電源について、マイクロSDカードについて(9)
■受信機の接続と搭載について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10 ～ 12
●受信機について、アンテナの取扱いについて(RX-493i)(10)
●受信機の搭載について(RX-492i)(11)
●接続について(12)
■送信機各部の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13 、14
■各機能の使用方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15 ～ 63
●キー操作について(15)
●電源切り忘れアラームについて(15)
●ディスプレイ パネルについて(16)
●メニュー構成について(17)
●ショートカットメニューについて(18)
・ダイレクト モデル セレクト(18)
・クイック セットアップ(19 、20)
●セッティング [SETTING] (21 ～ 32)
・デュアル レート [D/R] (21)
・スピード [SPEED] (22)
・カーブ [CURVE] (23 ～ 26)
・フェール セーフ [F/S] (27)
・ベース [BASE] (28 ～ 32)
・リバース [REV] (28)
・サブトリム [SUB-T] (28)
・エンド ポイント アジャスト [EPA] (29 、30)
・フィーリング [FEELING] (30)
・トリム [TRIM] (31 、32)
●スロットル ファンクション [TH-FUNCTION] (33、34)
・アンチ ロック ブレーキ [ALB] (33)
・オフセット[OFFSET] (34)
・スロットル タイプ [TH TYPE] (34)
●エー ユー エックス [AUX] (35 ～ 38)
・ステップ エー ユー エックス [STEP AUX] (35)
・ポイント エー ユー エックス [POINT AUX] (35)
・4ホイール ステアリング [4WS] (36)
・モーター オン アクスル [MOA] (36)
・エー ユー エックス ミキシング [AUX-MIX] (37)
・コード エー ユー エックス [CODE AUX] (38)
●タイマー [TIMER] (39 ～ 41)
・セットアップ [SETUP] (39 、40)
・ラップ タイマー [LAP TIMER] (40)
・インターバル タイマー [INT TIMER] (41)
・ダウン タイマー [DOWN TIMER] (41)
●テレメトリー [TELEMETRY] (42 ～ 46)
・ログ データ [LOG DATA] (42)
・テレメトリー セッティング [TELEMETRY SETTING] (45)
・グラフ セッティング [GRAPH SETTING] (46)
・テレメトリー スイッチ [TELEMETRY SWITCH] (46)
●モデル [MODEL] (47 ～ 50)
・モデル セレクト [MODEL SELECT] (47)
・モデル ネーム [MODEL NAME] (48)
・モデル コピー [MODEL COPY] (49、50)
・モデル クリア [MODEL CLEAR] (50)
●システム [SYSTEM] (51 ～ 62)
・バインド [BIND] (51 、52)
・キー アサイン スイッチ [KEY ASSIGN SW] (53)
・キー アサイン トリム [KEY ASSIGN TRIM] (54)
・カスタム リスト [CUSTOM-LIST] (55)
・エー ユー エックス タイプ [AUX TYPE] (56)
・レーシング モード[RACING MODE] (57)
・バッテリー [BATTERY] (58)
・ブザー [BUZZER] (58)
・エル シー ディー [LCD] (59)
・エル イー ディー [LED] (59)
・クロック [CLOCK] (60)
・セットアップ [SETUP] (60)
・キャリブレーション [CALIBRATION] (61)
・ファームウェア [FIRMWARE] (62)
●モーション ステアリング [MOTION STEERING] (63)

■キーアサイン機能一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
■インジケーター機能(RX-DATA機能について)・・・・・・・・・・・・ 65
■索引・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
■こんなときは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
■サンワ サービスについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68

セットの構成と規格

セットの構成

	PC・プライマリーコンポーネント
〈A〉送信機	MT-5Z
〈B〉受信機	RX-493i / RX-492i
〈C〉サーボ	−
〈D〉付属品	ストラップ フック x 1 トリガーアングルスペーサー x 2 ブレーキトリガー +1 / +2 x 各1 グリップパッド S x 1 受信機用ダストカバー x 1 オプションバッテリー用スポンジ x 1 取扱説明書 x 1 BINDプラグ x 1 アンテナパイプ x 1（RX-493iのみ） ケーブルカバー x 1（RX-492iのみ）

●ご使用になる前にセットの内容をお確かめください。

※オプションのバッテリーを使用される方は別売りの LP1-2500C をご購入ください。
その際, バッテリーが送信機内で動く場合はオプションバッテリー用のスポンジを貼り付けて使用ください。
またオプションバッテリーを充電される場合は市販の急速充電対応のマイクロUSBケーブル（ TYPE-C ）と
ACアダプターを別途ご用意ください。

セットの規格

〈A〉送信機

品番	MT-5Z
出力表示	デジタル/アナログ表示(電源電圧表示)
変調方式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
電源	単4乾電池 x 3本(対応電圧DC2.7~5.0V)
重量	391g

※入力電圧にご注意ください。許容電圧以上の電圧が入力されると送信機が壊れます。

〈B〉受信機

品番	RX-493i / RX-492i
変調方式	2.4GHzスペクトラム拡散方式
寸法	26.0 x 23.2 x 14.0mm(RX-493i) 18.5 x 20.2 x 27.4mm(RX-492i)
電源	DC3.7~7.4V
重量	6.2g(RX-493i) / 6.8g(RX-492i)

INDEX へ戻る

ご使用になる前に

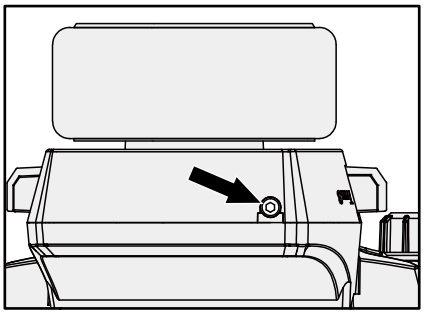
ステアリング、スロットルのテンション調整

MT-5Z はステアリング / スロットルの操作感をユーザーの好みにあわせられるようにステアリング / スロットルトリガーのテンションを簡単に調整できます。

ステアリングのテンション調整

右図の矢印の箇所に六角レンチドライバー (1.5mm) を挿して廻すことにより、ステアリングのスプリングテンションを調整できます。

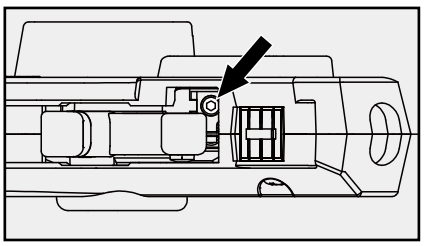
※スプリングテンションは工場出荷時が一番柔らかい状態です。六角レンチドライバー (1.5mm) で締め込んでいくと、スプリングテンションは硬くなります。



スロットル トリガーのテンション調整

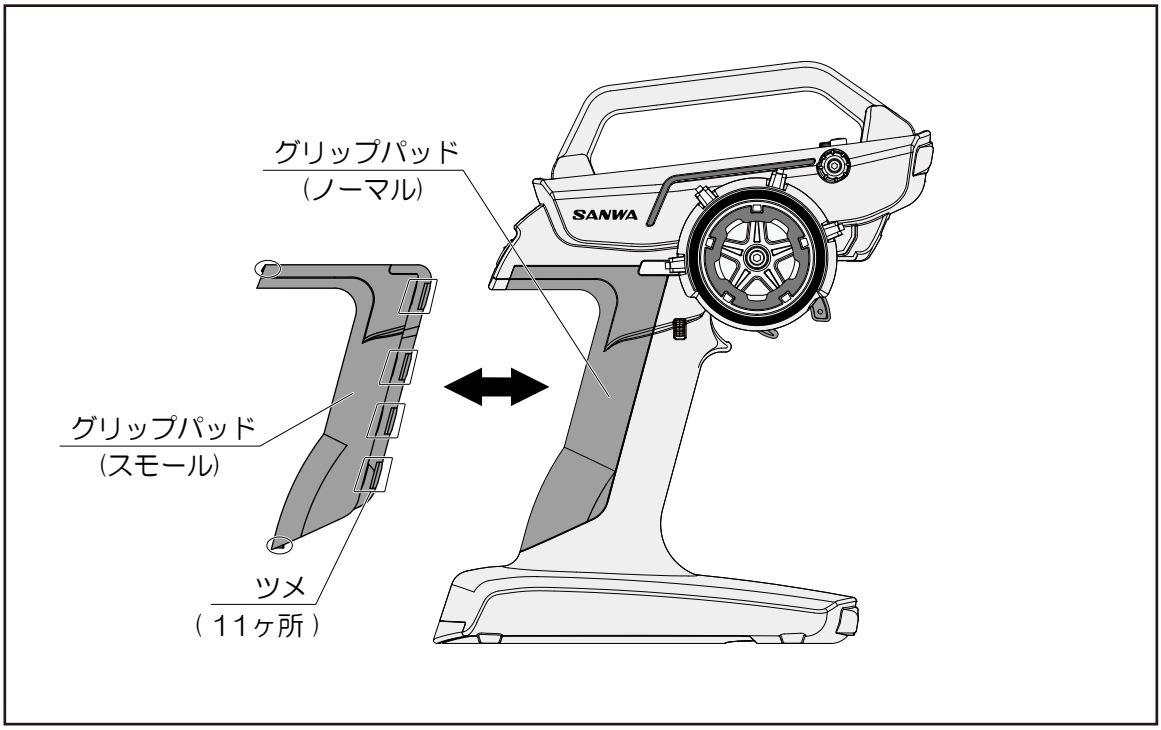
右図の矢印の箇所に六角レンチドライバー (1.5mm) を挿して廻すことにより、スロットル トリガーのスプリングテンションを調整できます

※テンション調整や機構部品の変更などを行ったあとには取扱説明書 (P.61) ページの CALIBRATION をステアリング (ST)、スロットル (TH) それぞれを行ってください。



グリップパッドの調整

ご使用になるユーザーの手の大きさにあわせてグリップパッドをノーマル / スモールの2種類から選べます。
(出荷時はノーマルが装着されています。)
送信機グリップ部にグリップパッドのツメ (11 ヶ所) でロックされていますので無理に引っ張らないでください。



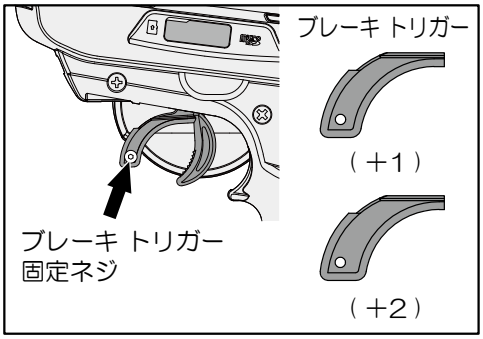
INDEX へ戻る

ご使用になる前に

ブレーキ トリガーの調整

同梱のブレーキ トリガーを交換することで、手の大きさや好みに合わせて指の掛かり具合を調整できます。
ブレーキ トリガーは出荷時に装着されている標準サイズの他に＋1と＋2の2種類が同梱されています。

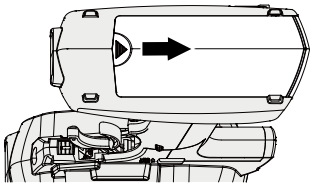
1) トリガー裏側にあるブレーキ トリガー固定ネジをはずします。
2) 手の大きさや好みに合わせてブレーキトリガーを選定してください。
3) 使用するブレーキ トリガーが決まったらブレーキトリガー固定用ネジで固定します。



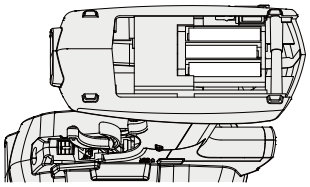
※セッティングアドバイス
トリガーの中で指とのすきまが多いと感じたらブレーキトリガーを+1、+2と付け替えて調整してみてください。
そのときにトリガーポジションとトリガーアングルを合わせて調整していただくとプロポがより手にフィットして操作が楽になりますので調整してみてください。

電源について

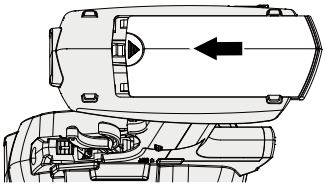
送信機の電池の入れ方



①OPEN部を軽く押しながら矢印の方向へスライドさせると電池カバーが開きます。



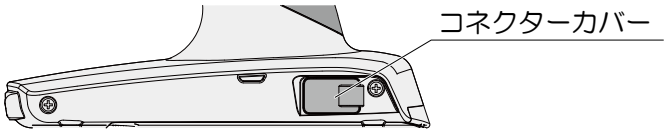
②極性を間違えないで単四乾電池を３本入れてください。



③電池カバーの凸部分を本体の溝に合わせ、矢印の方向に電池カバーをスライドさせて完全にしめます。

オプションのバッテリーについて

●オプションのバッテリーを使用される場合には、コネクターカバーからバッテリー側の充電ポートにアクセスが可能です。

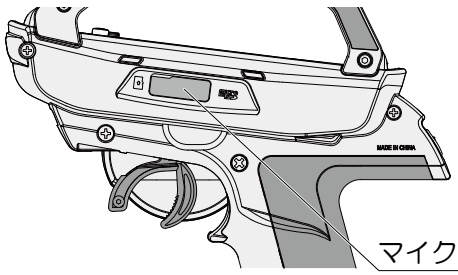


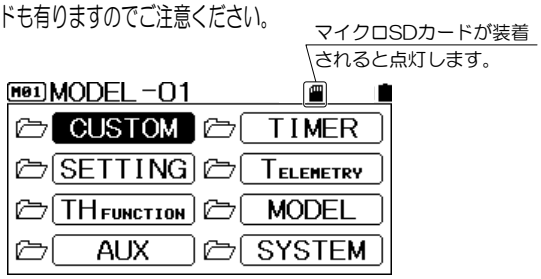
マイクロSDカードについて

●MT-5ZはマイクロSDカードに対応しております。マイクロSDカードを使用することで、モデルデータの保存やテレメトリーデータの保存が可能です。またMT-5Zのファームウエアアップデートが公開された場合に、マイクロSDカードを使用してファームウェアアップデートが可能です。マイクロSDカード挿入時は金属端子面を下側にして挿入してください。

●マイクロSDカードをMT-5Zに挿入すると”MT-5Z”という名称のフォルダが作成され、そのフォルダの中に“MODEL”という名称のフォルダが作成され、その中にモデルデータが保存されます。
ログデータのエクスポートをおこなうと”Log”のフォルダが作成され、そのフォルダの中に”csv”データが保存されます。

※対応しているmicro SDカードはFAT32形式でフォーマットされたmicro SDカードとなります。
※フォーマット形式が同じでもMT-5Zに対応していないmicro SDカードも有りますのでご注意ください。





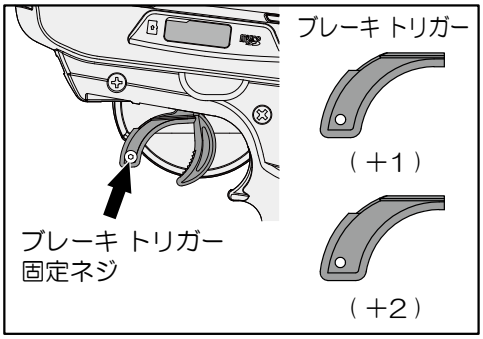
INDEX へ戻る

ご使用になる前に

ブレーキ トリガーの調整

同梱のブレーキ トリガーを交換することで、手の大きさや好みに合わせて指の掛かり具合を調整できます。
ブレーキ トリガーは出荷時に装着されている標準サイズの他に＋1と＋2の2種類が同梱されています。

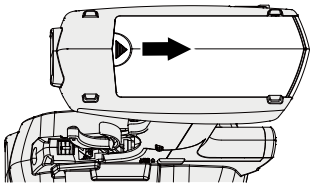
1) トリガー裏側にあるブレーキ トリガー固定ネジをはずします。
2) 手の大きさや好みに合わせてブレーキトリガーを選定してください。
3) 使用するブレーキ トリガーが決まったらブレーキトリガー固定用ネジで固定します。



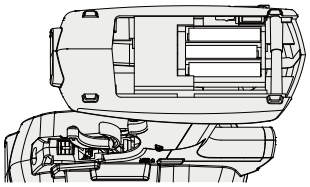
※セッティングアドバイス
トリガーの中で指とのすきまが多いと感じたらブレーキトリガーを+1、+2と付け替えて調整してみてください。
そのときにトリガーポジションとトリガーアングルを合わせて調整していただくとプロポがより手にフィットして操作が楽になりますので調整してみてください。

電源について

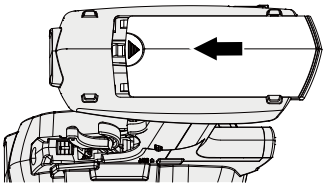
送信機の電池の入れ方



①OPEN部を軽く押しながら矢印の方向へスライドさせると電池カバーが開きます。



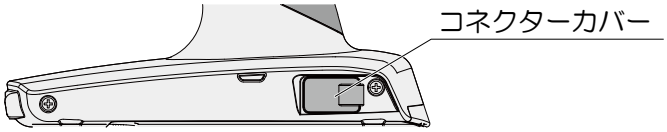
②極性を間違えないで単四乾電池を３本入れてください。



③電池カバーの凸部分を本体の溝に合わせ、矢印の方向に電池カバーをスライドさせて完全にしめます。

オプションのバッテリーについて

●オプションのバッテリーを使用される場合には、コネクターカバーからバッテリー側の充電ポートにアクセスが可能です。

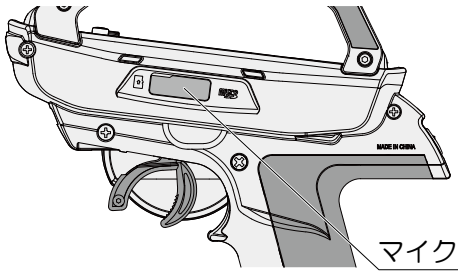


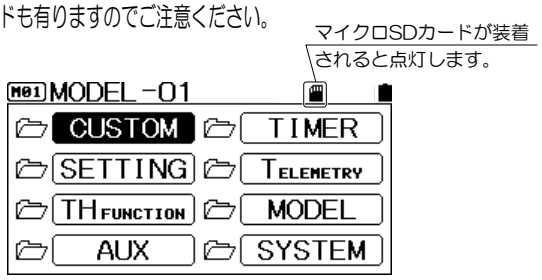
マイクロSDカードについて

●MT-5ZはマイクロSDカードに対応しております。マイクロSDカードを使用することで、モデルデータの保存やテレメトリーデータの保存が可能です。またMT-5Zのファームウエアアップデートが公開された場合に、マイクロSDカードを使用してファームウェアアップデートが可能です。マイクロSDカード挿入時は金属端子面を下側にして挿入してください。

●マイクロSDカードをMT-5Zに挿入すると”MT-5Z”という名称のフォルダが作成され、そのフォルダの中に“MODEL”という名称のフォルダが作成され、その中にモデルデータが保存されます。
ログデータのエクスポートをおこなうと”Log”のフォルダが作成され、そのフォルダの中に”csv”データが保存されます。

※対応しているmicro SDカードはFAT32形式でフォーマットされたmicro SDカードとなります。
※フォーマット形式が同じでもMT-5Zに対応していないmicro SDカードも有りますのでご注意ください。

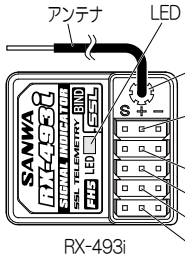




INDEX へ戻る

受信機の接続と搭載について

受信機について



RX-493i

注)受信機LEDの点灯によって受信機の動作状態がわかるようになっています。

アンテナパイプマウント
三和純正アンテナパイプをご使用ください。

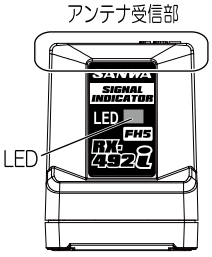
SSL/BAT：BIND / SSLポート
注)BIND/SSLポートにはBINDプラグや受信機バッテリー、SSL対応機器以外は接続しないでください。

CH4：4ch
CH3：3ch
CH2：スロットル（FETスピードコントローラー）
CH1：ステアリング

受信機LEDの状態

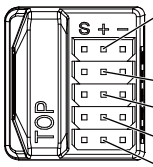
電波を受信している状態	青点灯
電波を受信できない状態	——
BIND（バインド）設定中	青点滅、青高速点滅
バッテリーフェールセーフ作動	青＆赤点灯
バッテリーフェールセーフ作動後に電波を受信できない状態	赤点灯

※2台の送信機とBINDをしていると2秒周期でLEDが青色点滅します。



RX-492i

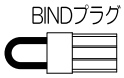
注)受信機LEDの点灯によって受信機の動作状態がわかるようになっています。



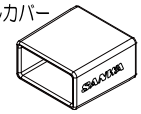
SSL / BIND：SSL / BINDポート
注)BIND / SSLポートにはBINDプラグや受信機バッテリー、SSL対応機器以外は接続しないでください。

CH4：4ch AUX2
CH3：3ch AUX1
CH2：TH / スロットル（ESC / スピードコントローラー）
CH1：ST / ステアリング

BINDプラグ



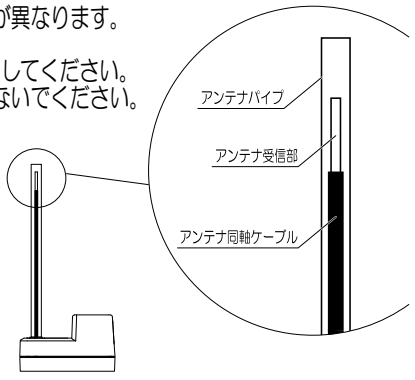
ケーブルカバー



● RX-493i / RX-492i（2.4GHz帯スペクトラム拡散方式受信機）について
RX-493i / RX-492iはFH5 / FH5U対応の送信機専用です。その他のAM / FM / 2.4GHz送信機には使用できません。
※FH5UはMT-5Zでは使用できませんのでご注意ください。
●RX-492iは1/10などの電動(EP)カー専用です。この他、GPカー等への使用はしないでください。
・RX-493i / RX-492iは送信機からの受信率と受信強度を数値化し、送信機にテレメトリーデータとして送信することができます。
・RX-493i / RX-492iは2つの送信機のID（識別番号）を記憶させることが可能です。耐久レースなどで個々の好みのポジションや設定にあわせた送信機の組み合わせが可能になりました。
2台の送信機固有のIDを受信機に記憶させること(BIND/バインド)で、バインドした2台の送信機との動作が可能になります。（注：2台の送信機と同時に動作できません。）
対応する送信機はMT-5Z、M17S、EXZES ZⅢ、MT-R、MT-5になります。
・スロットルのニュートラル位置や動作量は個々の送信機によって異なる可能性があります。バインドした送信機の組合せによって、送信機の設定値が同じにならない場合があります。車体のリンケージで合わせてそれぞれの送信機で調整をおこなってください。
・MT-5ZのCODE AUXを使用してSSL対応機器をリアルタイムに設定変更する場合には、対応する機器を受信機のSSLポートに接続してください。
・フェールセーフの設定は必ずそれぞれの送信機でおこなってください。
・BINDする2台の送信機のRF MODEとレスポンスモードは全て同じにしてください。同じ設定になっていないと、2つの送信機でのBINDがおこなえません。
※違う設定の送信機を2台目の送信機としてBINDした場合には1台目にBINDした送信機のIDは消去され、上書きされます。
※3台目のBINDをおこなうと1台目にBINDした送信機のIDが消去されます。
※初めて使用される場合、MT-5Zと受信機はBIND（バインド）されておりません。
必ずBINDをおこなってからご使用ください。

アンテナの取り扱いについて（RX-493i）

●受信機とアンテナが搭載される場所により、送信機からの電波の受信距離が異なります。
●右図のようにアンテナを保護するために、必ずアンテナパイプにアンテナをいれてアンテナの先端がアンテナパイプの外部に出ないようにしてください。
●アンテナの内部で断線の恐れがありますので、アンテナを絶対に折り曲げないでください。
●アンテナを無理に引っ張らないでください。
受信機内部の破損の原因になります。
●RCカーに搭載したときにアンテナがなるべく高い位置になるように配置してください。
●受信感度が低下する恐れがありますので、アンテナを切断したり、束ねたりしないでください。
●受信機のアンテナはモーター、FETスピードコントローラー(配線も含む)から離して、垂直に立ててください。



INDEX へ戻る

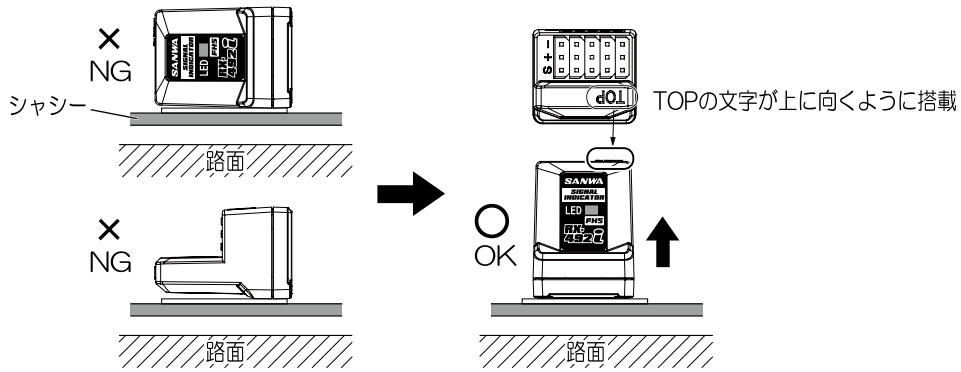
受信機の接続と搭載について

受信機の搭載について（RX-492i）

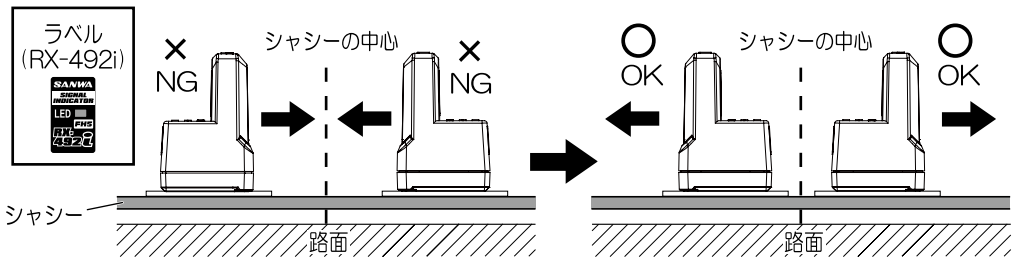
⚠ 1/10以下のEPカーへの搭載方法

RCカーに搭載する際は下図のようにシャシーに対して［ TOP ］の表記が上に向くように搭載してください。
それ以外の搭載方法では受信機の性能に悪影響をおよぼす可能性があります。

○受信機の取り付け面
　RX-492i 上面の［ TOP ］の文字がシャシーの上に向くように搭載してください。



○受信機の取り付け面
　RX-492i のラベルがシャシーの外側に向くように搭載してください。

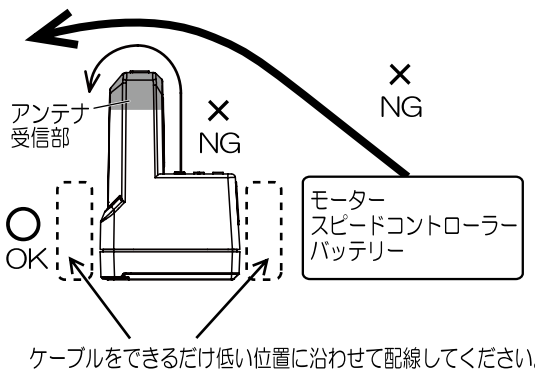


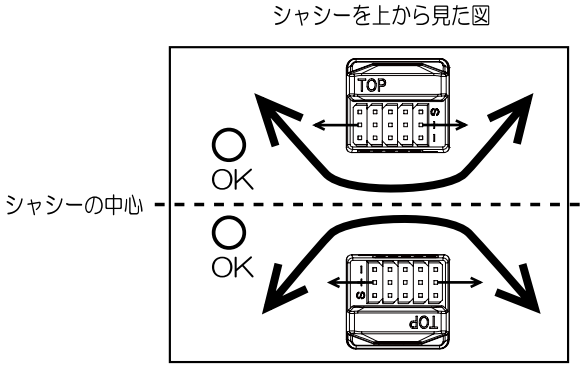
⚠ 受信機搭載時のケーブルの配線方法

受信機にサーボやスピードコントローラーを接続するケーブルまたはモーター、バッテリーのケーブルは受信機の上部に配線しないようにしてください。受信機の性能に悪影響をおよぼす可能性があります。

○下図のようにケーブル類の位置に注意してケーブルを配線してください。

モーター、バッテリーのケーブル ━━━
サーボ、スピードコントローラーのケーブル ———





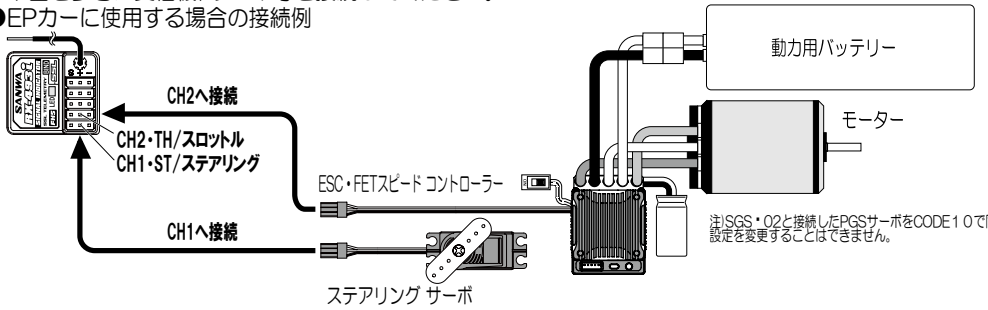
INDEX へ戻る

受信機の接続と搭載について

接続について

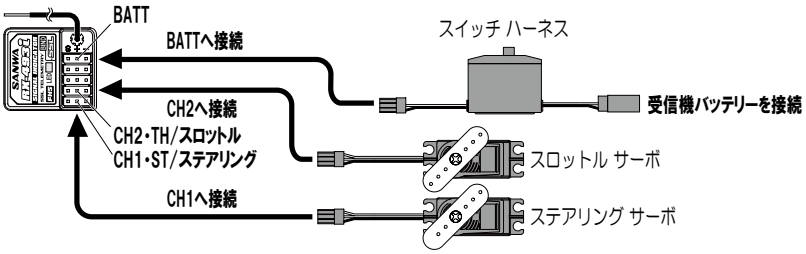
・下図を参考に受信機, サーボ等を接続してください。

●EPカーに使用する場合の接続例

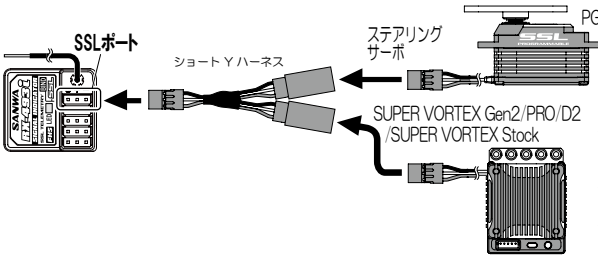


注)SGS・02と接続したPGSサーボをCODE１０で同時に設定を変更することはできません。

●GP(エンジン)カーに使用する場合の接続例

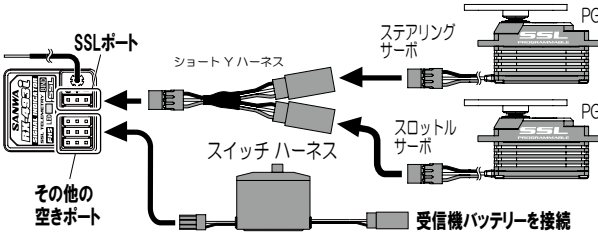


■PGSサーボとSUPER VORTEX Gen2/PRO/D2/SUPER VORTEX StockをSSLポートに接続する場合。



●送信機のAUX TYPEの設定はAUX1、AUX2共にCODE10にしてください。
AUX1 CODE10 : SUPER VORTEX Gen2/PRO/D2/SUPER VORTEX Stockの設定が送信機から可能になります。
AUX2 CODE10 : PGSサーボの各パラメーターの設定が送信機から可能になります。
注)SUPER VORTEX Gen2/PRO/D2においてはPROGRAM BOX Gen2のコード アサインでAUX2のCODE10へ機能を割り当てないでください。 PGSサーボのAUX2のCODE10と干渉してしまい適切な設定ができなくなります。
注)PGSサーボのSSL・CH設定を[１]に設定してください。
(PGSサーボの工場出荷設定は[１]となっております。)
注)SUPER VORTEX ZERO/SUPER VORTEX TYPE・D/SUPER VORTEX SPORTはAUX2のCODEを使用しているため、PGSサーボのAUX2のCODE10と干渉してしまい適切な設定ができなくなりますので、PGSサーボとのSSLの併用はできません。
注)SGS・02と接続したPGSサーボをCODE10で同時に設定を変更することはできません。
注)SSLポートにはSGS・02からのGAINコネクターを接続します。
詳しくはSGS・02の取扱説明書をご確認ください。
※SSLポートにはSSL機能に対応した三和製品のみを接続してください。
その他の製品についてはそれぞれの取扱説明書をご確認ください。

■PGSサーボを2台 SSLポートに接続する場合。



●送信機のAUX2のAUX TYPEの設定はCODE10にしてください。
AUX2 CODE10 : PGSサーボの各パラメーターの設定が送信機から可能になります。
注)ステアリング サーボに使用するPGSサーボのSSL・CH設定を[１]に設定してください。
スロットル サーボに使用するPGSサーボのSSL・CH設定を[２]に設定してください。
(PGSサーボの工場出荷設定は[１]となっております。)
注)AUX2のCODE10の機能で各パラメーターを設定する場合、AUX2のCODE1で設定したSSL・CHのPGSサーボが送信機からダイレクトに設定変更できます。AUX2のCODE1で指定されていないPGSサーボは内部に保存されているパラメーターで動作します。

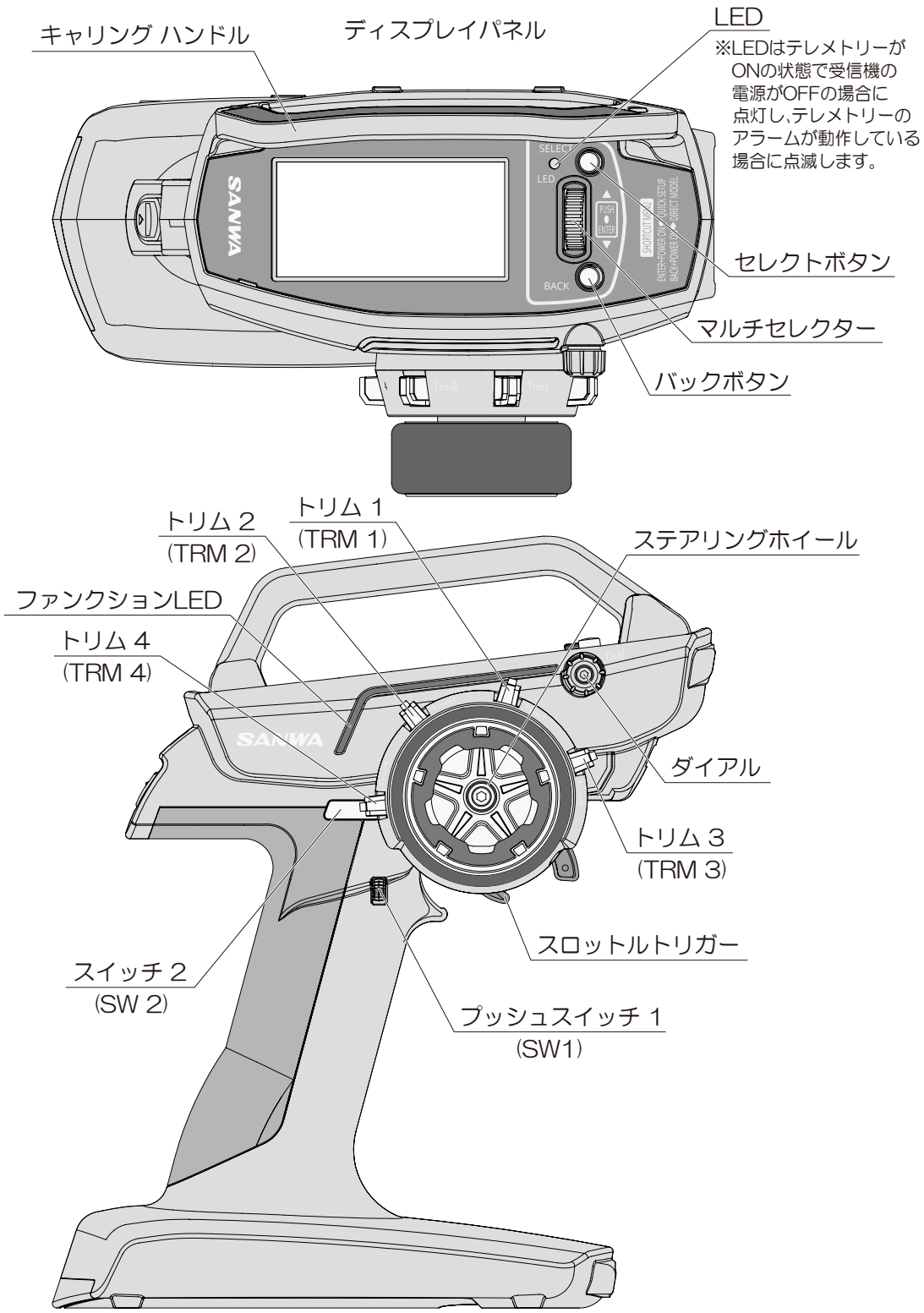
※上記以外の接続例は弊社HPを参照してください。https://www.sanwa-denshi.co.jp

注意

- ●走行中の振動でコネクターが抜けると暴走の危険があります。受信機、サーボ、スイッチ等のコネクターは確実に接続してください。
- ●受信機は振動、衝撃、水に弱いので防振/防水対策を確実におこなってください。対策をおこたると暴走の危険があります。
- ●受信機の取り付けはカーボンシャシー、金属シャシーから離して取り付けてください。
- ●RCカーに搭載している金属パーツ同士が接触するとノイズが発生し受信性能に悪影響をおよぼし、暴走の危険があります。
- ●電動RCカー用のブラシモーターには必ずノイズキラーコンデンサーを取り付けてください。
  ノイズキラーコンデンサーを取り付けていないと、ノイズが発生し暴走の危険があります。
- ●送信機、受信機、サーボ、FETスピードコントローラー、送信機バッテリー等のプロポパーツはSANWA純正品をご使用ください。

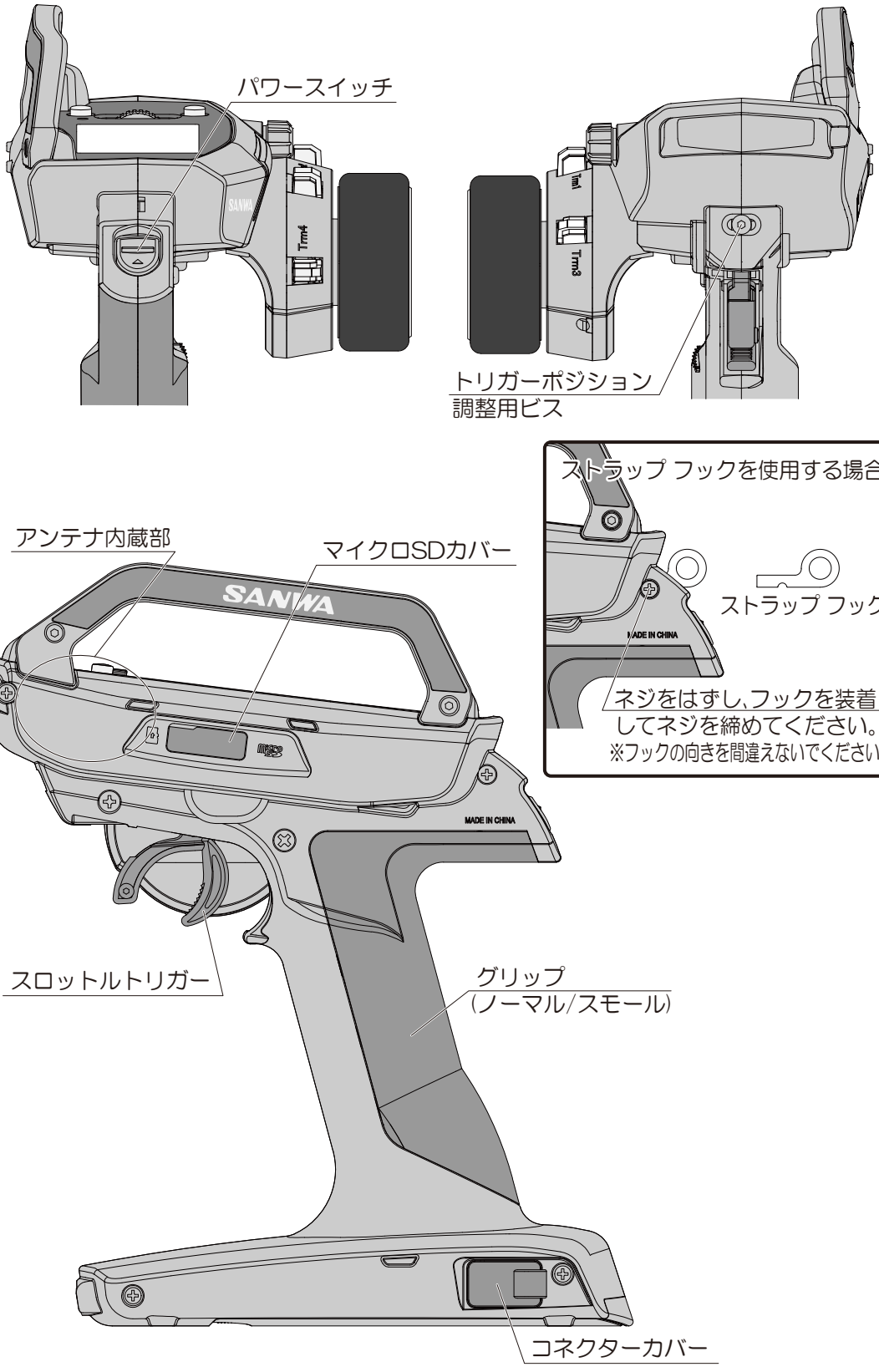
※SANWA純正品以外の組み合わせや当社以外で改造、調整、部品交換などがおこなわれた場合により発生した損害などにつきましては、当社では責任を負いません。

送信機各部の名称



INDEX へ戻る

送信機各部の名称

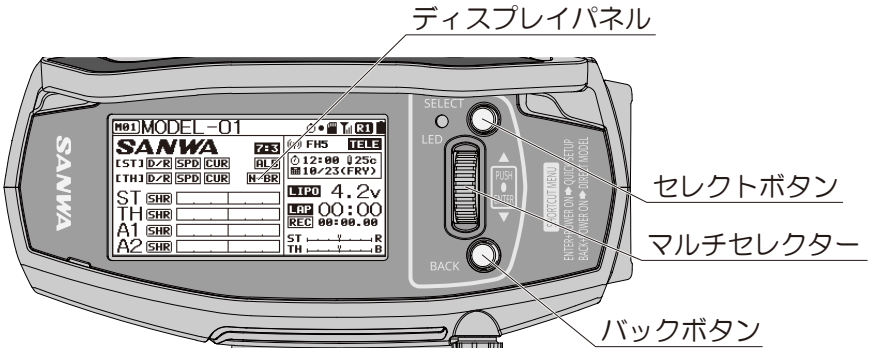


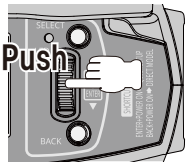
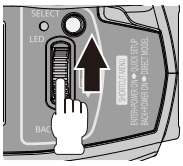
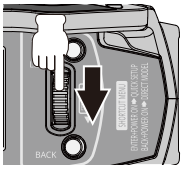
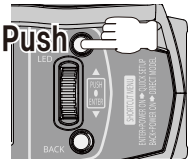
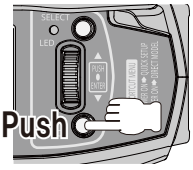
INDEX へ戻る

各機能の使用方法

キー操作について

●マルチセレクターとセレクトボタン / バックボタンで設定、呼び出しを簡単におこなえます。



キー操作	名　　称	動　　作
	エンター	●トップ画面から設定画面に移動します。 ●設定する機能、項目を選択します。 ※エンターキー長押しで設定値がリセットされ、初期値に戻ります。
	マルチセレクター アップ	●カーソルが上方向へ移動します。 ●設定値が増加します。
	マルチセレクター ダウン	●カーソルを下方向へ移動します。 ●設定値が減少します。
	セレクト	●チャンネルや機能を選択します。
	バック/キャンセル	●一つ前の状態に戻ります。 ●設定をキャンセルします。

電源切り忘れアラームについて

● MT-5Z はステアリングホイール、スロットルトリガーや各種スイッチを操作しない時間が 10 分経過すると警告のアラームと LED 点滅ともに「No Operation」と表示されます。ステアリングホイール、スロットルトリガーや各種スイッチを操作すると警告が解除されます。使用しないのであればパワースイッチを OFF してください。

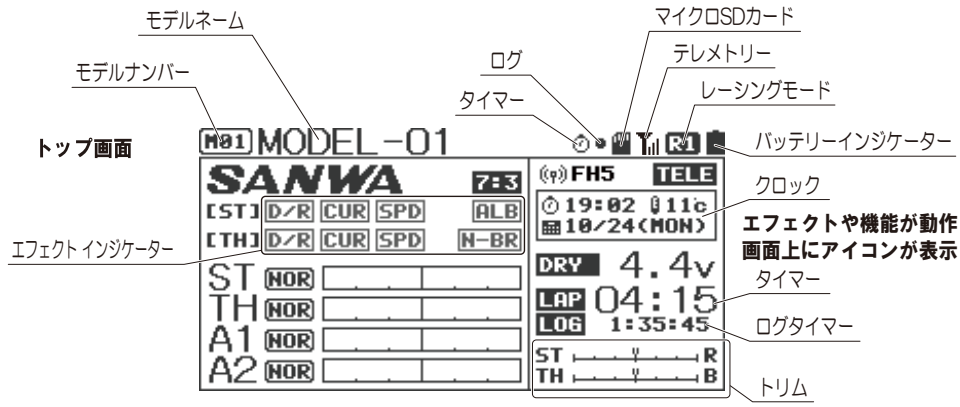
INDEX へ戻る

各機能の使用方法

ディスプレイパネルについて

- MT-5Z の各機能はマルチセレクターでダイレクトに機能を選択できるようになっています。
- それぞれのチャンネルの機能を別々に設定することができます。
- パワースイッチを ON にするとブート画面表示後（ブートの設定が DEMO の場合）にトップ画面が立ち上がります。
  各種設定を変更する場合はマルチセレクターを操作してメニューを選択してください。

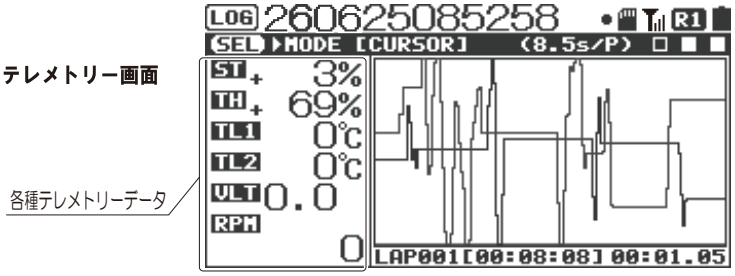
トップ画面



エフェクトや機能が動作している場合画面上にアイコンが表示されます。

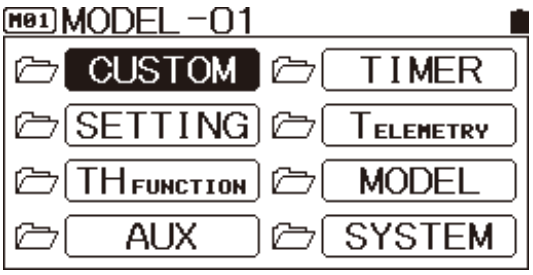
マルチセレクターでアップ/ダウンの操作をおこなうとトップ画面⇔テレメトリー画面の切り替えになります。

テレメトリー画面



RX-493i/RX-492i/RX-49Tと SUPER VOLTEX Gen2 PRO/SV-D2/ PGSシリーズ/SGS-02を使用して、テレメトリー機能をONにすると送信機にデータが送られテレメトリー画面に表示されます。

メニュー ウインド
・メニューを選びます。
（画面例）
※トップ画面から エンター操作

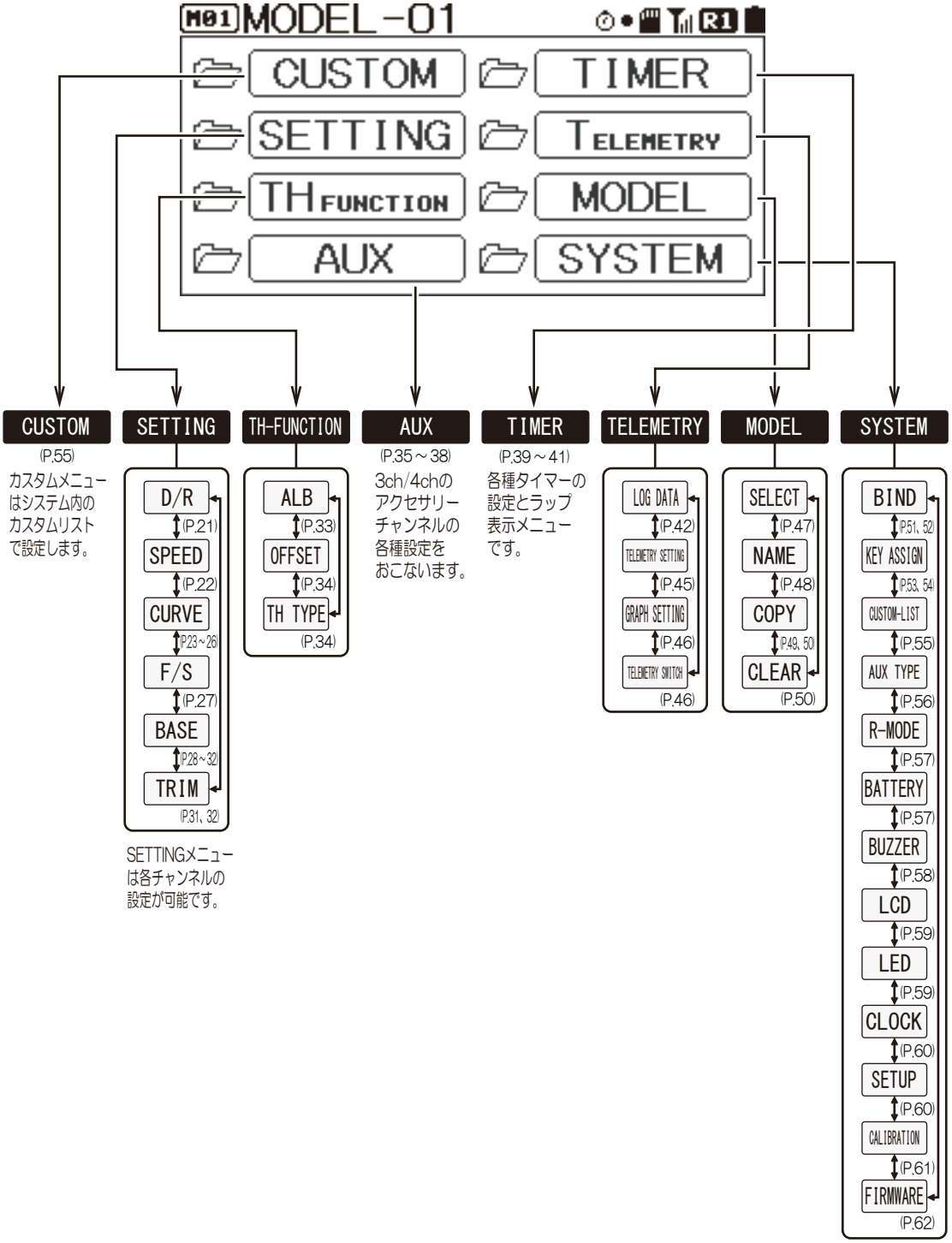


INDEX へ戻る

各機能の使用方法

メニュー構成について

●それぞれのキーを使用して、機能の設定やモデルメモリーの呼び出しなどを簡単におこなえます。
●メニューはセッティング、AUX、モデル、タイマー、テレメトリー、システムのメニューで構成されており、それぞれのメニュー内に関連する機能が含まれています。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

ショートカット メニューについて

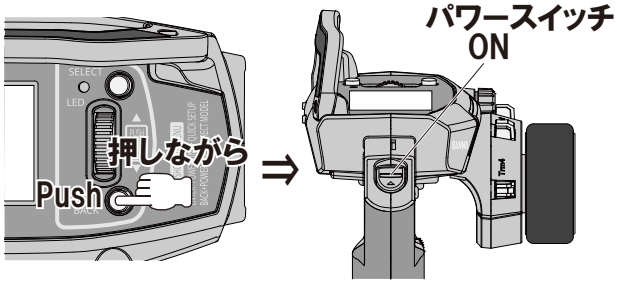
● MT-5Z にはパワースイッチを操作する際に同時にキー操作をおこなうことでショートカットメニューが立ち上がる機能が装備されています。
バックボタンを押しながらパワースイッチを ON するとダイレクトモデルセレクトになり、
エンター操作しながらパワースイッチを ON するとクイックセットアップ機能が起動します。
ダイレクトモデルセレクトは走行させるモデルを直ぐに選択できる機能で、
クイックセットアップ機能は新しい RC カーをセットアップする際など、簡単操作で各種設定がおこなえる機能です。

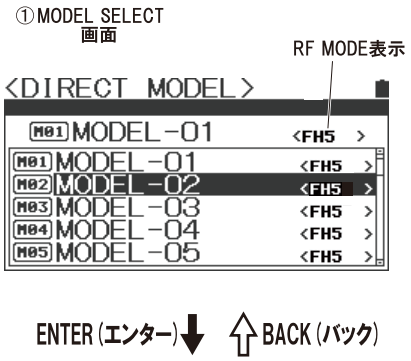
●クイックセットアップ機能は起動後エンター操作で
モデル選択→タイプ選択→モデル初期化→ RF モード選択→レスポンスモード選択→バインド→ベース設定の手順となります。

ダイレクトモデルセレクト < DIRECT MODEL >

●ダイレクトモデルセレクト

1) バックボタンを押しながらパワースイッチを ON します。

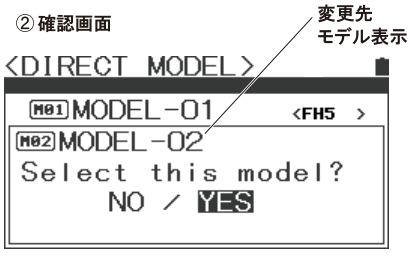




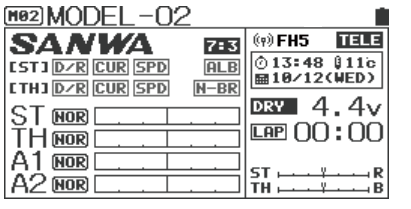
2) モデルの選択
マルチセレクターで呼び出したいモデルを選択します。

○設定範囲 M01 ～ M20

3) 呼び出すモデルにカーソルを移動し、
エンター操作をおこなうと画面上にメッセージが表示されますので、
表示にしたがってモデルセレクトをおこなってください。



・NO →①に戻る
・YES→モデルを変更しトップへ



INDEX へ戻る

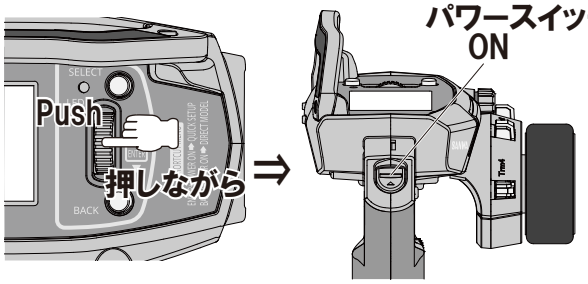
各機能の使用方法

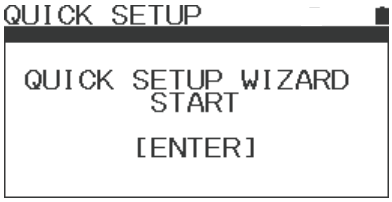
ショートカットメニューについて

クイック セットアップ < QUICK SETUP WIZERD >

●クイック セットアップ

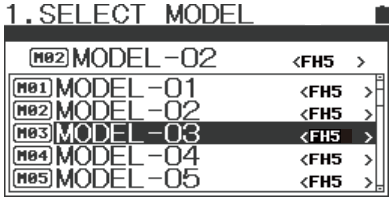
1) エンター操作しながらパワースイッチを ON します。





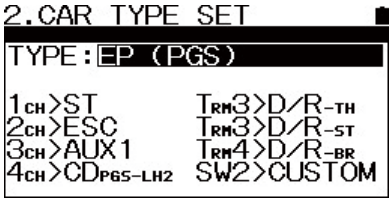
ENTER (エンター) BACK (バック)

2) クイック セットアップ画面が表示されます。
エンター操作するとクイック セットアップ
ウィザードがスタートします。



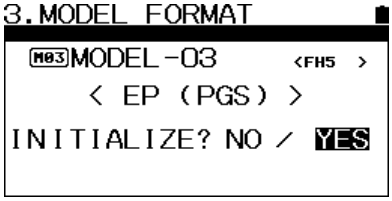
ENTER (エンター) BACK (バック)

3) モデルセレクト画面に切り替わり、設定する
モデルをマルチセレクターで選択します。
設定するモデルが確定したらエンター操作で
決定します。



ENTER (エンター) BACK (バック)

4) カータイプ セレクト画面に切り替わりますので
カータイプをマルチセレクターで選択します。
カータイプが確定したらエンター操作で
決定します。



ENTER (エンター) BACK (バック)

タイプ設定

○設定範囲
- EP CAR (PGS)
- EP CAR (DRIFT GYRO)
- EP CAR (SGS-02)
- EP CAR (SV-D2/SGS-02)
- EP CAR (SV-G2P/PGS)
- GP CAR ON ROAD (PGS)
- GP CAR OFF ROAD (PGS)
- 1/5 GP CAR DUAL BRAKE 1
- 1/5 GP CAR DUAL BRAKE 2
- CRAWLER 4WS/MOA

○初期値　EP (PGS)

※各タイプでのチャンネル動作は以下のようになります。

TYPE別チャンネル動作仕様

CH \ TYPE	EP CAR (PGS)	EP CAR (DRIFT GYRO)	EP CAR (SGS-02)	EP CAR (SV-D2/SGS-02)	EP CAR (SV-G2P/PGS)	GP CAR ON ROAD	GP CAR OFF ROAD	1/5 GP CAR DUAL BR1	1/5 GP CAR DUAL BR2	CRAWLER 4WS/MOA
CH1	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング	ステアリング 1	ステアリング	ステアリング F
CH2	ESC	ESC	ESC	ESC	ESC	スロットル /ブレーキ	スロットル /ブレーキ	スロットル /ブレーキ R	スロットル	ESC F
CH3	AUX1	DRIFT GYRO	AUX1	CODE10 (SV-D2)	CODE10 (SV-G2P)	AUX1	AUX1	ステアリング 2	ブレーキ R	ステアリング R
CH4	CODE10 (PGS-LHII)	AUX2	CODE10 (SGS-02)	CODE10 (SGS-02)	CODE10 (PGS-LHII)	CODE10 (PGS-XRII)	CODE10 (PGS-XBII)	ブレーキ F	ブレーキ F	ESC R

※使用するRCカーにあわせてタイプを選択してください。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

5) カータイプ設定を決定するとしてエンターで決定すると
イニシャライズ (モデル初期化) 画面に切り替ります。
メッセージに従ってイニシャライズをおこなってください。

6) イニシャライズ (モデル初期化) が完了すると
RF モード画面に切り替ります。
MT-5Z は FH5 のみの対応となります。

○初期値　FH5

・対応受信機　FH5
RX-493i、RX-492i、RX-49T

7) FH5 のみの対応のため、エンターで決定すると
レスポンス モード選択画面に切り替ります。
使用するサーボや機器にあわせて各チャンネルの
レスポンス モードを設定します。
アップキー / ダウンキーで設定し、エンター操作で
決定してください。

○設定範囲　NOR(ノーマル / アナログ サーボ)
SHR(ハイレスポンス / デジタル サーボ)
SSR(スーパーレスポンス /SRG サーボ)
SUR(ウルトラレスポンス /PGS サーボ)

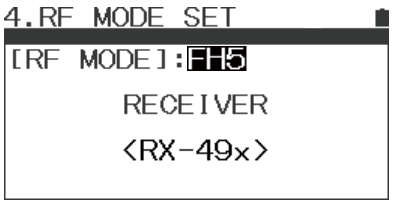
○初期値　NOR(ノーマル / アナログ サーボ)

8) レスポンス モードの設定が完了すると
BIND(バインド) 設定画面に切り替ります。
画面メッセージに従ってバインド作業を
おこなってください。

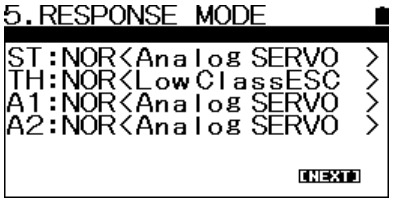
9) BIND(バインド) が終了するとベース設定画面に
切り替ります。各チャンネルの設定をおこなって
ください。(P.28~30)

10) ベース設定が終了するとセットアップ ウィザードは
終了します。エンター操作をおこなうと、トップ画面へ
切り替ります。

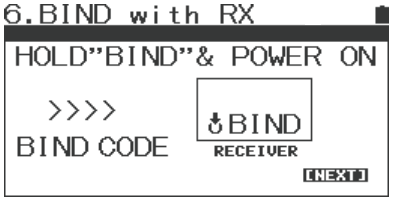
ENTER (エンター)　BACK (バック)



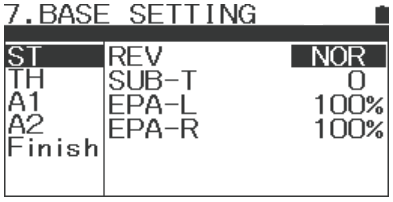
ENTER (エンター)　BACK (バック)

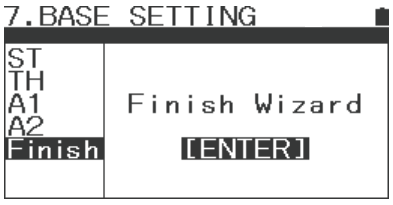


ENTER (エンター)　BACK (バック)



ENTER (エンター)　BACK (バック)





重要

- ●SHR/SSR/SURモードではアナログサーボは動作しませんのでご注意ください。
  誤ってSHR/SSR/SURモードでアナログサーボを使用すると正常に動作せずサーボが壊れますので、絶対にSHR/SSR/SURモードで
  アナログサーボを使用しないでください。
  デジタルサーボ(PGS、SRG、ERB、ERSシリーズ、Digital ERGシリーズ)の場合はNOR/SHRモードのどちらでも動作します。
- ●SSRモードはPGSサーボ、SRGサーボ、SUPER VORTEXシリーズ、HV-12 STOCK SPECIAL、HV-01のみ動作します。
- ●SURモードはPGSサーボ、SUPER VORTEX Gen2/PRO/D2のみ動作します。
- ●SHR/SSR/SURモードではBL-RACER、BL-FORCE、F2000、F2200、F3000、F3300、SBL-01、02、03CLは動作しません。
  必ずNORモードでご使用ください。
- ●BL-SIGMA、SV-08、HV-10、HV-12、F2500はNOR/SHRモードで動作します。
- ●お使いになるスピードコントローラーの取扱説明書を必ずお読みください。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

デュアル レート [D/R]　セッティング/SETTING

●ステアリング ホイール、スロットル トリガーを最大に操作したときの舵角を調整できます。
RC カーや路面コンディションに対応させるために走らせながら調整します。
※ステアリングは左右同時、スロットルはハイ側 / ブレーキ側を別々に調整することが可能です。
ブレーキ側も EPA で調整するよりも細かく調整できます。
●ステアリング ホイール / スロットル トリガーを操作してリンケージがロックする状態から
デュアル レート (D/R) の設定値を増やさないでください。
●スロットル側のデュアル レートを調整することで、より細かな調整が可能になります。
※ AUX1/AUX2 が CODE10 に設定されている場合には D/R の設定変更をおこなっても
動作には反映されません。

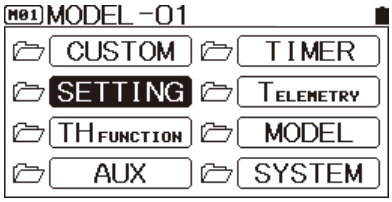
1) マルチセレクターで [SETTING] を選択して
エンター操作で決定します。

2) セレクトボタンで調整する機能
[ST / TH(H、L)/ AUX1 / AUX2] を選択します。

3) デュアルレートの設定値をマルチセレクター
で調整します。

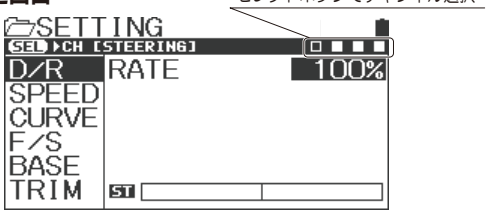
4) 走行中はステアリングデュアルレートがトリム3、
ブレーキデュアルレートがトリム 4 で調整できます。
キーアサイントリム機能でトリム3、トリム 4 に他の
機能を割り当てることが可能です。(P.54)
※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。

○設定範囲　ST / TH-H / AUX1 / AUX2 : 0%～ 100%
TH-L : 0% ～ 120%
○初期値　ST / TH / AUX1 / AUX2 : 100%



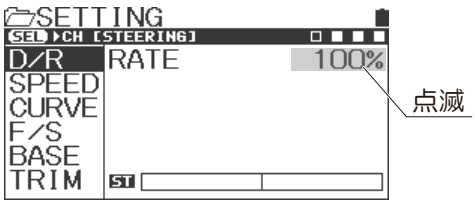
ENTER (エンター)　BACK (バック)

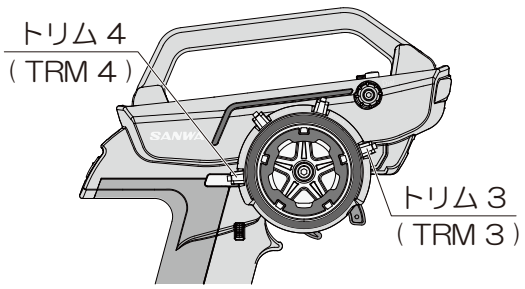
デュアルレート
設定画面



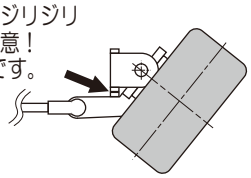
ENTER (エンター)　BACK (バック)

ステアリング
デュアル レート設定画面





※サーボがロックしてジリジリ
うならないように注意！
注)スロットルも同様です。



注意　●リンケージがロックした状態が長く続くと、
サーボモーター破損の原因になります。

補足　●デュアルレートの調整をおこなう前にステアリング/スロットル リンケージ
のエンド ポイント アジャストをおこなってください。(P.28、29)

INDEX へ戻る

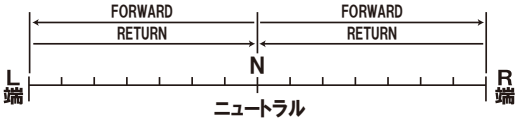
各機能の使用方法

スピード [SPEED]　セッティング/SETTING

●ステアリング / スロットルなどで使用するサーボのスピードを制御する機能です。設定することにより急激な操作をおこなっても RC カーには反応がでないようにすることができます。ステアリング側ではスムーズなコーナーワークが可能となり、スロットル側ではパワーセーブしたスロットルワークでコーナーから安定した立ち上がりを実現します。
※ AUX の TYPE を [CODE10] に設定すると AUX チャンネルのスピード機能を調整しても動作に反映されません。
※ AUX チャンネルのスピード設定はステアリング / スロットルを参考にして調整してください。

[ST] ステアリング・スピード

●ステアリング操作に対してステアリング サーボのスピードを遅らせる機能です。ステアリングをきるとき（フォワード）と戻すとき（リターン）のスピードを独立して設定できます。なお、設定より遅いステアリング操作ではスピード機能は働きません。



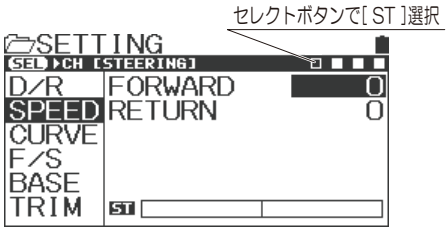
1) セレクトボタンで [ST(ステアリング)] を選択します。

2) フォワード側の設定 (FORWARD)
[FORWARD] を選択してマルチセレクターで設定値を調整します。
※選択した機能をキャンセルする場合にはバックキーを操作してください。

○設定範囲　0 ～− 100
○初期値　0

3) リターン側の設定 (RETURN)
[RETURN] を選択してマルチセレクターで設定値を調整します。

○設定範囲　0 ～− 100
○初期値　0



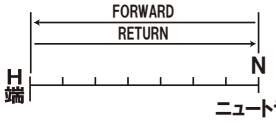
※実際に走行しながら調整をおこなってください。機能を使用しないときや調整しても設定値が決まらないときは設定値を 0% (リニア) にしてください。

補足
●RCカーのドライビングではRCカーの動きにあわせたステアリング操作が重要であり過大操作は禁物です。ステアリング-スピードは無駄な操作をおさえ、スムーズなコーナリングを実現できます。
●ステアリング-スピードとステアリング-カーブを併用するとさらに効果が倍増します。

[TH] スロットル・スピード

●スロットル操作に対してスロットル サーボの動作スピードやスピードコントローラーの反応を遅らせる機能です。スロットルをいれるとき (フォワード) と戻すとき (リターン) のスピードを独立して設定できます。なお、設定より遅いスロットル操作ではスピード機能は働きません。※ハイ側のみの設定となり、ブレーキ側は設定できません。

1) セレクトボタンで [TH(スロットル)] を選択します。

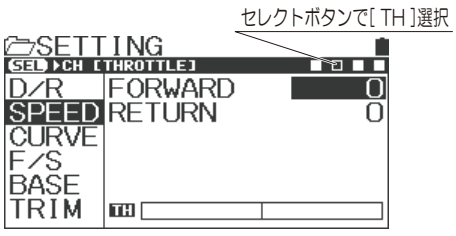


2) フォワード側の設定 (FORWARD)
[FORWARD] を選択してマルチセレクターで設定値を調整します。
※選択した機能をキャンセルする場合にはバックキーを操作してください。

○設定範囲　0 ～− 100
○初期値　0

3) リターン側の設定 (RETURN)
[RETURN] を選択してマルチセレクターで設定値を調整します。

○設定範囲　0 ～− 100
○初期値　0



※実際に走行しながら調整をおこなってください。機能を使用しないときや調整しても設定値がきまらないときは設定値を 0% (リニア) にしてください。

補足
●RCカーのドライビングではRCカーの動きにあわせたスロットル操作が重要であり過大操作は禁物です。スロットル-スピードは無駄な操作をおさえ、スムーズな動作を実現できます。
●スロットル-スピードとスロットル-カーブを併用するとさらに効果が倍増します。

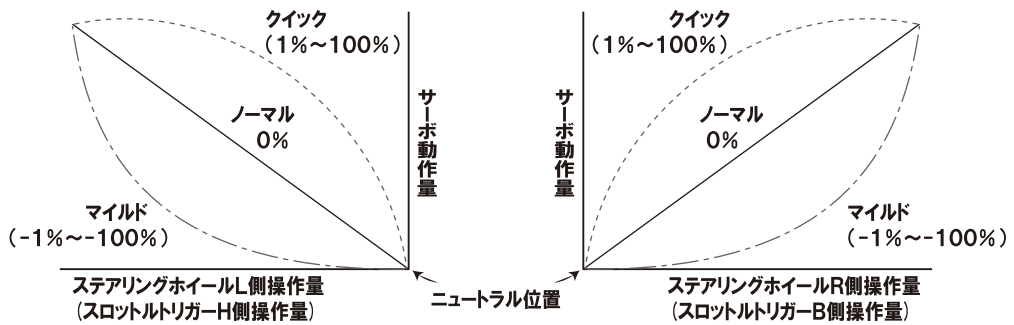
INDEX へ戻る

各機能の使用方法

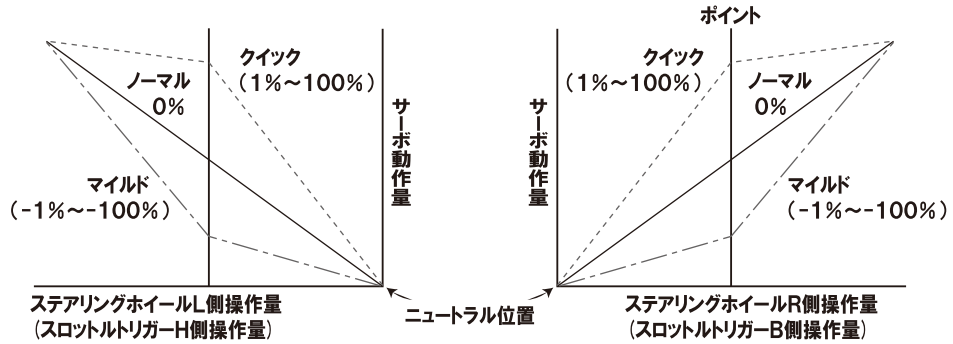
カーブ [CURVE]　セッティング/SETTING

●ステアリング ホイール / スロットル トリガーの操作に対してサーボの動作量を可変させる機能です。
設定値をプラス (＋) 側にするとクイックに。マイナス (－) 側にするとマイルドに反応します。
●曲線的な動作のエクスポネンシャル (EXP) と直線的な動作のアジャスタブル レート コントロール (ARC) の動作を選択できます。
※ AUX の TYPE を [CODE] に設定すると AUX チャンネルのカーブ機能を調整しても動作に反映されません。
※ AUX チャンネルのカーブ設定はステアリング / スロットルを参考にして調整してください。

・エクスポネンシャル (EXP)



・アジャスタブル レート コントロール (ARC)
POINT の設定を調整することで動作が可変する位置を変えることができます。



[ST] ステアリング・エクスポネンシャル

●ステアリング特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。一般的に RC カーがオーバーステアに感じられるときは設定値をマイナス側に設定し、アンダーステアに感じたときは数値をプラス側に設定します。
ステアリング・エクスポネンシャルは L/R 同時設定になります。

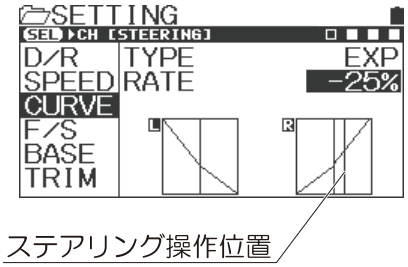
1) セレクトボタンで ST を選択して、
マルチセレクターにより ST の
CURVE TYPE を [EXP] に設定します。

2) マルチセレクターで設定値を調整します。

○設定範囲　－ 100% ～ 100%

○初期値　　0%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。

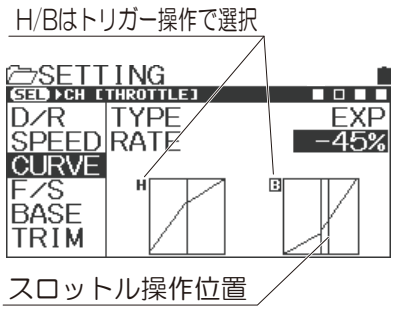


INDEX へ戻る

各機能の使用方法

[TH] スロットル・エクスポネンシャル

●スロットル特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。一般的に滑りやすい路面やオーバーパワーと感じるときには設定値をマイナス側に設定し、ハイグリップな路面状況やパワーユニットにパワー不足を感じるときには設定値をプラス側に設定します。
ハイ側 / ブレーキ側を個別に設定可能です。
※ハイ側 / ブレーキ側の選択はトリガー操作によっておこないます。



1) セレクトボタンで TH を選択して、
マルチセレクターにより TH の
CURVE TYPE を [EXP] に設定します。

2) マルチセレクターで設定値を調整します。

○設定範囲　-100% ～ 100%

○初期値　　0%

[AUX1] AUX1・エクスポネンシャル

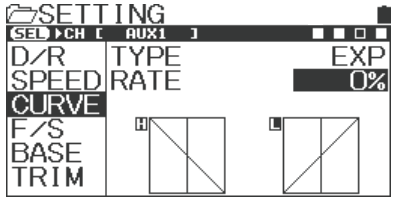
● AUX1 の動作特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。
ハイ側 / ロー側を個別に設定可能です。
※ AUX TYPE で AUX1 を [CODE10] に設定すると設定値を変更しても動作には反映されません。

1) セレクトボタンで AUX1 を選択して、
マルチセレクターにより AUX1 の
CURVE TYPE を [EXP] に設定します。

2) マルチセレクターで設定値を調整します。

○設定範囲　-100% ～ 100%

○初期値　　0%



[AUX2] AUX2・エクスポネンシャル

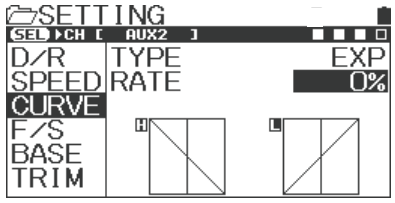
● AUX2 の動作特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。
ハイ側 / ロー側を個別に設定可能です。
※ AUX TYPE で AUX2 を [CODE10] に設定すると設定値を変更しても動作には反映されません。

1) セレクトボタンで AUX2 を選択して、
マルチセレクターにより AUX2 の
CURVE TYPE を [EXP] に設定します。

2) マルチセレクターで設定値を調整します。

○設定範囲　-100% ～ 100%

○初期値　　0%



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

カーブ [CURVE]　セッティング/SETTING

[ST]　ステアリング・アジャスタブル レート コントロール

●ステアリング特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。一般的に RC カーがオーバーステアに感じられるときは設定値をマイナス側に設定し、アンダーステアに感じたときは数値をプラス側に設定します。ステアリング・アジャスタブル レート コントロールは L/R 同時設定になります。

1) セレクトボタンで ST を選択して、マルチセレクターにより ST の CURVE TYPE を [ARC] に設定します。

2) レートの設定 (RATE)
マルチセレクターで [RATE] を選択して設定値を調整します。

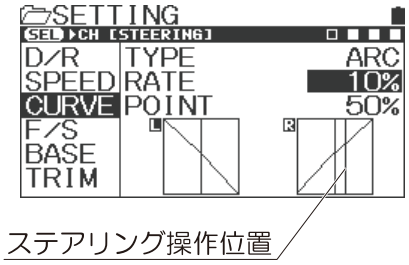
〇設定範囲　－ 100% ～ 100%

〇初期値　　0%

3) ポイントの設定 (POINT)
マルチセレクターで [POINT] を選択して設定値を調整します。

〇設定範囲　1% ～ 99%

〇初期値　　50%



※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。

[TH]　スロットル・アジャスタブル レート コントロール

●スロットル特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。一般的に滑りやすい路面やオーバーパワーと感じるときには設定値をマイナス側に設定し、ハイグリップな路面状況やパワーユニットにパワー不足を感じるときには設定値をプラス側に設定します。ハイ側 / ブレーキ側を個別に設定可能です。
※ハイ側 / ブレーキ側の選択はトリガー操作によっておこないます。

1) セレクトボタンで TH を選択して、マルチセレクターにより TH の CURVE TYPE を [ARC] に設定します。

2) レートの設定 (RATE)
マルチセレクターで [RATE] を選択して設定値を調整します。

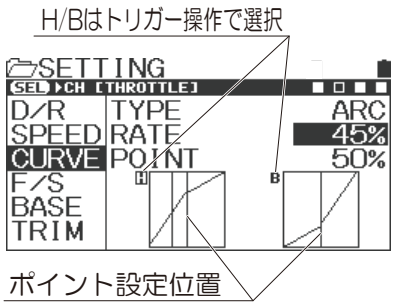
〇設定範囲　－ 100% ～ 100%

〇初期値　　0%

3) ポイントの設定 (POINT)
マルチセレクターで [POINT] を選択して設定値を調整します。

〇設定範囲　1% ～ 99%

〇初期値　　50%



※選択した機能をキャンセルする場合にはバックボタンを操作してください。
※セッティングアドバイス
ドリフトカードリフトカーなどでよりスムーズなスロットル操作を行う場合には、
Hの POINT(ポイント) を 30%程で RATE(レート) を -15%程に設定して効果を見て下さい。

INDEX へ戻る

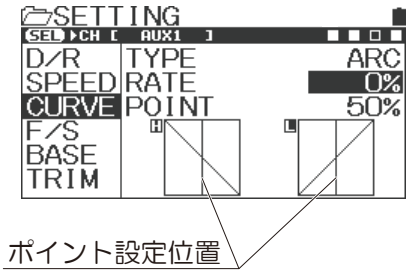
各機能の使用方法

カーブ [CURVE]　セッティング/SETTING

[AUX1] AUX1・アジャスタブル レート コントロール

● AUX1 の動作特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。
ハイ側 / ロー側を個別に設定可能です。
※ AUX TYPE で AUX1 を [CODE10] に設定すると設定値を
変更しても動作には反映されません。

1) セレクトボタンで AUX1 を選択して、
マルチセレクターにより AUX1 の
CURVE TYPE を [ARC] に設定します。



ポイント設定位置

2) レートの設定 (RATE)
マルチセレクターで [RATE] を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲　-100% ～ 100%

○初期値　　0%

3) ポイントの設定 (POINT)
マルチセレクターで [POINT] を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲　1% ～ 99%

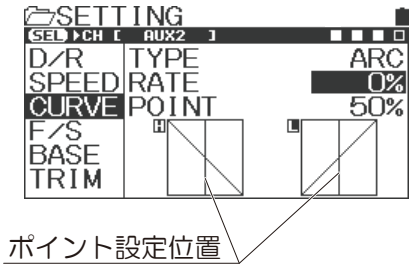
○初期値　　50%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。

[AUX2] AUX2・アジャスタブル レート コントロール

● AUX2 の動作特性をマイルド⇔リニア⇔クイックまで可変できます。
ハイ側 / ロー側を個別に設定可能です。
※ AUX TYPE で AUX2 を [CODE10] に設定すると設定値を
変更しても動作には反映されません。

1) セレクトボタンで AUX2 を選択して、
マルチセレクターにより AUX2 の
CURVE TYPE を [ARC] に設定します。



ポイント設定位置

2) レートの設定 (RATE)
マルチセレクターで [RATE] を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲　-100% ～ 100%

○初期値　　0%

3) ポイントの設定 (POINT)
マルチセレクターで [POINT] を選択して
設定値を調整します。

○設定範囲　1% ～ 99%

○初期値　　50%

※選択した機能をキャンセルする場合には
バックボタンを操作してください。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

フェール セーフ [F/S]　セッティング/SETTING

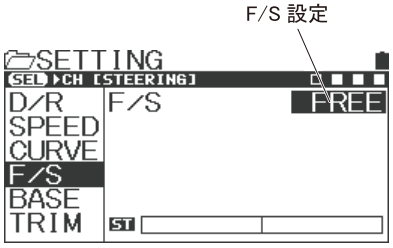
●フェール セーフとは受信機が送信機からの電波を受信できないような状況になった場合に各チャンネルをあらかじめ設定した位置にサーボを保持させる機能で、エンジン RC カーで受信機側のバッテリー電圧が設定電圧以下になった場合にスロットルチャンネル (2ch) のサーボをあらかじめ設定した位置にサーボを保持させる機能がバッテリー フェール セーフです。
●バッテリー フェール セーフはスロットルチャンネル (2ch) が FREE / HOLD に設定されている場合は設定できません。(※バッテリー フェール セーフはスロットル チャンネルにのみ動作します。)
※電動 RC カーではバッテリー フェール セーフの機能は使用しないでください。

1) マルチセレクターで [F/S] を選択して、セレクトボタンで
フェール セーフを設定するチャンネル (ST / TH / AUX1 / AUX2)
を選択します。

2) 設定するしたチャンネルでエンターしてマルチセレクターを
操作するとフェール セーフのモード設定が
FREE → FS → HOLD の順番で切り替ります。

○設定範囲　FREE / FS(100% ～ -100%)/HOLD

○初期設定　FREE



※各モードについて
FREE (フリー モード) ・・・・・受信機が送信機からの電波を受信できなくなるとサーボへの信号出力を停止してサーボはフリーの状態になります。

FS(フェール セーフ モード) ・・・受信機が送信機からの電波を受信できなくなると設定した位置にサーボを保持します。
HOLD (ホールド モード) ・・・・受信機が送信機からの電波を受信できなくなる直前の位置を保持します。

※ステアリングにジャイロを使用する場合は HOLD に設定してお使いください。
FREE の場合ジャイロが誤動作したりする場合がありますのでご注意ください。

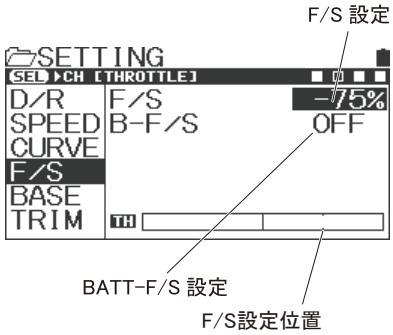
・FREE/HOLD/FS の各モードは送信機からの信号を再び受信できるようになった場合は自動的に解除します。

3) フェール セーフ (FS) の設定
フェール セーフ モードで動作させる位置に操作して、位置が決定したらエンター操作の長押しで
フェール セーフが働いたときの位置を設定します。
※安全面からフェール セーフの設定はスロットル チャンネルをブレーキ側に設定することをおすすめします。

4) バッテリー フェール セーフの設定
スロットル チャンネルの位置を設定後、カーソルを [B-F/S] に移動して電圧を設定します。

○設定範囲　：OFF、3.5v ～ 7.4v

※バッテリー フェール セーフは GP カーで使用した場合に
受信機バッテリーの電圧が設定した電圧になると
フェールセーフが動作する機能です。
電動 RC カーではバッテリーフェールセーフの機能は
使用しないでください。



5) フェール セーフの確認
フェール セーフの設定がおこなわれている状態で送信機の
電源を OFF にして、フェール セーフを設定したポジション
にサーボが移動するか確認してください。

重要
●フェール セーフについて
フェール セーフ機能をONにした場合は走行前にフェール セーフの設定を確認してください。
走行中にフェール セーフの設定を変更しないでください。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

ベース [BASE]　セッティング/SETTING

●ベース [BASE] とは RC カーに合わせて各チャンネルのサーボやスピードコントローラー等の動作方向を決めるリバースやニュートラル位置を調整するサブトリム、動作量を設定するエンド ポイント アジャスト (EPA) の機能を一つの機能 (ベース) に集約させて一括で設定できるようにした機能です。

リバース[REV]

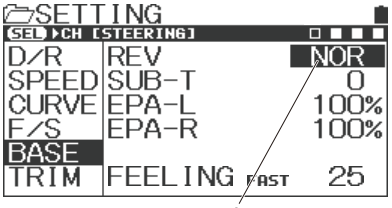
●ステアリング / スロットル /AUX1/AUX2 を操作したときに、操作とサーボの動作が逆になる場合に使用します。

1) マルチセレクターで [BASE] を選択して、セレクトボタンで設定するチャンネル (ST / TH / AUX1 / AUX2) を選択します。

2) 設定するチャンネルでエンター操作してマルチセレクターを操作するとリバースの設定が切り替わります。
※選択した機能をキャンセルする場合にはバックキーを操作してください。

○設定範囲　NOR/REV

○初期値　NOR



REV設定

サブ トリム[SUB-T]

●サブ トリム機能を使用してステアリング / スロットル /AUX1/AUX2 のニュートラル (センター) を補正し、トリムはセンター位置で使用できるようにします。RC カーへサーボを搭載するときにサブ トリムでサーボのセンターを出してからエンド ポイント アジャストの調整をおこなってください。

1) 使用する前に各メイン トリムをセンター (0) にしてください。

2) マルチセレクターで [SUB-T] を選択して、セレクトボタンでサブトリムの調整をおこなうチャンネル (ST / TH / AUX1 / AUX2) を選択します。

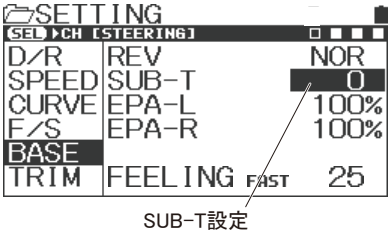
3) 設定するチャンネルでエンター操作して決定します。

4) サーボ ホーン (サーボセーバー ホーン) をセンター位置にいちばん近いところに取り付けます。
※サーボ ホーンの取り付け位置については車体側の取扱説明書にしたがってください。

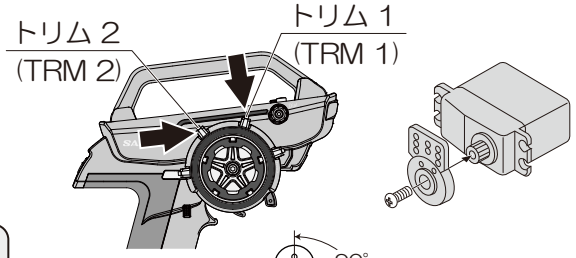
5) マルチセレクターを操作してセンターを調整します。

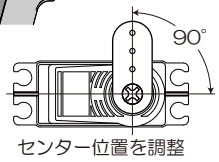
○設定範囲　L150 ～ R150(ST)、
H150 ～ B150(TH)、
H150 ～ L150(AUX1、AUX2)

○初期値　0



SUB-T設定





センター位置を調整

⚠ 注意

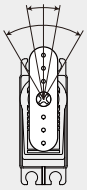
●サーボにサーボ ホーンを取り付ける際に、できるだけセンターに近い位置でサーボ ホーンを固定してサブ トリムでセンターを出してください。
サブ トリムと送信機メイン トリムが片方にかたよると、ステアリング ホイールやスロットルトリガーにデッドバンド(サーボが動かない領域)が発生します。

重要

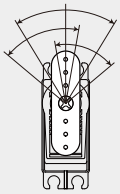
●トリムとサブ トリムについて

トリムとは、サーボのニュートラル(センター)位置を調整する機能です。ステアリング サーボを車体に搭載後走行させて直進しない場合にステアリングのメイン トリムを調整します。
また、エンジンRCカーでのキャブレターのニュートラル位置はサーボ搭載後にリンケージ調整と共にスロットルサーボのニュートラル調整の必要があります。
ニュートラル位置の調整はサーボ搭載後におこなうだけでなく、タイヤの磨耗やシャシーのねじれなど走行中の変化に対応するためにも必要になります。
MT-5Zのトリムは動作角の端はそのままでニュートラル位置だけを調整するセンター トリムと動作角の端とニュートラル位置を一緒に動かすパラレル トリムの2種類があります。サーボ ホーンを固定する前にニュートラル(センター)位置を調整するサブ トリムはパラレル トリムで、メイントリムがセンタートリムです。

○センター トリム(メイン トリム)
トリムでニュートラル位置を移動しても動作角の端は動きません。



○パラレル トリム(サブ トリム)
トリムでニュートラル位置を移動すると動作角の端も一緒に移動します。
リンケージをおこなった後でサブトリムを調整した場合はエンド ポイント アジャスト (EPA)の再調整が必要になります。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

ベース [BASE]　セッティング/SETTING

●ベース [BASE] とは RC カーに合わせて各チャンネルのサーボやスピードコントローラー等の動作方向を決めるリバースやニュートラル位置を調整するサブトリム、動作量を設定するエンド ポイント アジャスト (EPA) の機能を一つの機能 (ベース) に集約させて一括で設定できるようにした機能です。

エンド ポイント アジャスト[EPA]

●ステアリング ホイール / スロットル トリガーを操作した際のステアリング サーボの左右動作量の調整、スロットル サーボのハイ側、ブレーキ側動作量の調整や AUX1、AUX2(3ch、4ch) のサーボ動作量の調整が可能です。

[ST-EPA]　ステアリング・エンド ポイント アジャスト

●リンケージやサスバランス、タイヤ径の違いなどから左右のコーナリング半径が違う事があります。
このようなときに左右のサーボ動作量を調整して左右のコーナリング半径が同じになるように調整します。

1) ステアリング・エンド ポイント アジャスト (ST-EPA) を調整する前にサーボのニュートラル調整 (P.27) をおこなってください。
・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボ ホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブ トリムでセンター位置をあわせることです。

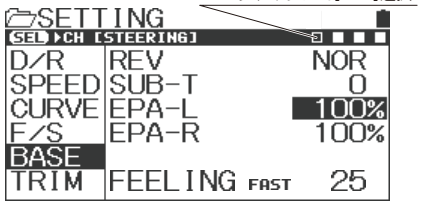
2) マルチセレクターで [EPA-L / EPA-R] のどちらかを選択してエンターで決定します。

3) 動作量をマルチセレクターで調整します。
※カーソルが EPA-L / EPA-R のどちらかに有る場合はステアリング操作でもカーソル移動が可能です。

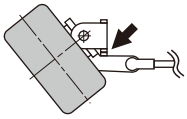
○設定範囲　L/R 0～ 150%

○初期値　L/R 100%

セレクトボタンで[ST]選択



※サーボがロックしてジリジリうならないように注意！



注意 ●リンケージがロックした状態が長く続くと、サーボ破損の原因になります。

[TH-EPA]　スロットル・エンド ポイント アジャスト

●FET スピードコントローラーのハイ ポイント、ブレーキ ポイントの調整、エンジンカーのキャブレター、ブレーキ動作量の調整をおこないます。

1) エンジンカーの場合にはスロットル・エンド ポイント アジャスト (TH-EPA) を調整する前にサーボのニュートラル調整 (P.27) をおこなってください。
・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボ ホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブ トリムでセンター位置をあわせることです。

2) セレクトボタンで [TH / スロットル] を選択します。

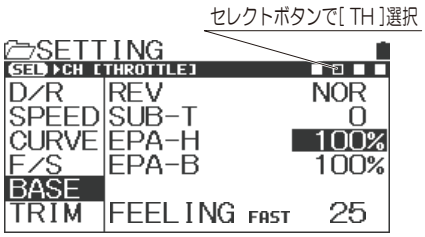
3) マルチセレクターで [EPA-H / EPA-B] のどちらかを選択してエンターで決定します。

4) マルチセレクターで動作量を調整します。
FET スピードコントローラーを調整する場合には通常ハイ側、ブレーキ側共に設定値を 100% にしておき、FET スピードコントローラー側でニュートラル、ハイポイント、ブレーキポイントを設定します。
(FET スピードコントローラーによって設定方法が異なります。)
※カーソルが EPA-H / EPA-B のどちらかに有る場合はトリガー操作でもカーソル移動が可能です。

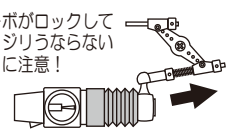
○設定範囲　H/B 0～ 150%

○初期値　H/B 100%

セレクトボタンで[TH]選択



※サーボがロックしてジリジリうならないように注意！



注意 ●スロットル リンケージでキャブレター全開側、ブレーキ側のEPA設定値が大きすぎるとサーボがロックした状態になりサーボ モーターの故障原因となり、暴走の危険があります。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

[AUX1-EPA] AUX1・エンド ポイント アジャスト

● AUX1 はアクセサリー等の動作に使用でき、EPA により最大舵角 (動作量) の調整が可能です。
H(ハイ)/L(ロー) 個別に設定可能なので、こまかい調整が可能です。
※ AUX TYPE で AUX1 を [CODE10] に設定すると EPA を調整しても動作は反映されません。

1)AUX1・エンド ポイント アジャスト (AUX1-EPA) を調整する前にサーボのニュートラル調整 (P.27) をおこなってください。
・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボ ホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブ トリムでセンター位置をあわせることです。

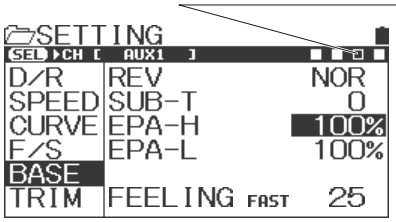
2) セレクトボタンで [AUX1] を選択します。
マルチセレクターで [EPA-H / EPA-L] のどちらかを選択してエンターで決定します。

3) マルチセレクターで動作量を調整します。

○設定範囲　H/L 0～ 150%

○初期値　　H/L 100%

セレクトボタンで[AUX1]選択



[AUX2-EPA] AUX2・エンド ポイント アジャスト

● AUX2 はアクセサリー等の動作に使用でき、EPA により最大舵角 (動作量) の調整が可能です。
H(ハイ)/L(ロー) 個別に設定可能なので、こまかい調整が可能です。
※ AUX TYPE で AUX2 を [CODE10] に設定すると EPA を調整しても動作は反映されません。

1)AUX2・エンド ポイント アジャスト (AUX2-EPA) を調整する前にサーボのニュートラル調整 (P.27) をおこなってください。
・ニュートラル調整とは、電源を入れてサーボ ホーンをおおよそのセンター位置に取り付け、サブ トリムでセンター位置をあわせることです。

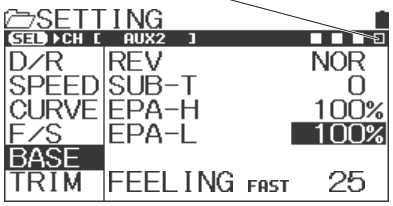
2) セレクトボタンで [AUX2] を選択します。
マルチセレクターで [EPA-H / EPA-L] のどちらかを選択してエンターで決定します。

3) マルチセレクターで動作量を調整します。

○設定範囲　H/L 0～ 150%

○初期値　　H/L 100%

セレクトボタンで[AUX2]選択



フィーリング [FEELING]

●ステアリングとスロットルの設定を別々に変更することで操作した際の動作フィーリングを変えることができます。

1)マルチセレクターで [BASE]を選択して、セレクトボタンで設定するチャンネル(ST /TH)を選択します。
※フィーリング機能はAUXチャンネルには設定できません。

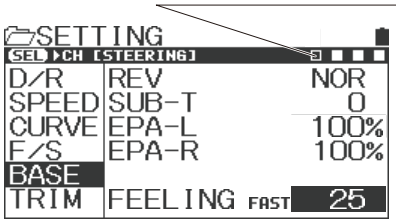
2)マルチセレクターで [FEELING] を選択して、フィーリング機能を設定します。

○設定範囲　ST : 25～1
　　TH : 25～1

○初期値　　ST : 25
　　TH : 25

※25が最速のレスポンスを発揮する設定になります。
25・・・1と設定変更可能ですが速く細かい動作の25から変化して、1が一番荒い動作になります。
※設定変更しても再BINDの必要はありません。
※BINDのレスポンス モードのように使用する機器による動作の制約はありません。
※フィーリングの設定はステアリング、スロットルのみの設定になります。

セレクトボタンで[ST/TH]選択



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

トリム [TRIM]　セッティング/SETTING

●トリムは各チャンネルのトリムの調整とトリム動作（センター / パラレル）の設定がおこなえます。

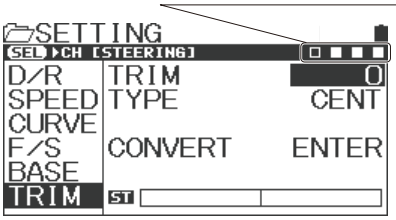
トリム[TRIM]

●トリムでそれぞれのチャンネル（ST / TH / AUX1 / AUX2）のニュートラル（センター）を補正します。
●初期設定ではトリム 1（TRM1）にステアリング、トリム 2（TRM2）にスロットルが設定されています。

1) トリム調整をおこなうチャンネル（ST / TH / AUX1 / AUX2）をセレクトボタンで選択します。

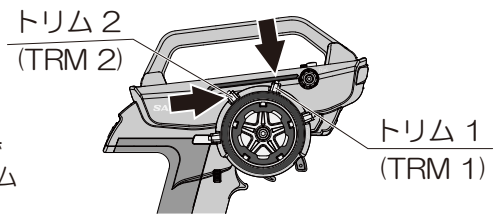
2) エンター操作で決定してマルチセレクターで調整します。

セレクトボタンでチャンネル選択



○設定範囲　ST：L100 ～ R100
TH：H100 ～ B100
AUX1：H100 ～ L100
AUX2：H100 ～ L100

○初期値　ST：0
TH：0
AUX1：0
AUX2：0



※エンターキーの長押しで設定値をリセットできます
※走行中のトリム調整は TRM1（ST）、TRM2（TH）で調整してください。キー アサイン トリム機能でトリムレバーの位置変更が可能です。（P.54）

重要
●トリムについて
トリムとは、サーボのニュートラル(センター)位置を調整する機能です。
ステアリング サーボを車体に搭載後、走行させて直進しない場合にトリムで調整します。
ニュートラル位置の調整は、サーボ搭載後におこなうだけでなくタイヤの磨耗やシャシーのねじれなど走行中の変化に対応するためにも必要になります。
●リンケージ調整をするときにセンター位置を調整するのはサブ トリムです。（P.28）

注意
●トリムとサブ トリムが片側にかたよると、ステアリング ホイールやスロットル トリガーにデッドバンド(サーボが動かない領域)が発生します。サーボホーンを取り付ける際にできるだけセンターに近い位置で固定してサブ トリムでセンターを出してください。

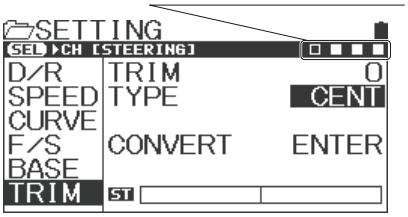
トリム タイプ[TRIM TYPE]

●各チャンネルのトリム動作をセンター トリム（CENT）とパラレル トリム（PARA）に設定可能です。
●初期設定ではトリム 1（TRM1）にステアリング、トリム 2（TRM2）にスロットルが設定されています。

1) 設定するチャンネル（ST / TH / AUX1 / AUX2）をセレクトボタンで選択します。

2) エンター操作で決定してマルチセレクターで調整します。

セレクトボタンでチャンネル選択



○設定範囲　CENT（センター トリム）/PARA（パラレル トリム）

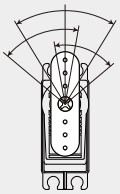
○初期値　CENT（センター トリム）

重要
●センター トリムとパラレル トリムについて
トリム動作時に動作角の端はそのままでニュートラル位置だけを調整するのがセンター トリムでトリム動作時に動作角の端とニュートラル位置を一緒に動かすパラレル トリムの2種類があります。サーボ ホーンを固定する前にニュートラル(センター)位置を調整するサブ トリムはパラレル トリムで、メイントリムがセンタートリムとパラレル トリムの選択式になります。用途に合わせて設定してください。

○センター トリム
トリムでニュートラル位置を移動しても動作角の端は動きません。



○パラレル トリム
トリムでニュートラル位置を移動すると動作角の端も一緒に移動します。
リンケージをおこなった後でサブトリムを調整した場合はエンド ポイント アジャスト（EPA）の再調整が必要になります。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

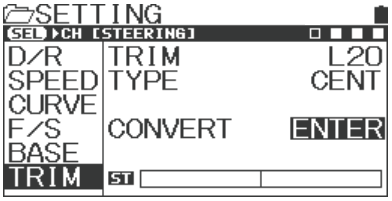
コンバート[CONVERT]

●各チャンネルで調整されたトリムをサブトリムと EPA に変換し、トリムをセンターに補正する機能です。
設定によってはコンバートできない場合があります。

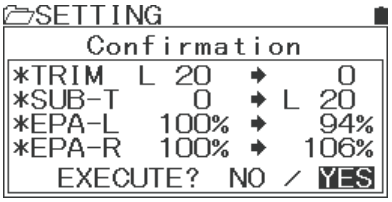
1) セレクトボタンでコンバートをおこなうチャンネル
（ ST / TH / AUX1 / AUX2 ）を選択します。

2) 設定するチャンネルが決定したらエンター操作で
コンバート機能を動作させます。

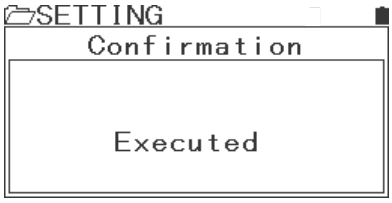
3) 例としてステアリングトリムが [L20] の状態で
EPA がそれぞれ 100% の場合にコンバート機能を
使用した場合には右図の流れになります。
トリムがセンター (0) になり、トリム移動分が
サブトリムと EPA に変換されます。
※コンバートは各チャンネルで設定可能です。



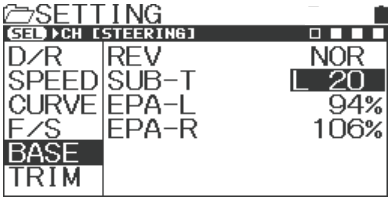
ENTER（エンター）↓　↑BACK（バック）



ENTER（エンター）↓　↑BACK（バック）



コンバート終了 ⇓



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

スロットル ファンクション/TH-FUNCTION

●スロットル ファンクションはスロットル チャンネルの ALB(アンチ ロック ブレーキ)、OFFSET (オフセット)、TH TYPE(スロットル タイプ) の設定値を調整することが可能です。

アンチロック ブレーキ [ALB]

スロットル ファンクション/TH-FUNCTION

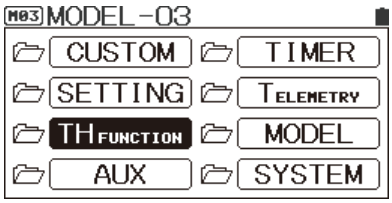
●アンチ ロック ブレーキにより、グリップが低い路面で安定したブレーキングが可能となります。
●ブレーキングが安定するため、狙い通りのコーナリング ラインをトレースすることができます。

1) マルチセレクターでスロットル ファンクションを選択して
エンター操作して決定します。

2) マルチセレクターで [ALB] を選択してエンターで決定すると
ALB 設定メニューに切り替ります。

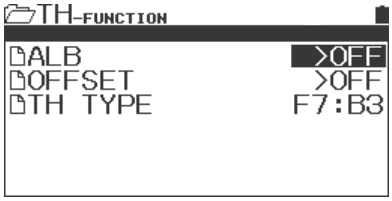
3) ストロークの設定 (STROKE)
マルチセレクターで ALB のストローク設定をおこないます。
ストロークはブレーキ時の繰り返し動作の幅です。

○設定範囲　OFF、0 ～ 100%
○初期値　　OFF　※ OFF では ALB は動作しません。



ENTER (エンター)　BACK (バック)

ALB > ON に設定したのち SYSTEM メニューの
KEY ASSING SW で SW2 に ALB を指定して MODE を
PUSH か TOGGLE を選んでください。
PUSH は SW2 を押している時のみ動作します。
TOGGLE は SW2 を押すたびに ON/OFF が切り替わります。
設定方法は説明書53ページを参照ください。



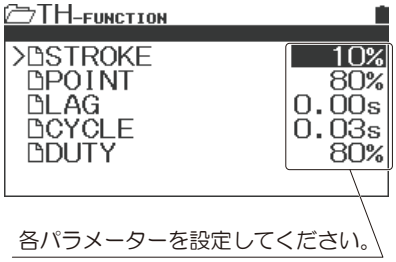
4) ポイントの設定 (POINT)
マルチセレクターで ALB のポイント設定をおこないます。
ポイントはブレーキを操作したときに ALB が動作を始める位置です。

○設定範囲　5% ～ 100%
○初期値　　80%

ENTER (エンター)　BACK (バック)

5) ラグの設定 (LAG)
マルチセレクターで ALB のラグ設定をおこないます。
ラグはポイントまで操作してから ALB が動作を始めるまでの
タイムラグの設定です。

○設定範囲　0.00s ～ 1.00s
○初期値　　0.00s



6) サイクルの設定 (CYCLE)
マルチセレクターで ALB のサイクル設定をおこないます。
サイクルはブレーキ時の繰り返し動作の周期設定です。

○設定範囲　0.01s ～ 1.00s
○初期値　　0.03s

7) デューティーの設定 (DUTY)
マルチセレクターで ALB のデューティー設定をおこないます。
デューティーはサイクルのブレーキ ON とブレーキ OFF の比率設定をおこないます。

○設定範囲　20 ～ 100%
○初期値　　50%

※アンチロックブレーキが動作中は ファンクション LED が点滅します。



⚠ 補足
●RCカーのタイヤがグリップ力を失わない(すべらない)程度にブレーキを強めに効かせ、タイヤがロックしてすべる寸前にアンチ ロック ブレーキが働くように調整してください。
●電動RCカーでバック付きスピードコントローラーを使用してALBを設定するとバックの動作が出来なくなる場合があります。バック動作を使用する場合にはALBをOFFにしてください。

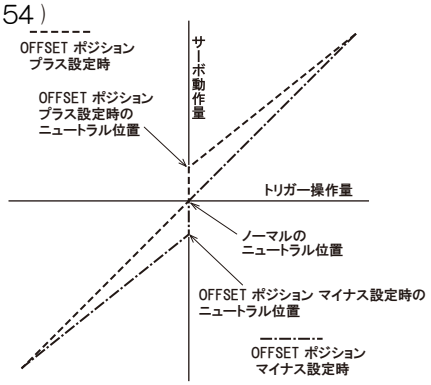
INDEX へ戻る

各機能の使用方法

オフセット [OFFSET]

スロットル ファンクション/TH-FUNCTION

●エンジン RC カーのエンジン始動時にスロットル ニュートラルの位置を移動することで、エンジンの始動性が向上します。
●エンジン RC カーの給油時にエンジンが停止しないようにアイドリングを上げた位置に固定できます。
●設定したスイッチを操作することで RC ボート等のエンジンを停止させることができます。
●オフセット機能で様々なパワーソースに対応できます。
●オフセット機能の ON / OFF は出荷状態ではスイッチやキーに割り当てられていません。
使用する場合にはキーアサインで機能を割り当ててください。(P.53、54)



1) マルチセレクターでスロットルファンクションを選択して
エンター操作して決定します。

2) マルチセレクターで [OFFSET] を選択してエンターで決定
すると OFFSET 設定メニューに切り替わります。

3) オフセットの設定 (OFFSET)
マルチセレクターでオフセット機能の ON/OFF 設定をおこないます。

○設定範囲　ON / OFF
○初期値　　OFF

4) タイプの設定 (TYPE)
マルチセレクターでオフセットのタイプ設定をおこないます。

○設定範囲　I-UP(アイドル アップ) / N-BR(ニュートラル ブレーキ)
○初期値　　I-UP

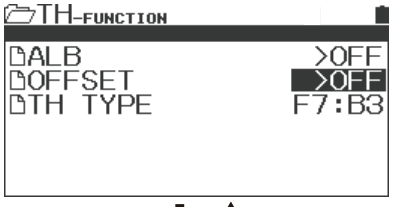
5) ポイントの設定 (POINT)
マルチセレクターでオフセットのポイント設定をおこないます。

○設定範囲　0% ～ 100%
○初期値　　0%

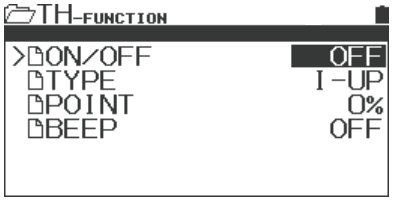
6) ビープの設定 (BEEP)
オフセット動作時のアラーム (ビープ) の設定をおこないます。

○設定範囲　ON / OFF
○初期値　　ON

※オフセット機能が動作している場合は LEDルミネーション
が点滅します。



ENTER (エンター)　BACK (バック)



スロットル タイプ [TH TYPE]

スロットル ファンクション/TH-FUNCTION

●スロットルのニュートラル位置を移動して、前進側とブレーキ (後進) 側の動作比率を７：３か５：５の
どちらかに設定できます。
※使用するスピードコントローラー等に合わせてスロットル タイプの設定をおこなってください。

1) マルチセレクターでスロットルファンクションを選択して
エンター操作して決定します。

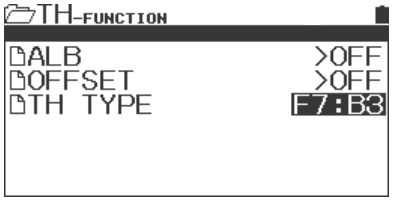
2) マルチセレクターで [TH TYPE] を選択してエンターで
決定します。

3) スロットルタイプ設定
マルチセレクターでスロットル タイプの設定をおこないます。

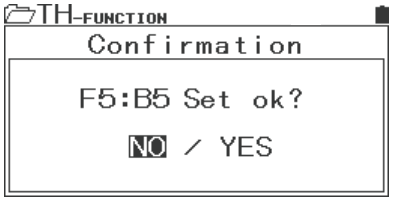
○設定範囲　Ｆ７：Ｂ３ / Ｆ５：Ｂ５

○初期値　　Ｆ７：Ｂ３

※ TH TYPE を変更すると確認画面へ移行して
画面上にメッセージが表示されますので、
メッセージにしたがって操作してください。



ENTER (エンター)　BACK (バック)



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

エー ユー エックス/AUX

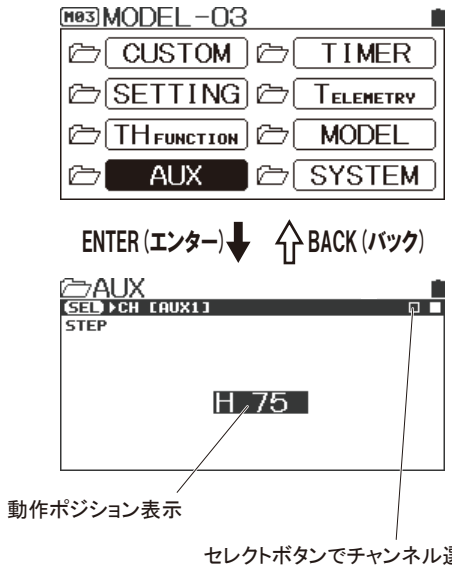
●エー ユー エックスは AUX1、AUX2（3ch、4ch）の動作を設定する機能です。
STEP AUX（ステップ）、POINT AUX（ポイント）、4WS（４輪操舵：同位相、逆位相）、MOA（前後別駆動）、AUX-MIX（AUX ミキシング：ST → AUX / TH-AUX）、CODE10（コード通信）から選ぶことができます。
※ AUX TYPE の設定はシステムメニューでおこないます。使用する用途にあわせて設定してください。

ステップエーユーエックス [STEP AUX]　エー ユー エックス/AUX

●ステップ AUX 機能の設定により、割り当てたトリムやスイッチの操作により動作量を設定できます。
●工場出荷時には AUX 機能はステップ AUX に設定されています。

1）マルチセレクターで［ AUX ］を選択して
エンター操作で確定します。

2）ステップ エー ユー エックスの設定（ STEP AUX ）
セレクトボタンで動作させる［ CH ］を決定して、
マルチセレクターで動作ポジションを設定します。
※動作量は EPA（エンド ポイント アジャスト P.29、30 ）でも
設定可能です。
※使用方法にあわせてキーアサイン（ P.53、54 ）で機能をトリムや
ダイアルに割り当てて使用してください。



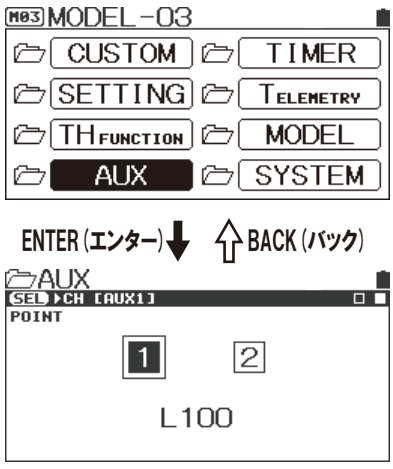
ポイントエーユーエックス [POINT AUX]　エー ユー エックス/AUX

●ポイント AUX を設定することで、AUX1 / AUX2（3ch / 4ch ）の動作をスイッチやトリムに割り当てることで
設定したポイントへサーボを動作させることができます。
動作したポイントは EPA（エンドポイントアジャスト）で設定できますので、使用方法にあわせてポイント位置
を調整してください。
※ポイント数は２～６ポイントになり、AUX TYPE で設定します。

1）マルチセレクターで［ AUX ］を選択してエンター操作で
確定します。

2）ポイントエーユーエックスの設定（ POINT AUX ）
セレクトボタンで動作させる［ CH ］を決定して、
マルチセレクターで動作ポイントを設定します。

※使用方法にあわせて［ SYSTEM ］の［ AUX TYPE ］で
［ POINT AUX ］に設定してください。
※キーアサイン（ P.53、54 ）でダイアルやトリムに機能を
割り当てて動作させるか、マルチセレクターで操作を
おこなってください。



INDEX へ戻る

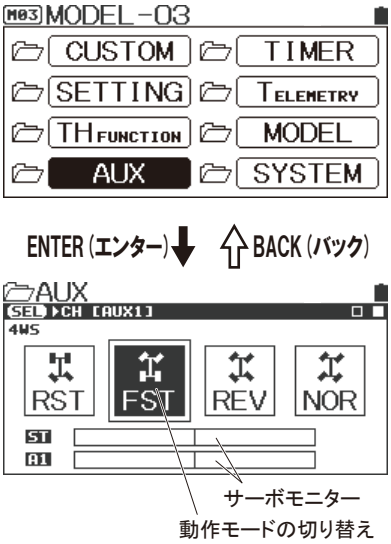
各機能の使用方法

4ホイール ステアリング(4輪操舵：同位相/逆位相[4WS]　エー ユー エックス/AUX

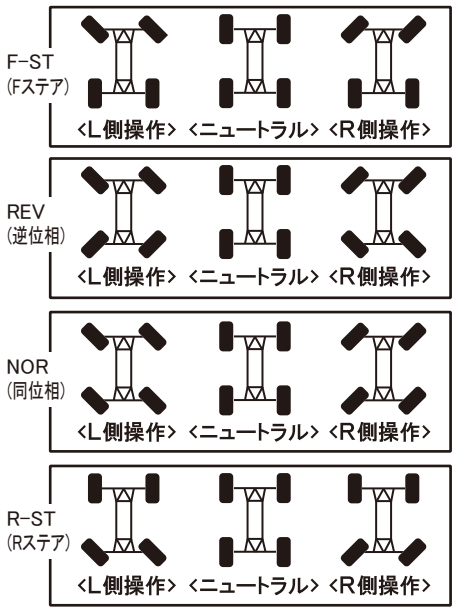
●割り当てたトリムやスイッチの操作により４ホイールステアリング（４輪操舵）の動作を制御します。

1) マルチセレクターで [AUX] を選択してエンター操作で確定します。

2) 動作モードの設定
　マルチセレクターで 4WS の動作モードを設定します。
　使用方法にあわせて動作モードを設定してください。
※走行しながら使用する場合にはトリムかスイッチに
　動作モードの機能を割り当ててください。



[ステアリング動作イメージ]

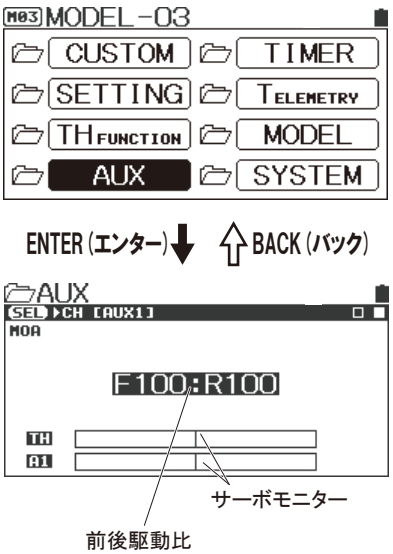


モーター オン アクスル [MOA] (前後別駆動)　エー ユー エックス/AUX

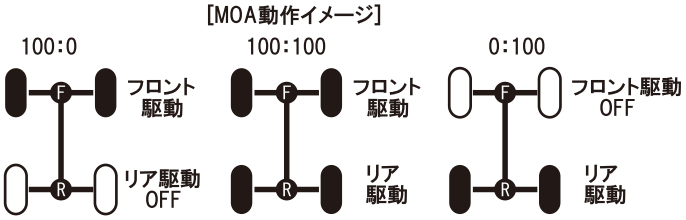
●モーター オン アクスル (MOA) を設定することで前後２モーター仕様の車体で前後の駆動比を調整することができます。

1) マルチセレクターで [AUX] を選択してエンター操作で確定します。

2) 動作モードの設定
　マルチセレクターで MOA の動作を設定します。
※前後駆動配分を変更するステップ設定は [SYSTEM] の
　[AUX TYPE] の [MODE] で設定してください。
※使用する際はトリムかダイアルに機能を割り当てるか
　マルチセレクターで操作をおこなってください。
※リアモーターを制御するスピードコントローラーは TYPE を
　MOA に設定したチャンネル（AUX1 / AUX2）に接続してください。



[MOA動作イメージ]



※比率を変更することで前後の駆動比を調整できます。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

エー ユー エックス/AUX

●エー ユー エックスは AUX1、AUX2(3ch、4ch) の動作を設定する機能です。
STEP AUX(ステップ)、POINT AUX(ポイント)、4WS(4輪操舵：同位相、逆位相)、MOA(前後別駆動)、
AUX-MIX(AUX ミキシング:ST → AUX / TH-AUX)、CODE10(コード通信) から選ぶことができます。
※ AUX TYPE の設定はシステムメニューでおこないます。使用する用途にあわせて設定してください。

エーユーエックスミキシング [AUX-MIX]

エー ユー エックス/AUX

●エーユーエックスミキシングを設定することでステアリングから AUX に、スロットルから AUX に
ミキシングをかけることができます。
※[SYTEM] の [AUX TYPE] で使用する動作にあわせて
AUX TYPE と MODE を設定してください。
●工場出荷時には AUX 機能はステップ AUX に設定されています。

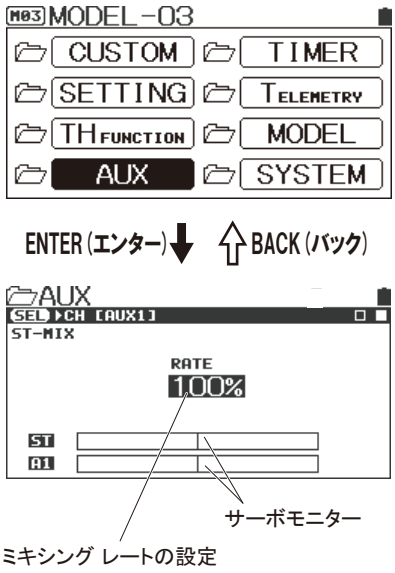
1) マルチセレクターで [AUX] を選択して
エンター操作で確定します。

2) ミキシング レートの設定
マルチセレクターでミキシング レートを設定します。

○設定範囲　0 ～ 100%

○初期値　　100%

※使用方法にあわせて [SYSTEM] の [AUX TYPE] で
[AUX MIX] に設定し、ミキシング動作は [MODE]
で設定してください。
※キーアサインでトリムやスイッチにミキシング レートの機能
を割り当てるか、マルチセレクターで操作をおこなってください。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

コード エー ユー エックス(CODE AUX)　エー ユー エックス/AUX

●コード エー ユー エックス（CODE AUX）の機能はCODE10のそれぞれのコードに設定値を割りてることでコード通信をおこなう機能です。（CODE10 / 10コード ）
CODE AUXに対応するスピードコントローラー（SUPER VORTEXシリーズ）やジャイロシステム（SGS-02）などの設定を変更するための拡張機能です。
● CODE AUX1とCODE AUX2の2系統の設定が可能です。
※ CODEの設定は［SYSTEM］メニューの［TYPE］の設定でおこないます。［MODE］の設定によってそれぞれの機器にあわせて表示が変更されます。［MODE］の設定を［USER］に設定するとそれぞれのコード表示はユーザーでの設定が可能になります。
※ AUXチャンネルをCODE AUXとして使用する場合には、BIND設定のA1 / A2のレスポンスモードは必ず［SHR］に設定してください。（P.51、52参照）
※ CODE AUXを使用する場合には、使用する受信機のCH3、CH4には絶対にサーボを接続しないでください。
※使用する際はキーアサインでトリムやダイアルに機能を割り当てるか、マルチセレクターで操作をおこなってください。

1) マルチセレクターで［AUX］を選択して
エンター操作で確定します。

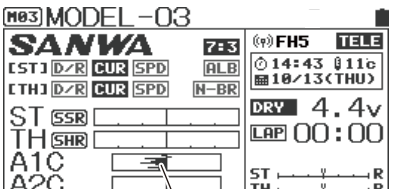
2) コード AUXの設定
設定変更する［CODE AUX］をエンター操作で
選択して、マルチセレクターで設定値を調整します。

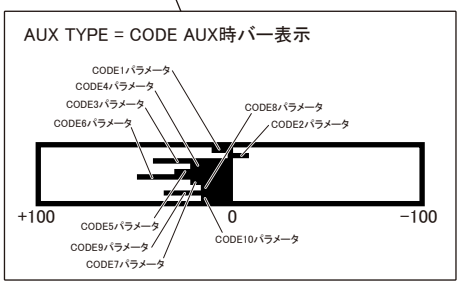
○設定範囲　-100～100%

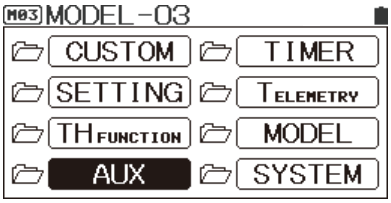
○初期値　　0%

※ AUX TYPEがCODE10に設定されている
場合にトップ画面でのサーボモニター表示部に
CODE AUXの設定状態にあわせて下記のように
表示されます。

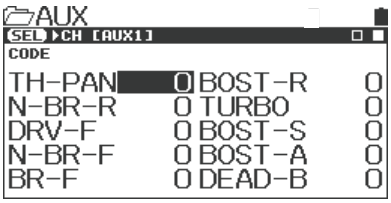
※ CODE10にそれぞれ対応している機器は
弊社ホームページにて確認してください。
また個別の設定詳細は機器の取扱説明書を確認ください。



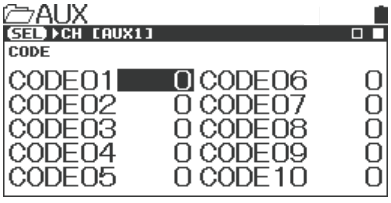




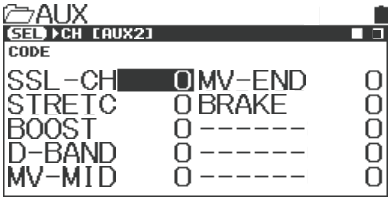
ENTER（エンター）　BACK（バック）



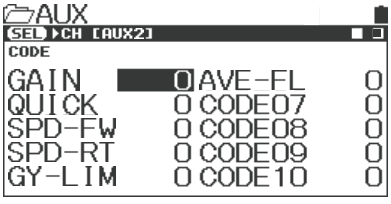
TYPE設定が［CODE10］で
MODE設定が［SV-G/D］の場合



MODE設定が［USER］の場合



MODE設定が［PGS］の場合



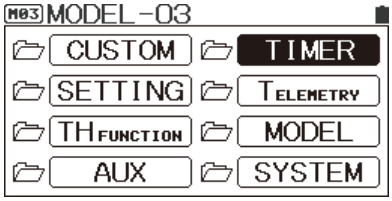
MODE設定が［SGS-02］の場合

INDEXへ戻る

各機能の使用方法

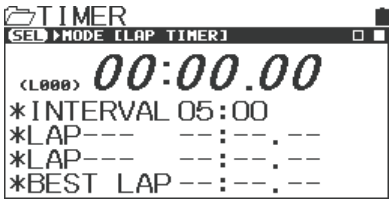
タイマー/TIMER

●ラップ タイマー、インターバル タイマー、ダウン タイマーの３つのタイマー機能を備えています。
●タイマーを選択して、セレクトボタンを操作するとタイマー画面と設定画面の切り替えになります。
※タイマー動作中はファンクション LED が点滅します。



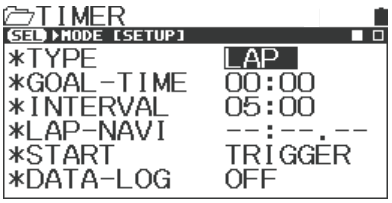
●LAP TIMER画面で計測したラップ タイムを確認することができます。
●ラップ タイマーが動作/停止している状態でエンター操作をおこなうと
ラップタイム表示に切り替わります。
マルチセレクターの操作で各ラップタイムを確認できます。

ENTER（エンター）⇩　⇧BACK（バック）



〈LAP TIMER画面〉

⇔ セレクトボタン



〈SETUP画面〉

セットアップ［ SETUP ］　タイマー/TIMER

●セットアップメニューでタイマーの各種設定をおこないます。

1)TYPE の設定
マルチセレクターで［ TYPE ］を選択して設定をおこないます。

○設定範囲　LAP / INT / DOWN

○初期値　　LAP

・LAP：999 周までの各ラップ計測、記録が可能（モデル共通）
・INT：設定した時間でタイマーが動作します。
・DOWN：走行時間や GP カーでの燃費計算の目安になります。

2)GOAL-TIME の設定
ゴールタイムを設定することでアラームが動作します。

○設定範囲　00：00 ～ 99：59　（00：01 単位）

○初期値　　5：00

3)INTERVAL の設定
設定した時間でアラームが動作します。（経過時間をお知らせします。）

○設定範囲　00：00 ～ 99：59　（00：01 単位）

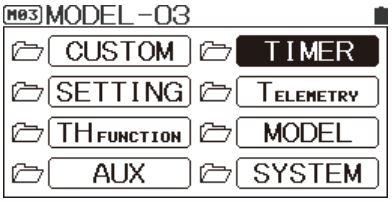
○初期値　　01：00

4)LAP-NAVI の設定
走行時に設定したタイムでアラームを動作させ、目標タイムの
目安とします。

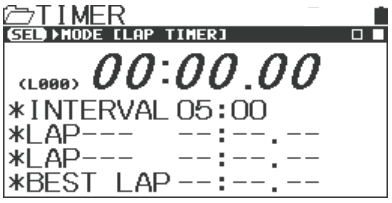
○設定範囲　00：00．01s ～ 99：59．99

○初期値　　--：--．--

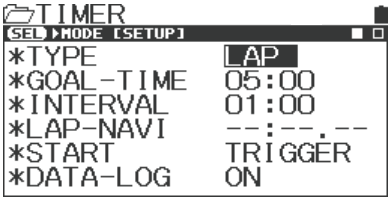
※00：00．00 ではラップナビは動作しません。



ENTER（エンター）⇩　⇧BACK（バック）



セレクトボタン ⇩



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

5)START の設定
タイマースタートの設定をトリガー連動 / スイッチ / ランダムから設定します。

○設定範囲　TRIGGER/KEY/STARTER

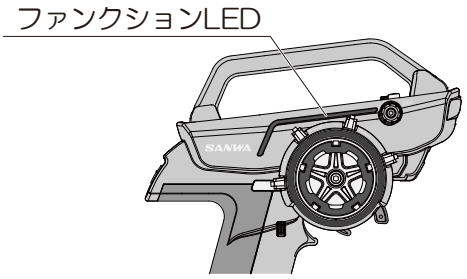
○初期値　　TRIGGER

6)DATA-LOG の設定
タイマーと連動でテレメトリーデータのログ (記録) の設定をおこないます。

○設定範囲　OFF/ON

○初期値　　ON

※ログはタイマー機能に連動してスタートします。



タイマー動作中はLEDが点滅します。

ラップ タイマー [LAP TIMER]　タイマー/TIMER

● 999 周までの各ラップ計測、記録ができます。(モデル共通)
●プリアラーム (PRE-ALM) を搭載しており、ゴール前に自動でアラームが鳴ります。

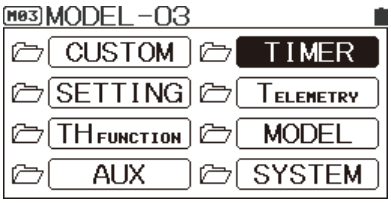
1)マルチセレクターで [タイマー] を選択し、エンター操作で決定します。

2)タイマーのスタート
タイマーのスイッチは初期値で SW1 に設定されています。
SW1 を長押しするとタイマーがスタート待機状態になり、再度 SW1 を押すかスロットル トリガーを操作すると計測がスタートします。

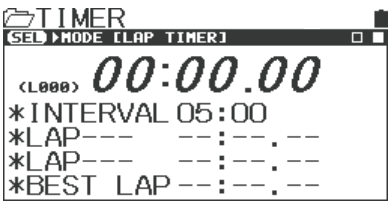
3)SW1 を操作するたびにラップタイムが計測されます。
SW1 を操作してから 3 秒間はスイッチが働きません。

4)計測終了
SW1 を長押しすると計測が終了します。
※ LAP TIMER 画面で計測したラップ タイムを確認することができます。LAP TIMER 画面でラップ タイマーが動作 / 停止している状態でエンター操作をおこなうとラップタイム表示に切り替わります。マルチセレクターの操作で各ラップタイムを確認できます。(SETUP 画面では不可)

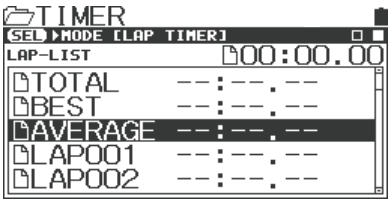
※タイマーを動作させた状態でパワースイッチを OFF にするとタイマーがリセットされます。
※ SW1 / SW2 にタイマーが設定されている場合には、タイマー設定画面以外でも長押しすることでスタート待機状態になります。

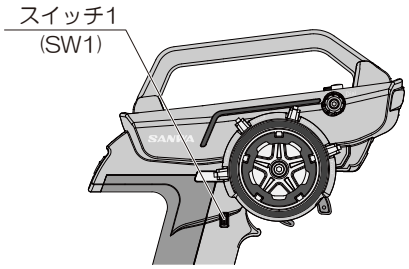


ENTER (エンター)　BACK (バック)



ENTER (エンター)　BACK (バック)





INDEX へ戻る

各機能の使用方法

インターバルタイマー [INT TIMER]　タイマー/TIMER

●走行時に設定したタイムでアラームを動作させ、目標タイムの目安とします。

1) マルチセレクターで [TIMER] を選択し、エンター操作で決定します。

2) タイプの設定 (TYPE)
セレクトボタンを操作して [TYPE] で [INT] を選択します。

3) インターバルの設定 (INTERVAL)
インターバルタイマーの設定は [INTERVAL] でおこなってください。

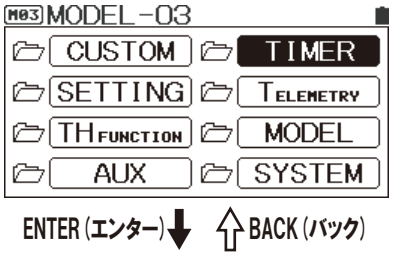
4) インターバルタイマーのスタート
タイマーのスイッチは初期値で SW1 に設定されています。
SW1 を長押しするとタイマーがスタート待機状態になり、
再度 SW1 を押すかスロットル トリガーを操作すると計測が
スタートします。

5) SW1 を操作するたびにインターバルタイマーがリセットされます。

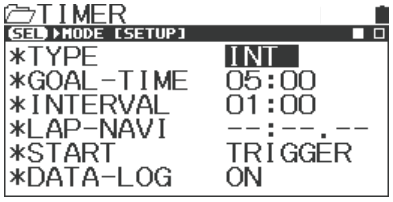
6) 計測終了
SW1 を長押しすると計測が終了します。

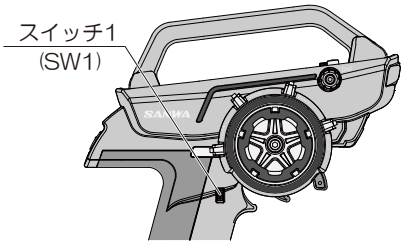
※タイマーを動作させた状態でパワースイッチを OFF にすると
タイマーがリセットされます。

※ SW1/SW2 にタイマーが設定されている場合には、タイマー
設定画面以外でも長押しすることでスタート待機状態になります。



ENTER (エンター)　BACK (バック)





ダウン タイマー [DOWN TIMER]　タイマー/TIMER

●電動 RC カーの走行時間やエンジン RC カーでの燃費計算の目安になります。
● 99：59 まで 1 秒単位で設定できます。
●ダウンタイマー終了後にアップタイマーに切り替わり、
終了後の経過時間が確認できます。

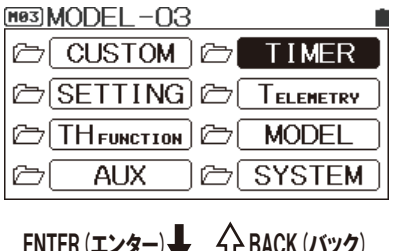
1) マルチセレクターで [TIMER] を選択し、
エンター操作で決定します。

2) タイプの設定 (TYPE)
セレクトボタンを操作して [TYPE] で [DOWN] を選択します。
※ダウンタイマーの設定は SETUP の [GOAL-TIME] で
おこなってください。

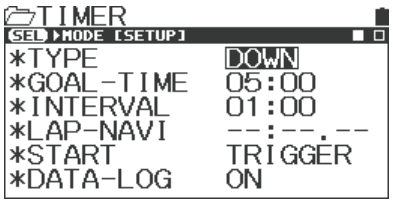
3) ダウンタイマーのスタート
タイマーのスイッチは初期値で SW1 に設定されています。
SW1 を長押しするとタイマーがスタート待機状態になり、
再度 SW1 を押すかスロットル トリガーを操作すると
計測がスタートします。

4)SW1 を操作するたびにダウンタイマーがリセットされます。

5) 計測終了
SW1 を長押しすると計測が終了します。
※タイマーを動作させた状態でパワースイッチを OFF にすると
タイマーがリセットされます。
※ SW1 にタイマーが設定されている場合には、タイマー設定画面
以外でも長押しすることでスタート待機状態になります。



ENTER (エンター)　BACK (バック)



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

テレメトリー/TELEMETRY

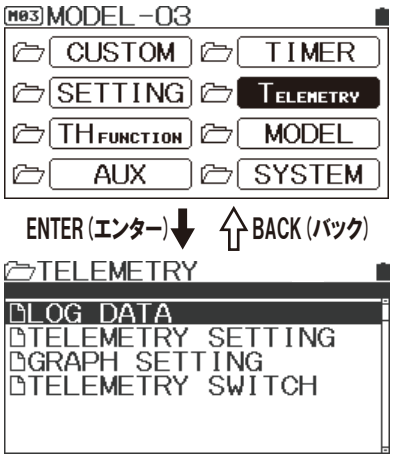
●テレメトリーに関連するLOG DATA、TELEMETRY SETTING、GRAPH SETTING、TELEMETRY SWITCHを設定するメニューです。
●テレメトリー機能を使用するには、対応する機器を使用することで対応可能になります。
●テレメトリーに対応する機器を使用することで、テレメトリーデータ2系統、バッテリー電圧、回転数のデータが送信機で確認できます。

• LOG DATA：記録しているログデータを管理するメニューです。

• TELEMETRY SETTING：テレメトリー機能の各種設定

• GRAPH SETTING：グラフ表示する際の設定。

• TELEMETRY SWITCH：テレメトリーデータを元に動作させるスイッチの各種設定



ログ データ[LOG DATA]　テレメトリー/TELEMETRY

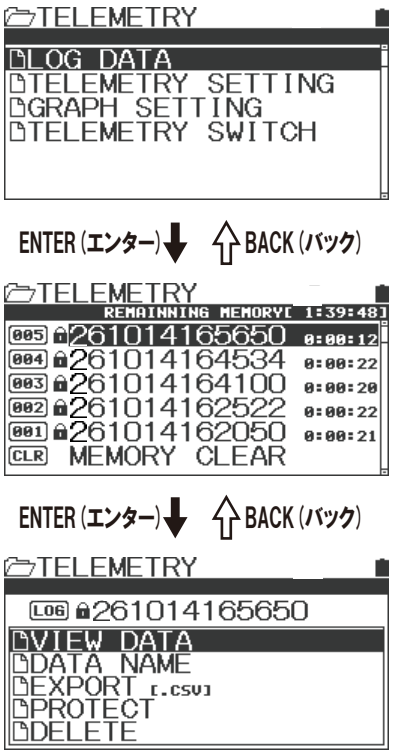
●記録したログデータを読み込んでグラフ化したり、マイクロSDカードに保存、ログ データ消去など、ログ データを管理する機能です。

1) マルチセレクターで[LOGGER]を選択し、エンター操作で決定します。

2)[LOG DATA]を選択してエンター操作で決定します。

3) 保存されているログ データをマルチセレクターで選択します。エンター操作するとメニューが表示されますので、メニューを選択し、エンター操作で決定します。

• VIEW DATA：記録したログ データを読み込みグラフ化。
• DATA NAME：ログ データのファイル名の編集。
• EXPORT [.CSV]：CSV形式に変換してマイクロSDへ保存。
• PROTECT：ログデータをプロテクトして保護。
• DELETE：ログデータを消去します。



INDEXへ戻る

各機能の使用方法

ビュー データ [VIEW DATA]　テレメトリー/TELEMETRY

●記録したログデータを読み込んでグラフ化するメニューです。

1) マルチセレクターで [LOG DATA] を選択し、エンター操作で決定します。

2) グラフ化するログデータを選択し、エンター操作で決定します。

3) ログデータを選択するとメニューが表示されますので、[VIEW DATA] を選択するとログデータがグラフ化されて表示されます。

4) 表示サイズの設定
グラフ表示されている際にエンター操作をおこなうと表示するサイズの設定になります。

○設定範囲　1/1(8.5s / PAGE) : 1 ページ / 8.5 秒
1/2(17s / PAGE) : 1 ページ / 17 秒
1/4(34s / PAGE) : 1 ページ / 34 秒
1/8(68s / PAGE) : 1 ページ / 68 秒

○初期値　1/1(8.5s / PAGE)

5) ページの移動方法
グラフ化されている際にセレクトボタンを操作すると表示ページの移動方法が設定できます。

○設定範囲　カーソル / ページ / ラップ

○初期値　カーソル

※グラフ化されている画面でエンター操作をするとラップリストへ移動します。

※ MEMORY CLEAR でエンター操作することでログデータを一括で削除することができます。



データ ネーム [DATA NAME]　テレメトリー/TELEMETRY

●選択しているログ データのファイル名を変更する機能です。
●ファイル名に使用できるのはアルファベットと記号になります。

1) マルチセレクターで [LOG DATA] を選択し、エンター操作で決定します。

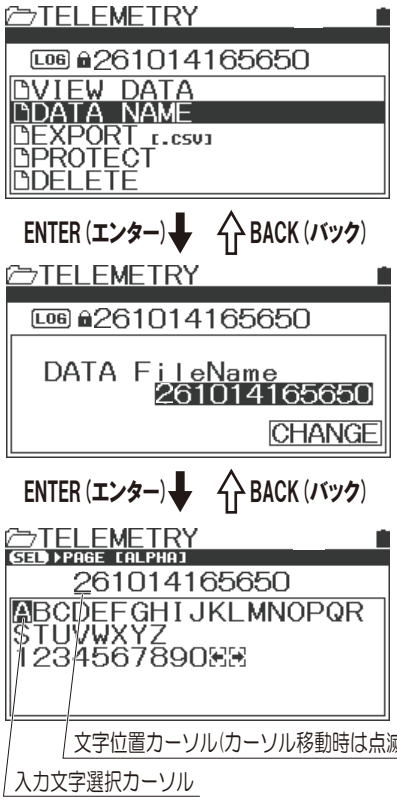
2) ファイル名を変更するログ データを選択し、エンター操作で決定します。

3) データ ネームの設定
マルチセレクターでカーソル”_”を文字入力する位置に移動します。位置が決定したらエンター操作でカーソル位置を決定します。
※カーソル位置を決定すると入力文字の選択へ移行します。

4) 入力する文字の決定
マルチセレクターで入力する文字を選択します。
入力する文字が決定したらエンター操作で入力します。

○設定範囲　A～Z、0～9

※選択した文字を変更する場合や、文字入力のカーソルを移動する場合はバックボタンを押して動作をキャンセルしてください。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

エクスポート [EXPORT〔.CSV〕]

テレメトリー/TELEMETRY

●選択しているログ データを PC(パーソナルコンピューター)
の表計算ソフト等でグラフ化できるように変換する機能です。
●エクスポートの機能で変換したデータは送信機では
グラフ化できなくなりますのでご注意ください。

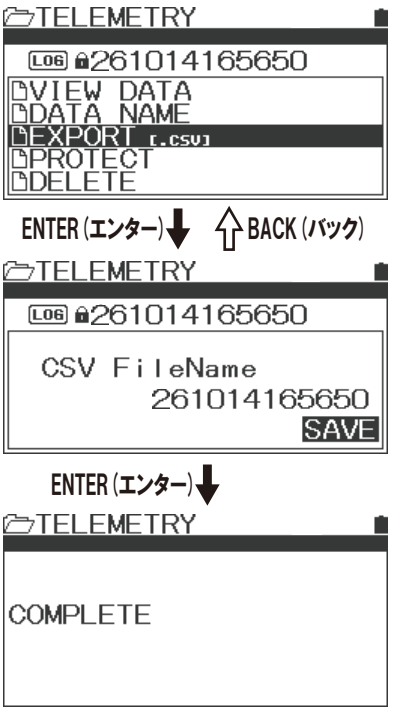
●エクスポート機能を使用する場合はマイクロ SD カードが必要です。

1) マルチセレクターで [LOG DATA] を選択し、エンター操作で決定します。

2) エクスポートするログ データを選択し、エンター操作で決定します。
※エンター操作すると CSV ファイル ネーム (ファイル名変更) へ移行します。

3) CSV ファイル ネームの設定
形式を変換する際にだファイル名の変更も可能です。
文字入力はデータ ネームのやり方と同一ですので、そちらを
参照してください。

4) CSV ファイル形式への変換
カーソルを [SAVE] へ移動し、エンター操作をおこなって変換
してください。
※データ変換中にバック操作で変換作業のキャンセルが可能です。
※データ変換後はマイクロ SD カード経由で PC へデータを移動し、
グラフ表示をおこなってください。



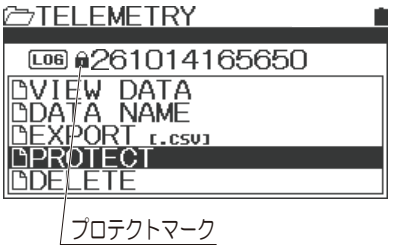
プロテクト [PROTECT]

テレメトリー/TELEMETRY

●ログ データを誤って消去したりしないようにプロテクト (保護)
する機能です。

1) マルチセレクターで [LOG DATA] を選択し、エンター操作で決定します。

2) プロテクトするログ データを選択し、エンター操作で決定します。
※エンター操作のたびにプロテクトの有効 / 無効が切り替わります。



デリート [DELETE]

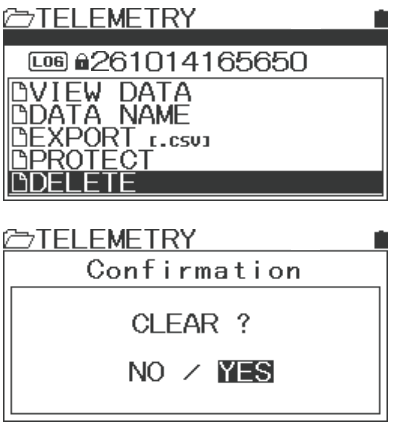
テレメトリー/TELEMETRY

●ログ データを消去する機能です。

●プロテクトされているログ データはデリートできません。

1) マルチセレクターで [LOG DATA] を選択し、エンター操作で決定します。

2) デリートするログ データを選択し、エンター操作で決定します。
確認画面が表示されますので、画面表示にしたがって操作してください。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

テレメトリー セッティング[TELEMETRY SETTING]

テレメトリー/TELEMETRY

●テレメトリー各機能の設定をおこないます。設定する機能はセレクト ボタンで選択します。

• TLM1 / TLM2 : 受信状態 / 温度 / テレメトリーデータの設定

[DATA TYPE] 受信状態 / テレメトリーデータの表示の切り替え

TL-DATA を選択した場合
[NAME] TLM1 / TLM2 のデータ名称を3文字まで変更可能です。
[UNIT] 温度の設定とスピード表示の切り替え
(℃ / °F/ KM[スピードの単位は変更可能])
[MAX] データをグラフ表示した際のグラフ上限値の設定
[ALERT] 設定した温度でアラームを動作させます。
※アラーム OFF も設定可能です。
(※スピード表示の場合は設定できません)
[MIN] データをグラフ表示した際のグラフ下限値の設定

RX-DATA を選択した場合 (P.65参照)
[MAX] データをグラフ表示した際のグラフ上限値の設定
[MIN] データをグラフ表示した際のグラフ下限値の設定

• RPM : 回転数データと回転数データから算出したスピードの設定
[UNIT] 回転数とスピード表示の切り替え (RPM, km/h, mph)
[MAX SCALE] データをグラフ表示した際のグラフ上限値の設定

• RATIO : RATIO(レシオ) 回転センサーを減算された位置に設置した場合に、レシオの設定をおこなうことで、モーターやエンジンの回転数を逆算して表示させることができます。
○設定範囲　0.001 ～ 64.999
○初期設定　1.000
※RATIOの機能は対応機器が無いため、MT-5Zでは使用できません。

• 10COUNT DIST : [10 カウント ディスタンス] スピード表示に設定したときに回転センサーが 10 回検知した移動距離を計測し、その値を設定することでスピードを計算して表示します。
○設定範囲　1cm ～ 255cm
○初期設定　30cm
※10 COUNT DISTの機能は対応機器が無いため、MT-5Zでは使用できません。

• VOLT : テレメトリー データにあわせて、設定した電圧でアラームが動作し、LED も点滅します。
[MAX VOLT] グラフ表示の際の最大電圧の設定

○設定範囲　3.0V ～ 9.0V、OFF

○初期設定　8.4V

[ALERT VOLT] アラーム動作電圧の設定

○設定範囲　OFF/3.0V ～ 9.0V

○初期設定　3.8V

[HOLD TIME] ホールド タイムの設定
※ HOLD TIME を設定することで、スロットル操作等の瞬間的な電圧低下にアラームを動作させないようにする機能です。

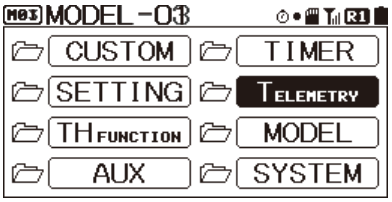
○設定範囲　0.0sec ～ 5.0sec

○初期設定　1.0sec

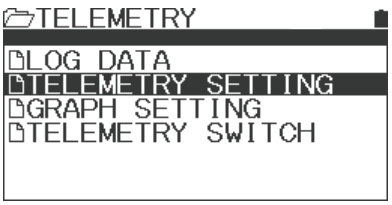
[MIN VOLT] グラフ表示の際の最低電圧の設定

○設定範囲　0.0V ～ 8.9V

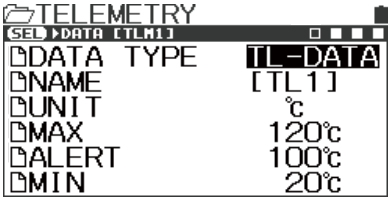
○初期設定　3.0V



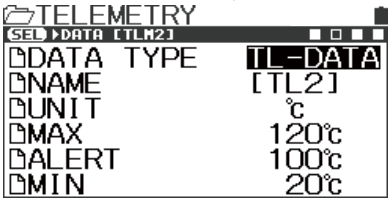
ENTER (エンター)　BACK (バック)



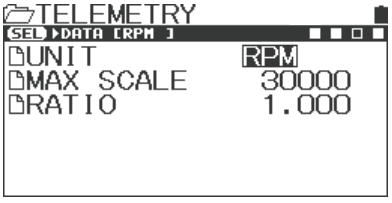
ENTER (エンター)　BACK (バック)



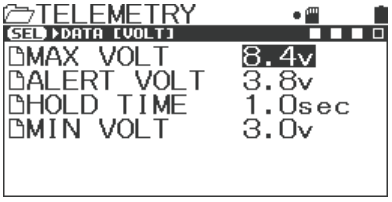
セレクトボタン



セレクトボタン



セレクトボタン



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

グラフ セッティング [GRAPH SETTING]　テレメトリー/TELEMETRY

●テレメトリーデータをグラフ表示する際に、グラフ表示する3項目を選択する機能です。

1) マルチセレクターで [テレメトリー] を選択し、
エンターボタンで決定します。

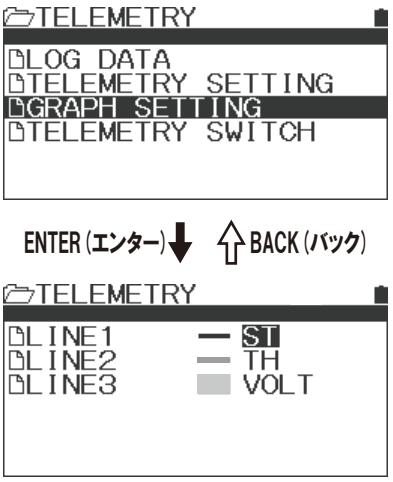
2)GRAPH SETTING の設定
マルチセレクターで [GRAPH SETTING] を選択して
エンターボタンで決定します。

○設定範囲　TL1 / TL2 / RPM / VOLT / ST / TH
TL1 / 2 : テレメトリー データ
RPM : 回転数データ
VOLT : 受信機入力電圧

※ TL1 / TL2 は表示名を変更することが可能です。

○初期値　LINE1 : ST (ステアリング データ)
LINE2 : TH (スロットル データ)
LINE3 : VOLT (受信機入力電圧)

※グラフでは LINE1 はブラック、LINE2 はダークグレー、
LINE3 はライトグレーで表示されます。



テレメトリー スイッチ [TELEMETRY SWITCH]　テレメトリー/TELEMETRY

●テレメトリーデータの変化をもとにそのデータでスイッチを動作させることができる機能です。

• TRIGGER (トリガー) : スイッチ動作のもととなるデータの選択をします。

• BORDER (ボーダー) : 温度や電圧など動作の基準の設定になります。

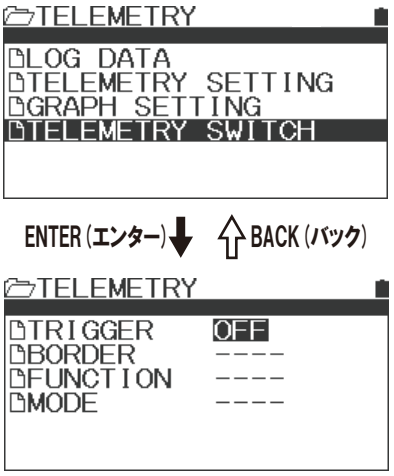
• FUNCTION (ファンクション) : 動作を割り当てます。

1) マルチセレクターで [テレメトリー] を選択し、
エンターボタンで決定します。

2)TELEMETRY SWITCH の設定
マルチセレクターで [TELEMETRY SWITCH] を選択して
エンターボタンで決定します。

○設定範囲　TRIGGER : OFF / TL1 / TL2 / VOLT
BORDER : 温度設定の場合 0 ～ 150℃
電圧設定の場合 3.0 ～ 9.0V
FUNCTION : TIMER ON / OFF
RACING MODE
TH RATE
MODE : TOGGLE / ONE SHOT

○初期値　TRIGGER : OFF
BORDER : ---- (OFF)
FUNCTION : ---- (OFF)
MODE : ---- (OFF)



※ TLM1 / TLM2 の DATA TYPE を RX-DATA を選択すると TELEMETRY SWITCH の設定項目で
TL1 / TL2 を選択することができません。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

モデルメニュー　モデル/MODEL

●モデル セレクト､モデル ネーム､モデル コピー､モデル クリアについての機能が設定できます。
●大容量 EEPROM を内蔵しており､M01 ～ M20 の 20 モデル分のデータを記憶することができます。

モデル セレクト[MODEL SELECT]

●記憶されている M01 ～ M20 のモデル データを簡単に呼び出すことができます。

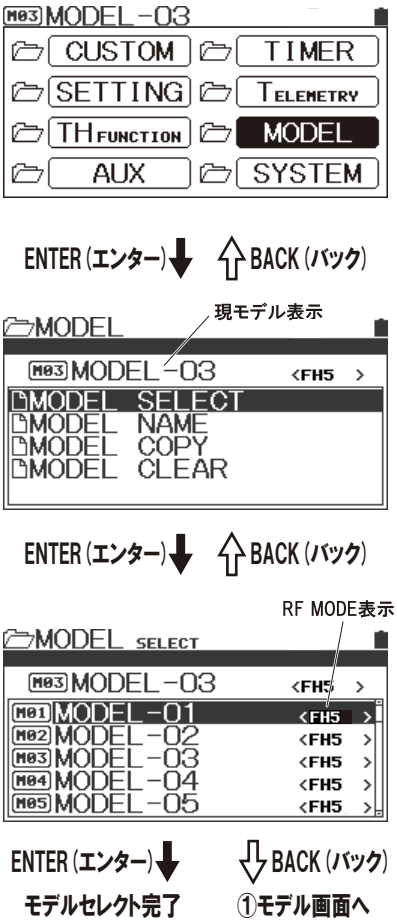
1) マルチセレクターで [MODEL] を選択し､
エンター操作で決定します。

2) モデル セレクトの設定 (MODEL SELECT)
マルチセレクターで [MODEL SELECT] を
選択してエンター操作で決定します。

3) モデルの選択
マルチセレクターで呼び出したいモデルを
選択します。

○設定範囲　M01 ～ M20

4) 呼び出すモデルにカーソルを移動し､
エンター操作をおこなうと画面上に
メッセージが表示されますので､
表示にしたがって操作してモデル
セレクトをおこなってください。



補足

●MT-5Zはダイレクト モデル セレクトの機能を装備しています。
バック ボタンを押しながら送信機のパワースイッチをONすると､
MODEL SELECT画面からスタートしますので使用するモデルを
簡単に呼び出すことができます。(P.18)

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

モデル ネーム[MODEL NAME]

●各モデルにアルファベット、数字、カナ、記号を 12 文字までモデル ネームを登録できます。

1) マルチセレクターで [モデル] を選択し、
エンター操作で決定します。

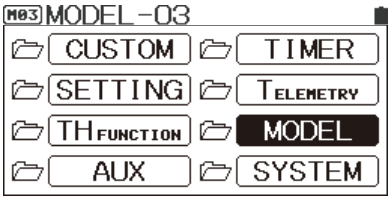
2) モデル ネームの設定 (MODEL NAME)
マルチセレクターで [モデル ネーム] を
選択してエンター操作で決定します。

3) モデル ネームの設定
マルチセレクターでカーソル”_”を文字入力する
位置に移動します。位置が決定したらエンターキーを
押してカーソル位置を決定します。

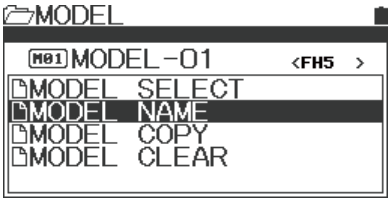
4) マルチセレクターで入力する文字を選択します。
入力する文字が決定したらエンター操作で入力します。
アルファベット / 小文字 / 記号 / カタカナの切り替えは
セレクトボタンの操作でおこないます。
※選択した文字を変更する場合や文字入力位置のカーソル
を移動する場合はバックボタンを押して動作をキャンセル
してください。

○設定範囲　A～Z、a～z、0～9、ア～ン、ァ～ッ、
記号、スペース

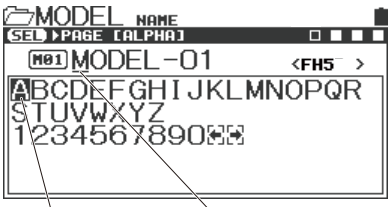
5) 3)、4) を繰り返して文字を入力します。



ENTER (エンター)　BACK (バック)

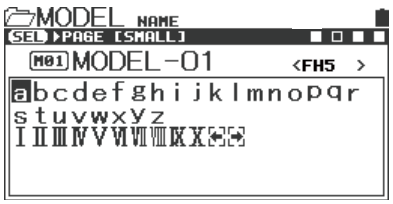


ENTER (エンター)　BACK (バック)

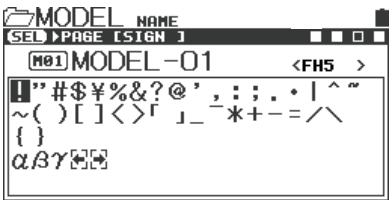


入力文字選択カーソル
文字位置カーソル(カーソル移動時は点滅)

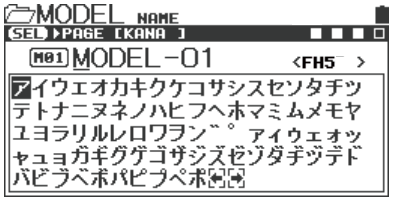
アルファベット小文字



記号



カタカナ



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

モデル コピー[MODEL COPY]

●選択しているモデルのデータを他のモデルにコピーすることができます。

1) マルチセレクターで [モデル] を選択し、
エンター操作で決定します。

2) モデル コピーの設定 (MODEL COPY)
マルチセレクターで [MODEL COPY] を
選択してエンター操作で決定します。

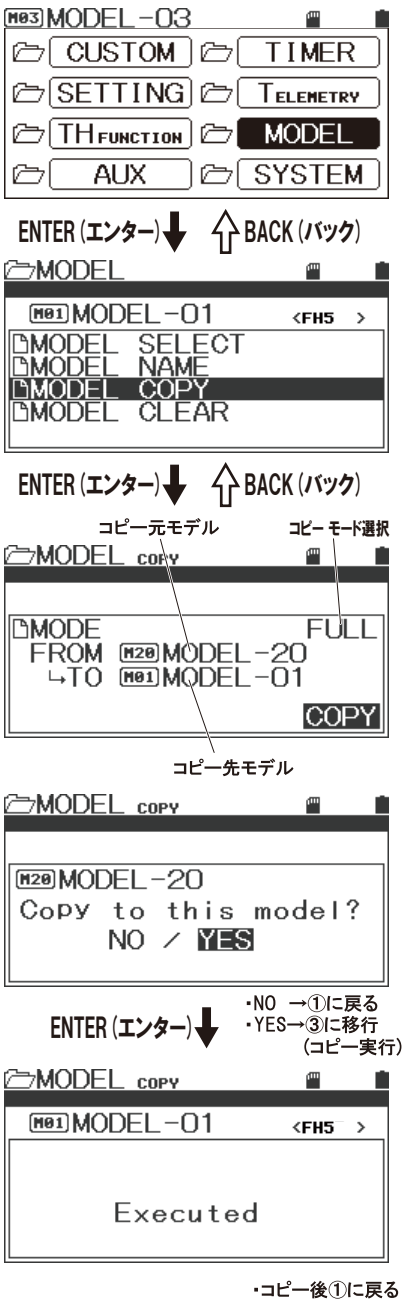
3) コピー先モデルの選択
マルチセレクターでコピー先モデルを
選択します。
※コピー元モデルも選択可能です。
※コピー元、コピー先モデルはマイクロ SD カード
も選択可能です。コピー元にマイクロ SD カード
を選択した場合には、マイクロ SD カード内に
モデルデータが無い場合にはコピーできません。

4) エンター操作をおこなうと画面上にメッセージ
が表示されますので、表示にしたがって操作して
モデル コピーをおこなってください。

●モデル コピーのモードについて
• FULL (フル)
モデルデータ内のすべての設定がコピーされます。

• SYSTEM(システム)
モデルデータの SYSTEM の内容を選択してコピー

• MODEL(モデル)
モデルデータ内のセッティング、TH ファンクション
AUX の設定値のみのコピーとなります。
用途にあわせてモデル コピーのモードを
選択してください。



INDEX へ戻る

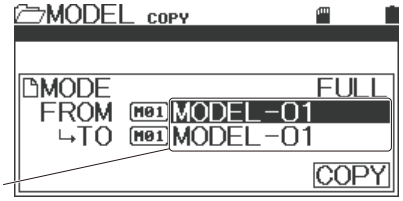
各機能の使用方法

マイクロ SD カードからのコピーについて
モデルコピーの際にコピー元とコピー先の指定を
本体メモリーとマイクロ SD カードが選択できます。
コピー先選択の画面でモデルを選択した際に
セレクトボタンの操作によって選択することが可能です。

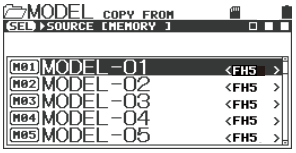
1) モデルを選択するとコピー元とコピー先の指定が
本体メモリー以外も選択可能になります。
セレクトボタンの操作によって切り替わります。

- MEMORY(本体メモリー) : 20 メモリー
- SD CARD(マイクロ SD カード) : 250 メモリー
- SD EXP.(マイクロ SD EXP.) : 20 メモリー

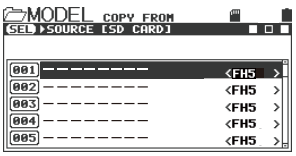
※ SD EXP. はテンプレートデータなどのデータをコピーします。
弊社 HP からテンプレートデータをダウンロードして使用してください。



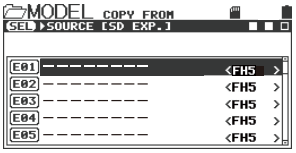
エンター操作



MEMORY (本体)



SD CARD



SD EXP.

モデル クリア[MODEL CLEAR]

マイクロ SD カードからのコピーについて
●モデルの設定データをクリア (初期化) する機能です。

1) マルチセレクターで [MODEL] を選択し、
エンター操作で決定します。

2) モデル クリアの設定 (MODEL CLEAR)
マルチセレクターで [MODEL CLEAR] を
選択してエンター操作で決定します。

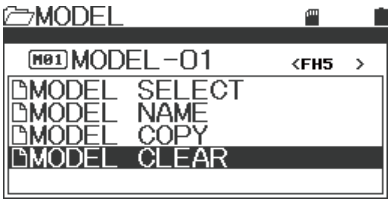
3) モデル クリアをおこなうモデルデータを選択します。
セレクトボタンを操作することで本体メモリー、
マイクロSD内のモデルデータも選択できます。

4) エンター操作をおこなうと画面上にメッセージが
表示されますので、表示にしたがってモデル クリア
をおこなってください。

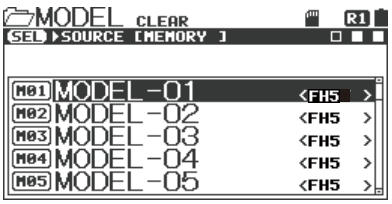
●モデル クリアのモードについて
- FULL(フル)
モデルデータ内のすべての設定がクリアされます。

- SYSTEM(システム)
モデルデータの SYSTEM の内容を選択してクリア

- MODEL(モデル)
モデルデータ内のセッティング、TH ファンクション
AUX の設定値のみクリアとなります。
用途にあわせて選択してください。

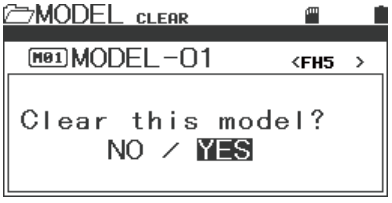


ENTER (エンター) BACK (バック)



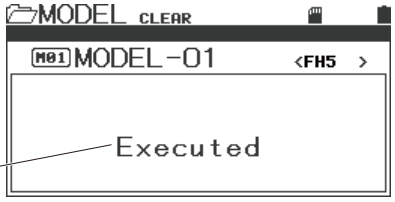
ENTER (エンター) BACK (バック)

①確認画面



・NO →MODEL画面に戻る
・YES→クリアー実行 ②へ

②クリア処理中



2回点滅表示後
<モデル>画面に戻る

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　システム/SYSTEM

●バインド (BIND)、キー アサイン (KEY ASSING)、BUZZER(ブザー)、バッテリー (BATTERY)、
LCD(エル シー ディー)、CALIBRATION(キャリブレーション) など、送信機のシステム設定をおこなう機能です。

バインド[BIND]

●使用する受信機にあわせた出力方式の選択や、使用するサーボ (アナログ / デジタル) やスピードコントローラー
にあわせてモードの設定や送信機と受信機のバインドをおこないます。

※初めて使用される場合、MT-5 Z と RX-493i は (BIND/ バインド) されておりません。
必ずBIND をおこなってからご使用ください。

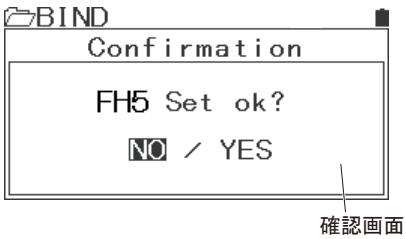
1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、
エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [BIND] を選択して
エンター操作で決定します。

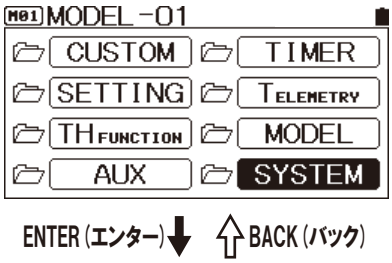
3)RF MODE の設定 (RF MODE：電波の出力方式)
マルチセレクターで出力方式を設定します。

○出力方式
・FH5
RX-493i、RX-492i、RX-49T、RX-493、RX-492、RX-491
※ FH4、FH3、FH-E、DS 方式の受信機は
組み合わせて使用できません

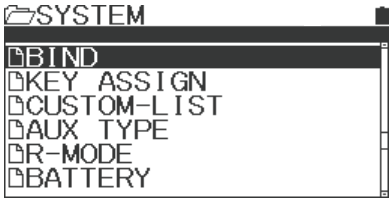
○初期値　FH5



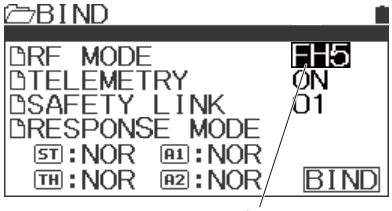
確認画面



ENTER (エンター)　BACK (バック)



ENTER (エンター)　BACK (バック)



出力方式

4)TELEMETRY(テレメトリー) の設定
マルチセレクターで TELEMETRY(テレメトリー) を設定します。

○設定範囲　ON / OFF

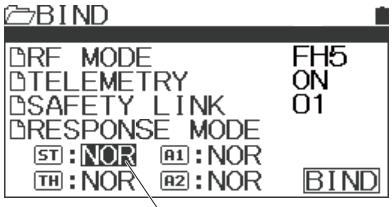
○初期値　　ON

※テレメトリー使用可能機器
・RX-493i、RX-492i、RX-49T、RX-493、RX-492、RX-491
※設定変更した場合は再 BIND(バインド) する必要があります。

5)SAFETY LINK(セーフティー リンク) の設定
マルチセレクターで SAFETY LINK(セーフティー リンク) を設定します。

○設定範囲　01 ～ 50

○初期値　　01



レスポンス モード

※ BIND したあとで SAEFTY LINK の設定を変更した場合には再度 BIND をおこなってください。
※ 01 は共通の LINK ID 番号となり BIND した受信機はどのモデルデータでも動作します。
使用される受信機・車体ごとに LINK 番号を変えて BIND しますと間違って選んだモデルデータでの
誤操作を防止できますので安全性が向上いたします。LINK 番号をそれぞれの受信機設定することを
おすすめします。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

6) チャンネル モードの設定
アップキー / ダウンキーで各チャンネルのレスポンス モードを設定します。
・レスポンス モードはチャンネルごとに設定できます。
〇設定範囲　NOR(ノーマル)
SHR(ハイレスポンス)
SSR(スーパーレスポンス)
SUR(ウルトラレスポンス)
〇初期値　NOR

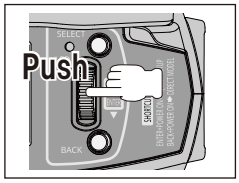
重要

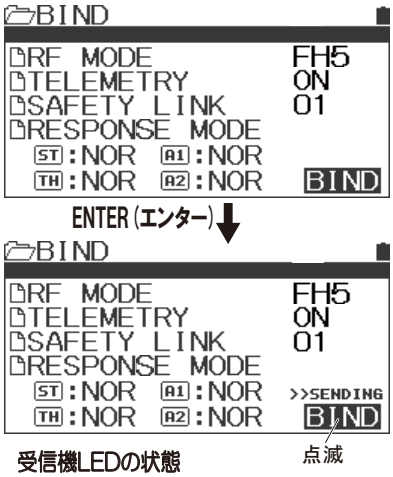
●SHR / SSR / SURモードではアナログサーボは動作しませんのでご注意ください。誤ってSHR / SSR / SURモードでアナログサーボを使用すると正常に動作せずサーボが壊れますので、絶対にSHR / SSR / SURモードでアナログサーボを使用しないでください。
デジタルサーボ(PGS、SRG、ERB、ERSシリーズ、Digital ERGシリーズ)の場合はNOR / SHRモードのどちらでも動作します。
●SSRモードはPGSサーボ、SRGサーボ、SUPER VORTEXシリーズ、HV-12 STOCK SPECIAL、HV-01のみ動作します。
●SURモードはPGSサーボ、SUPER VORTEX Gen2 / PRO / D2のみ動作します。
●SHR / SSR / SURモードではBL-RACER、BL-FORCE、F2000、F2200、F3000、F3300、SBL-01、02、03CLは動作しません。
必ずNORモードでご使用ください。
●BL-SIGMA、SV-08、HV-10、HV-12、F2500はNOR / SHRモードで動作します。
●お使いになるスピードコントローラーの取扱説明書を必ずお読みください。

7)BIND(バインド) の設定
● BIND(バインド) とは：MT-5Z 送信機はそれぞれ固有の ID(個体識別) 番号をもっていて、その ID 番号を受信機に記憶させることです。バインドした送信機と受信機のセットでしか動作しません。

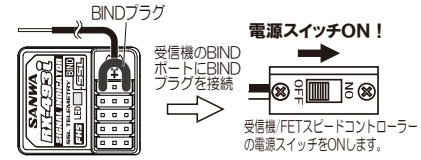
1]BIND(バインド) メニュー内の設定が終了したら
マルチセレクターにより BIND 設定をおこないます。

2]BIND メニュー内の [ENTER] にカーソルを移動して
エンター操作すると送信機が BIND(バインド) 動作になります。





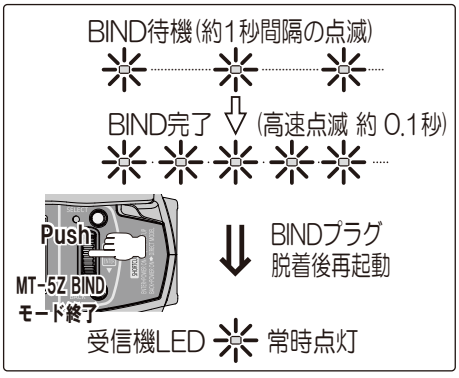
3]受信機のBINDポートにBINDプラグを接続し、受信機の電源スイッチをONします。



注) 上記の受信機には配線が接続されていませんが、BINDする際には、サーボやFETスピードコントローラー(モーターは除く)、バッテリーを接続した状態でおこなってください。

4]BIND(バインド) が正しくおこなわれると、受信機の LED がゆっくりとした点滅から高速点滅になります。高速点滅になったら受信機に挿しているBINDプラグを抜いて、受信機のBINDモードを終了して、受信機を再起動してください。
送信機のエンター操作をおこない送信機のBIND動作を終了してください。
BINDが正しくおこなわれると受信機LEDが点灯します。
受信機LEDが点灯したらサーボ等を動作させてBINDが終了したことを確認してください。
※BIND(バインド) が正しくおこなえない場合には、2]の作業からやりなおしてください。

受信機LEDの状態



⚠注意

●出荷時にはBINDされていません。ご使用になる前に必ずBINDをおこなってください。
●新たに受信機を購入された場合は、必ず送信機と新しい受信機でBINDをおこなってください。
●必ずBINDした送信機と受信機のセットでお使いください。
●BINDしたあとにBINDメニュー内の設定を変更した場合は再度BINDをおこなってください。
●BIND(バインド)してからチャンネルのモード設定(NOR / SHR / SSR / SUR)の設定を変更した場合には再度BIND(バインド)をおこなってください。再バインドしないと設定変更が反映されません。

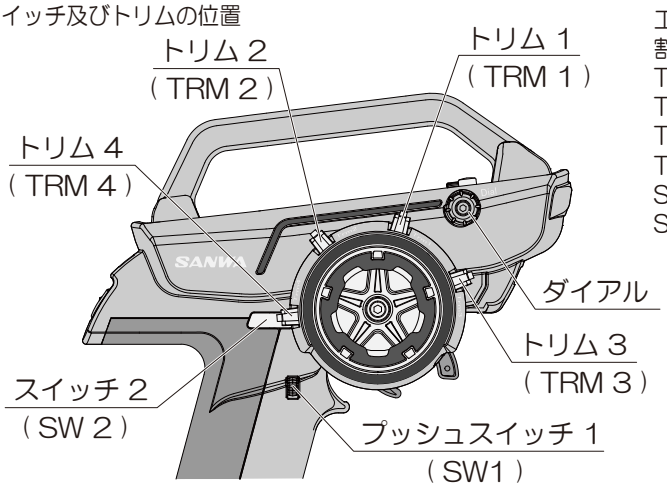
INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　　システム/SYSTEM

●バインド (BIND)、キー アサイン (KEY ASSING)、BUZZER(ブザー)、バッテリー (BATTERY)、
LCD(エル シー ディー)、VR ADJUST(ボリューム アジャスト) など、送信機のシステム設定をおこなう機能です。

スイッチ及びトリムの位置



工場出荷時にスイッチとトリムに
割り当てられている機能
TR1：ステアリング トリム (TRM-ST)
TR2：スロットル トリム (TRM-TH)
TR3：デュアルレート ST(D/R-ST)
TR4：デュアルレート BR(D/R-BR)
SW1 ：タイマー (TIMER)
SW2 ：カスタム (CUSTOM)

キー アサイン スイッチ[KEY ASSIGN SW]

●送信機のスイッチ (SW1、SW2) に機能を割り当てることができ、走行中に機能の ON / OFF ができます。

1) マルチセレクターで [システム] を選択し、
エンター操作でで決定します。

2) マルチセレクターでで [KEY ASSIGN] を選択して
エンター操作で決定します。

3) スイッチの設定 (SW1 / SW2)
[SW] でエンター操作をおこない、スイッチに割り当てる
機能をアップキー / ダウンキーで設定します。

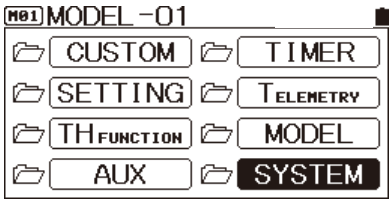
○設定範囲

スイッチ	割り当て可能な機能
SW1 SW2	OFF、ASIST-ST、D/R-ST、D/R-TH、D/R-BR、CUR-ST、CUR-TH、SPD-ST、SPD-TH、ALB、OFFSET、AUX1、AUX2、TIMER、MAX-CLR、R-MODE、CUSTOM、MOTION (SW2のみ)

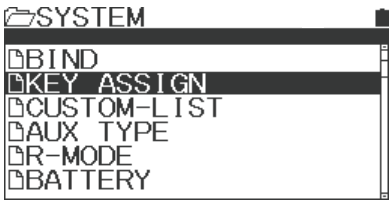
○初期値　SW1：TIMER　SW2：OFF
※ SW1 / SW2 に [ASIST-ST] を設定することでステアリングに
設定できる D/R、SPEED、CURVE の機能を ON / OFF することが
可能です。

4) モードの設定
スイッチの動作を設定しますが割り当てる機能によっては設定
出来ない場合が有ります。

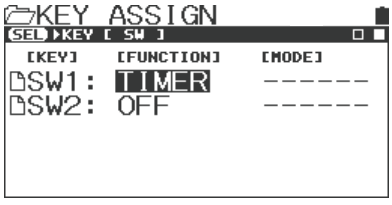
○設定範囲　TOGGLE (押すたびに ON / OFF 切り替え)
PUSH (押しているあいだのみ ON)



ENTER (エンター)　BACK (バック)



ENTER (エンター)　BACK (バック)



※SW2にALBを設定した場合には必ず MODE を TOGGLE に設定してください。
※ TOGGLE に設定しますと ALB が SW2 を押すたびに ON、OFF となります。
※ ALB 設定(P.33)で ON にしただけでは ALB 機能は働きません。

INDEX へ戻る

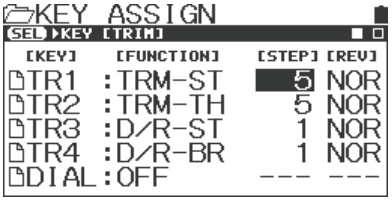
各機能の使用方法

キー アサイン トリム[KEY ASSIGN TRIM]

●各機能の設定値をトリム１～トリム４で変更できます。
● STEP の設定で１回のトリム操作での変化幅の設定と REV の設定で動作方向も変更できます。

1) マルチセレクターでで [システム] を選択し、
エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [KEY ASSIGN] を選択して
セレクト ボタンで [TRIM] に切り替えて、設定する
項目を選択してエンター操作で決定します。



3) トリムの設定 (TRM1 / TRM2 / TRM3 / TRM4)
設定変更する [TRIM] を選択して、割り当てる機能を
マルチセレクターで設定します。

○設定範囲

トリム	割り当て可能な機能
TRIM1 TRIM2 TRIM3 TRIM4	OFF、TRIM-ST、TRM-TH、TRIM-A1、TRIM-A2、D/R-ST、D/R-TH、D/R-BR、CU-R-ST、CU-R-TH、CU-R-BR、SP-ST-F、SP-ST-R、SP-TH-F、SP-TH-R、ALB-PO、ALB-ST、ALB-LG、ALB-CY、OFFSET、AUX1、AUX1(CODE1~10)、AUX2、AUX2(CODE1~10)

○初期値　TR1：TRM-ST(ステアリング トリム)
TR2：TRM-TH(スロットル トリム)
TR3：D/R-ST(ステアリング デュアル レート)
TR4：D/R-BR(ブレーキ デュアル レート)

4) ステップの設定 (STEP)
１回のトリム操作で動作する変化量を設定します。
マルチセレクターで [STEP] を選択してエンター操作で
決定して変化量を設定します。

○設定範囲　１～100
○初期値　　5

5) 動作方向の設定
トリムを操作した際の動作方向の設定をします。
マルチセレクターで [REV] を選択してエンター操作で
決定して動作方向を設定します。

○設定範囲　NOR/REV
○初期値　　NOR

※ DIAL でも同じように設定が可能です。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　システム/SYSTEM

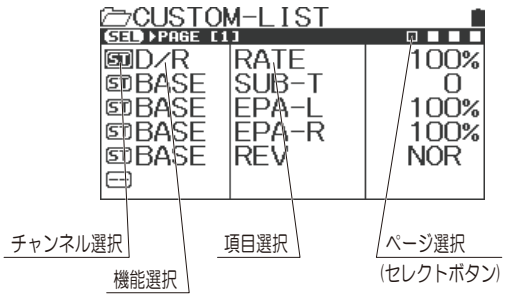
カスタム リスト[CUSTOM-LIST]

●良く使用するメニューをカスタム リストに設定することで、好みのメニュー構築が可能になります。
カスタム リストはモデルメモリーごとに作成可能で、4ページ分のリストを作成できます。
●カスタム リストで設定したメニューは、カスタムで使用可能になります。

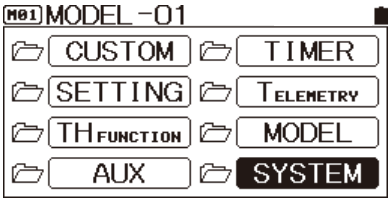
1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [CUSTOM-LIST] を選択してエンター操作で決定します。

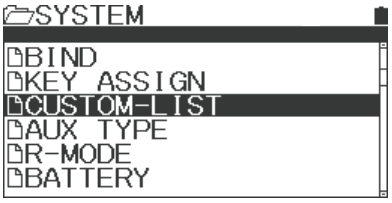
3) カスタム リストの設定
マルチセレクターを操作して、チャンネル / 機能 / 項目の設定をおこないます。
1ページに6個の機能を割り当てられて、4ページ分の設定が可能です。



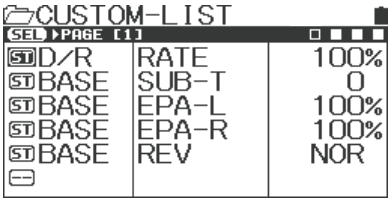
※カスタムリストはタイプにあわせてあらかじめ設定されています。好みにあわせてカスタム リストをカスタマイズしてください。
※機能 / 項目によってはカスタム リストに設定できない物もありますのでご注意ください。



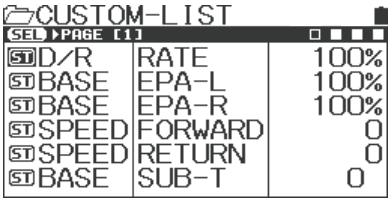
ENTER(エンター)　BACK(バック)

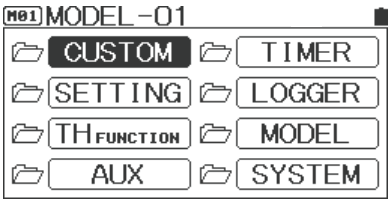


ENTER(エンター)　BACK(バック)

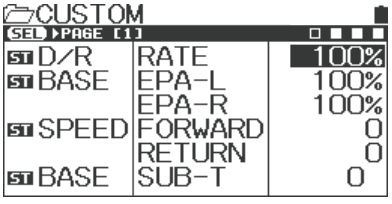


カスタム リスト設定





ENTER(エンター)　BACK(バック)



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

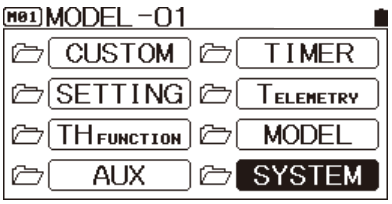
エー ユー エックス タイプ[AUX TYPE]

● AUX1、AUX2(3ch、4ch) の動作を設定する機能です。

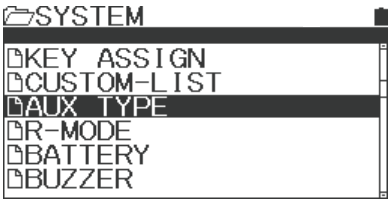
1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、
エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [AUX TYPE] を選択して
エンター操作で決定します。

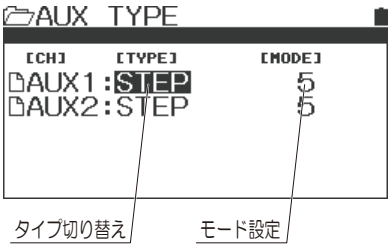
3) マルチセレクターで AUX TYPE の設定をおこないます。



ENTER (エンター) BACK (バック)



ENTER (エンター) BACK (バック)

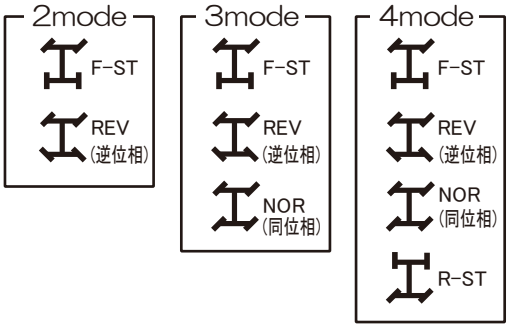


○設定項目

TYPE	MODE
STEP	1/2/5/10/20/25/50/100
POINT	2/3/4/5/6
4WS	2mode / 3mode / 4mode
MOA	1/2/5/10/20/25/50/100
AUX MIX	ST-mix / TH-mix
CODE10	USER / SV-G / D / PGS / SGS-02

○初期値　AUX1：STEP　MODE：5
　　AUX2：STEP　MODE：5

※ 4WS のモード設定の動作イメージ



※ ST-mix はステアリングから AUX にミキシングがかかり、TH-mix はスロットルから AUX にミキシングがかかります。
※ AUX TYPE を CODE に設定した場合には対応した機器の設定を送信機から変更できるようになります。
　対応している機器は SUPER VORTEX シリーズなどのスピードコントローラーやSGS-02になります。
※ AUX TYPE の設定を CODE に設定している場合には受信機の AUX1、AUX2(3ch、4ch) に対応機器以外を絶対に
　接続しないでください。対応していない機器を接続した場合にはその機器が破損します。
※ POINT AUX は P.35を、CODE AUX に関しては P.38を参照してください。
※ CODE10 は SUPER VORTEX Gen2 / Gen2 PRO / D2 / STOCK / SGS-02 に対応した機能です。
※ CODE10 で MODE を USER に設定すると各項目の名称を自由に登録できます。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　システム/SYSTEM

レーシング モード[R-MODE]

●レーシング モードに対応している機能を RC カーや路面コンディションの変化に対応できるように
レーシング モードを切り替えることで RC カーの走行特性を調整する機能です。
●モデルメモリーごとに、レーシング モードに対応している機能を個別に R1/ R2 / R3の２つの設定値を
持たせることが可能で、走行中に割り当てたスイッチでの切り替えが可能になります。
●初期設定では R-MODE の ON / OFF はスイッチに割り当てられていません。

1) マルチセレクターにより [SYSTEM] を選択し、
エンター操作で確定します。

2) マルチセレクターで [R-MODE] を選択して
エンター操作で確定します。

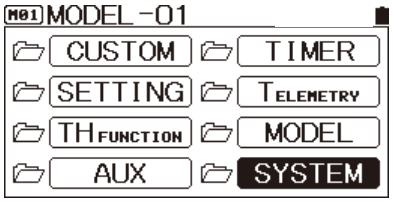
3) マルチセレクターでレーシング モードの動作と対応
している機能の設定をおこないます。
チャンネル選択はセレクトボタンでおこないます。

○設定範囲　R-MODE：OFF / 2 / 3
対応機能：各機能 ON / OFF

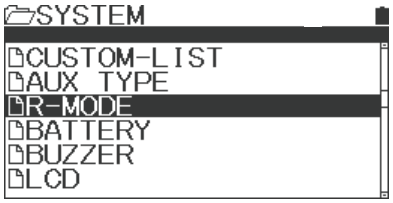
○初期設定　R-MODE：OFF
対応機能：各機能 OFF

○対応機能
・ST/TH：D/R、SPEED、CURVE、TRIM
・AUX：D/R、SPEED、CURVE、TRIM、AUX

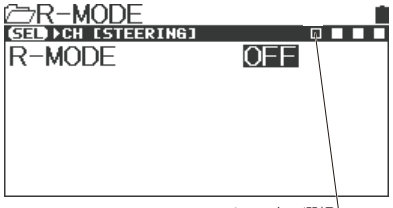
3)R-MODE の機能をスイッチに設定し、走行中に操作する
ことでレーシング モードの切り替えができます。
アサイン機能でトリムレバーやスイッチに変更が可能です。
(P.53、54)
※ SUPER VORTEX の設定変更やタイヤの磨耗、路面
コンディションの変化などににあわせて設定してください。



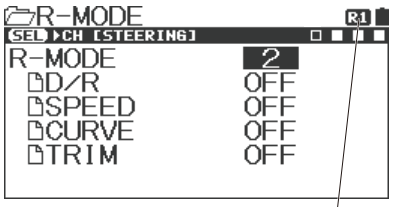
ENTER (エンター)　BACK (バック)



ENTER (エンター)　BACK (バック)



チャンネル選択



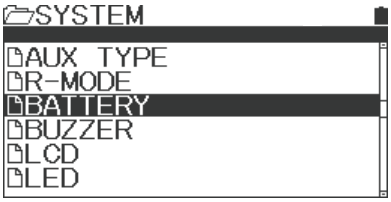
レーシング モード表示

INDEX へ戻る

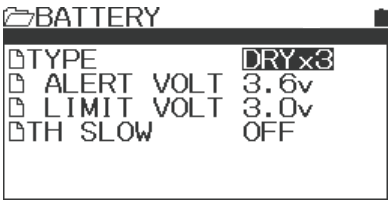
各機能の使用方法

バッテリー[BATTERY]

●送信機のバッテリーアラームの電圧設定を変更できます。
●タイプ [DRY x 3(乾電池) / Ni-MH x 3(ニッケル水素)/ Li-Po x 1(リチウム ポリマー)、CUSTOM(カスタム)] を選択することによってアラーム設定を簡単におこなえます。
※タイプでカスタムを選択するとアラームが鳴り始める電圧を設定する ALERT VOLT と下限電圧の LIMIT VOLT の設定が可能です。
● TH SLOW(スロットル スロー) は送信機のバッテリー電圧が LIMIT VOLT の電圧になった際にスロットル ハイ側の動作量に制限 (50%) をかける機能です。(フェールセーフ機能)



ENTER (エンター)　BACK (バック)



1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [BATTERY] を選択してエンターキーで決定します。

3) タイプの設定 (TYPE)
マルチセレクターで使用するバッテリーにあわせてタイプ (TYPE) を設定します。

○設定範囲　DRY x 3(乾電池)
Ni-MH x 3(ニッケル水素)
Li-Po x 1(リチウム ポリマー)
CUSTOM(カスタム) : ALERT VOLT 3.0 ～ 5.0v
LIMIT VOLT　2.7 ～ 5.0v

○初期値　DRY x 3(乾電池)

ブザー[BUZZER]

●キー操作やトリム、スイッチの操作音、タイマーのブザー音の音階を設定できます。
●キー操作のみ操作音の前半と後半の設定が可能です。
●音量は 5 段階、音階は 7 種類に設定できます。

1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [BUZZER] を選択してエンター操作で決定します。

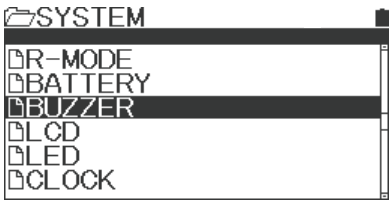
3) トーンとボリュームの設定
セレクトボタンの操作でトーン (音階) とボリューム (音量) の切り替えが可能です。
設定変更する項目を選択して調整します。

○設定項目　KEY-CLICK
TLM1-ALERT
TLM2-ALERT
VOLT-ALERT
TIMER
INTERVAL
LAP-NAVI

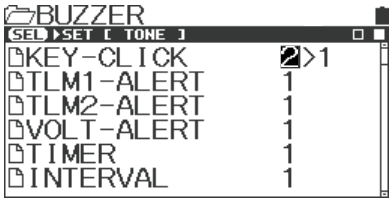
※ KEY-CLICK のトーン (音階) は操作音の前半と後半の設定が可能です。

○設定範囲　TONE　1 ～ 7
VOLUME　OFF ～ 5

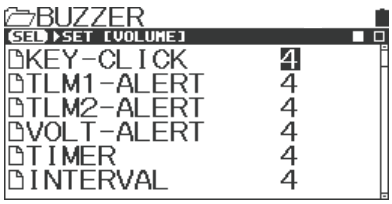
○初期値　VOLUME　4
TONE　1　[KEY-CLICK 2 →1]



ENTER (エンター)　BACK (バック)



ENTER (エンター)　BACK (バック)



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　　システム/SYSTEM

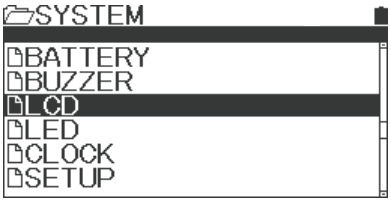
エル シー ディー[LCD]

●LCD(液晶) のコントラスト (濃淡) やブライト (明暗)、バックライトの点灯モードが設定できます。

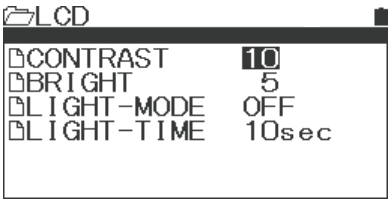
1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [LCD] を選択してエンター操作で決定します。

3)LCD(液晶) のコントラスト (濃淡)、ブライト (明暗)、
バックライトの点灯モード (点灯時間) を設定します。
※コントラストの調整によっては液晶の表示が見えなくなってしまう場合がありますのでご注意ください。



ENTER (エンター)　BACK (バック)



○設定項目　CONTRAST(液晶の濃淡)
BRIGHT(液晶の明暗)
LIGHT-MODE (バックライト点灯モード)
LIGHT-TIME (バックライト点灯時間)

○設定範囲　CONTRAST : 0 ～ 30
BRIGHT : 0 ～ 10
LIGHT-MODE : OFF / KEY-ON / ALWAYS
LIGHT-TIME : 1 ～ 30sec

○初期値　CONTRAST : 15
BRIGHT : 8
LIGHT-MODE : KEY-ON
LIGHT-TIME : 10sec

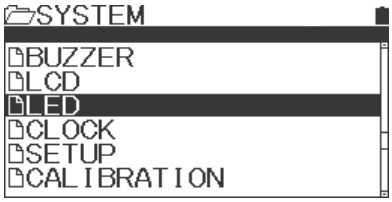
エル イー ディー[LED]

●送信機本体に装備されているファンクション LED の動作モードとブライト (明暗) を調整する機能です。

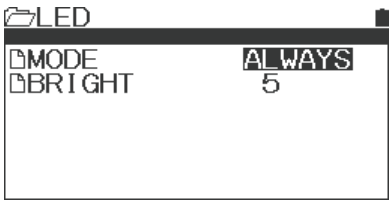
1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [LED] を選択してエンター操作で決定します。

3) ファンクション LED の動作モード、ブライト (明暗) を設定します。



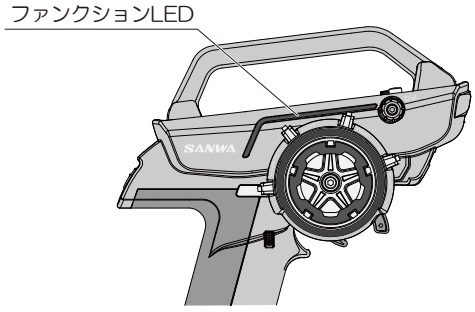
ENTER (エンター)　BACK (バック)



○設定項目　MODE(動作モード)
BRIGHT(LED の明暗)

○設定範囲　MODE : ALWAYS / WAVE / OFF
BRIGHT : 0 ～ 10
※ BRITE は ALWAYS の設定時のみ

○初期値　MODE : WAVE
BRIGHT : 10



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　システム/SYSTEM

クロック[CLOCK]

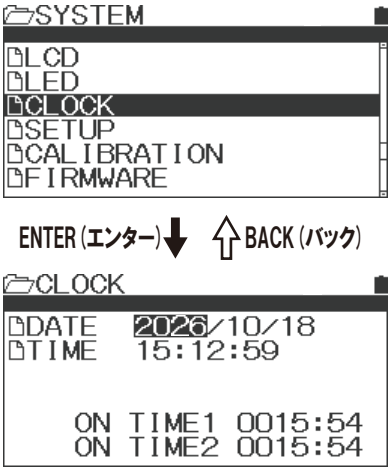
●トップ画面でのカレンダーや時計表示と使用時間を管理するメニューです。
●電池の交換時期や充電の目安となるリセット可能な [ON TIME1] と本体のオーバーホール などの目安になる [ON TIME2] があります。

1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で確定します。

2) マルチセレクターで [CLOCK] を選択し、エンター操作で確定します。

3) マルチセレクターで CLOCK 機能を設定します。カレンダーと時計の設定をおこないますが、ログデータの管理等にもクロックの設定が必要ですので、必ず設定をおこなってください。

※リセットの方法は ON TIME1 にカーソルを合わせてエンターキーを長押ししてください



セットアップ[SETUP]

●セットアップで画面表示の言語の選択、テレメトリーデータの温度表示の単位、電源スイッチを ON したときのオープニングロゴの表示設定をおこないます。

1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

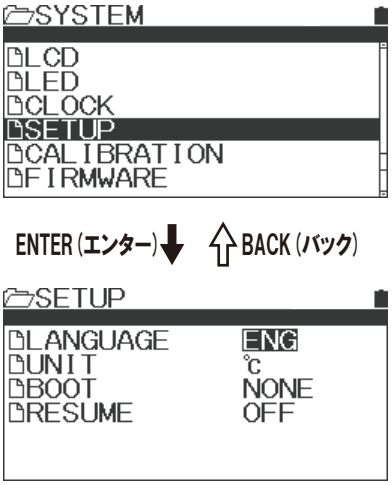
2) マルチセレクターで [SETUP] を選択して、エンター操作で決定します。

3) マルチセレクターで設定する項目を選択して、調整します。

○設定項目　LANGUAGE(表示言語) : ENG/JPN
UNIT(テレメトリーデータの温度単位) : ℃ / ˚F
BOOT(電源 ON 時のオープニング ロゴ) : DEMO/NONE
RESUME(レジューム) : OFF / ON

○初期設定　LANGUAGE : ENG
UNIT : ℃
BOOT : DEMO
RESUME : OFF

※レジュームを ON に設定すると、電源 OFF にした際のメニューを記憶します。



INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　　システム/SYSTEM

キャリブレーション[CALIBRATION]

●使用時間による内部機構部品の消耗により、ニュートラル位置や動作角度がずれる場合があります。
そのような場合にキャリブレーションをおこなうことでステアリングとスロットルのニュートラル位置および動作角度の補正をかけることができます。
※ステアリングホイールの舵角調整機能を使用した場合には、必ずステアリング キャリブレーションをおこなってください。
※キャリブレーションをおこなった場合は、すべてのモデルメモリーのニュートラル位置、EPA の設定を確認してください。

1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [CALIBRATION] を選択してエンター操作で決定します。

3) マルチセレクターでキャリブレーションするチャンネルを選択してエンターで決定します。

4) [STEERING] を選択した場合、ステアリング ホイルがニュートラルの状態でエンター操作してからステアリングホイルを左側、右側いっぱいに操作します。

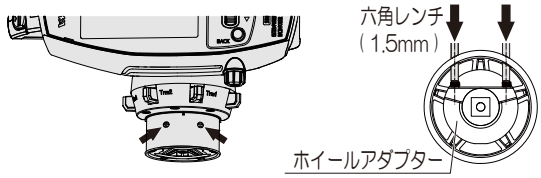
5) 範囲内に入ると [OK] と表示されますので、画面の表示にしたがって操作してください。

6) キャリブレーションが完了すると [Executed] と表示されます。

7) スロットル側もキャリブレーションが必要な場合はステアリングを参考に設定してください。

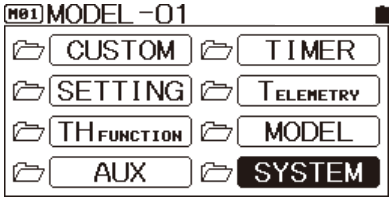
注) 必要な場合以外にキャリブレーションの設定はおこなわないでください。正しく設定できないと正常に動作しない場合があります。

●ステアリングホイール舵角調整について
ステアリングホイールからワイドステアリングパッドをはずしてください。
ステアリングホイールの穴 (2箇所) に同梱されている六角穴付ホーローセットビスを六角レンチドライバー (1.5 mm) でねじ込み、角度調整をおこないます。(※左右均等に締めこんでください。)
※ステアリングホイール舵角調整をおこなった場合はキャリブレーションを必ずおこなってください。

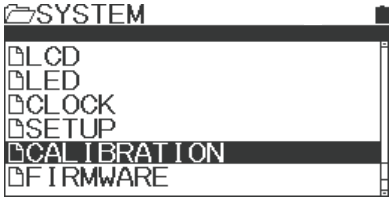


⚠ 補足

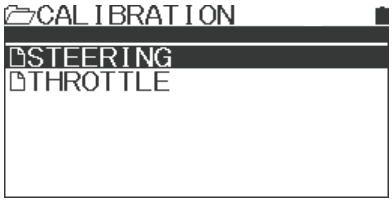
●キャリブレーションをおこなっても正常な動作に戻らないときは、再度キャリブレーションをおこなうか、SETTINGの設定を[USER]から工場出荷時の[FACTORY]に戻してください。
それでも解決しない場合は三和サービスへお問い合わせください。
●ステアリングホイールの舵角を狭くしすぎるとキャリブレーションをおこなっても正常に動作しない可能性がありますので、六角穴付ホーローセットビスを締め込みすぎないように注意してください。
●ステアリングホイールの舵角を初期状態に戻すには、六角穴付ホーローセットビスをホイールアダプターの穴からビス先端が出ない状態にしてください。
初期状態に戻したときもキャリブレーションをおこなってください。
●テンション調整や機構部品の変更などを行ったあとはステアリング、スロットルのキャリブレーションを行ってください。



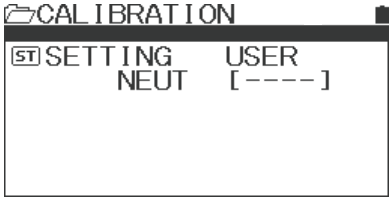
ENTER (エンター)↓　↑BACK (バック)

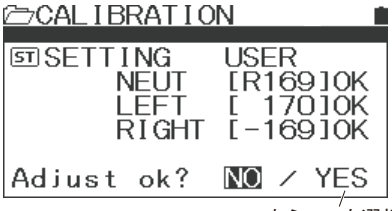


ENTER (エンター)↓　↑BACK (バック)



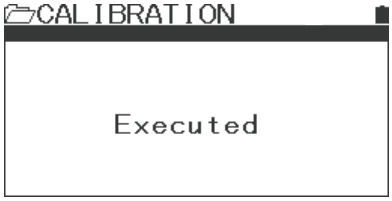
ENTER (エンター)↓





OKならYESを選択

YES選択 ⇓



キャリブレーション完了

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　システム/SYSTEM

ファームウェア[FIRMWARE]

●本体に実装されているファームウェアのバージョン確認と言語ファイルの確認、アップデートがおこなえます。

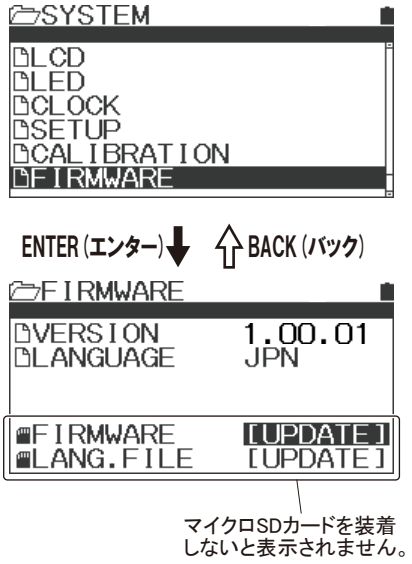
1) マルチセレクターで [SYSTEM] を選択し、エンター操作で決定します。

2) マルチセレクターで [FIRMWARE] を選択してエンター操作で決定します。

3) ファームウェアや言語ファイルのアップデートをおこなう場合はマイクロ SD カードにデータファイルをダウンロードして展開してください。

※ FIRMWARE / LANG.FILE の UPDATE を選択すると SD カード内にフォルダが作成されます。

※使用出来るマイクロSDカードの最大容量は32GBまでとなっておりますが、マイクロSDカードの仕様によっては使用できないものもあります。
三和純正のマイクロSDカードを別途ご用意していただくことを推奨します。



マイクロSDカードを装着しないと表示されません。

INDEX へ戻る

各機能の使用方法

システム メニュー　　システム/SYSTEM

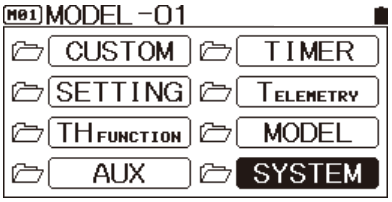
モーション ステアリング [MOTION STEERING]

●送信機に内蔵されたモーション センサーの機能を活用して、送信機の「傾き」をステアリング操作量としてデータ送信することが可能になります。
[SW1 / SW2]にモーション ステアリング機能を割り当てて、送信機の傾きをキャリブレーションすることで、実際に送信機を傾けてステアリング操作が可能になります。
割り当てたスイッチのOFF ⇔ ONで
ステアリング ホイール操作⇔モーション ステアリング機能の切り替えが可能になります。
※ステアリング ホイール操作とモーション ステアリングを同時に併用することはできません。

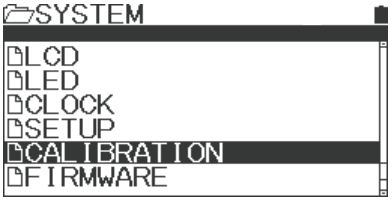
1)マルチセレクターで[SYSTEM]を選択し、エンター操作で決定します。
2)マルチセレクターで[KEY ASSIGN]を選択してエンター操作で決定します。
3)SW1/SW2 [FUNCTION]設定
SW1/SW2のどちらかにマルチセレクターで[MOTION]を選択してエンター操作で決定します。
※FUNCTION設定中にSW1 / SW2が[ON]になると動作がロックされてしまい設定変更ができなくなりますのでご注意ください。
※SW1 / SW2の両方に[MOTION]を設定しないでください。
4)SW1 / SW2 [MODE]設定
マルチセレクターで [MODE]を選択してエンター操作で決定します。

○設定範囲　BUZZER / OFF
○初期値　　BUZZER
※初期値のBUZZERに設定すると、モーション ステアリング動作中にニュートラルの位置でブザーが動作します。

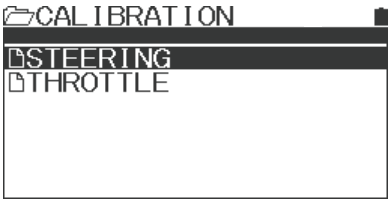
5)モーション ステアリングのキャリブレーション設定
マルチセレクターで[SYSTEM]の[CALIBRATION]を選択してエンター操作で決定します。
6)[STEERING]を選択し、エンター操作で決定します。
[SETTING]の[FACTORY]が[USER(GY)]になっていることを確認してからキャリブレーション設定をおこないます。
※[CALIBRATION]を選択する際にSW1 / SW2が[ON]に設定されていないと6)で[STEERING]を選択した際に [FACTORY]の設定が[UESR(GY)]と表示されませんのでご注意ください。
[USER]でキャリブレーションをおこなうとステアリング操作のキャリブレーションが設定されてしまい、モーション ステアリングの動作には反映されませんのでご注意ください。
7)MT-5Zが垂直、水平になるように机の上に設置した状態で[NEUT]にカーソルを移動してエンター操作をおこないます。
NEUT [　0]OK と表示されると[NUET]の位置が正しく設定されます。
そのあとMT-5Zを手で持ち、左方向⇒右方向に送信機を傾けます。
※左方向、右方向に最大で水平位置以上に傾けても数値は変化しなくなります。
8)キャリブレーションが正しくおこなえるとNEUT/LEFT/RIGHTの数値の下に Adjust OK?　NO / YESと表示されますので、設定に問題がなければ[YES]を選択してエンター操作でキャリブレーションを終了させてください。
※再調整する場合は[NO]を選択して 7)の項目からやりなおしてください。
●モーションステアリング機能を使用される際はステアリングEPAで左右の動作量を調整して、EXPやARC等の機能等を併用するなどして操作をお楽しみください。



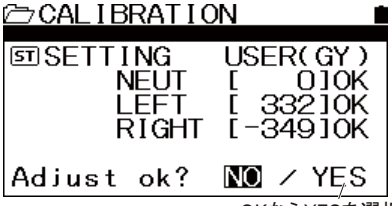
ENTER(エンター)　BACK(バック)



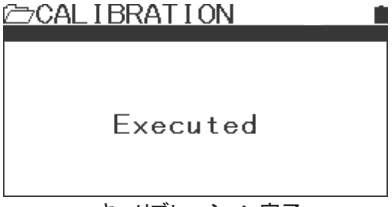
ENTER(エンター)　BACK(バック)



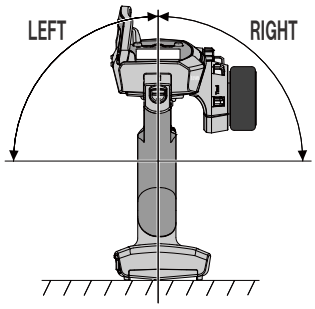
ENTER(エンター)



YES選択⇓　　OKならYESを選択



キャリブレーション完了



INDEX へ戻る

キーアサイン機能一覧

画面表示	機 能 名 称	SW1	SW2	トリム	ダイアル
OFF	---(機能割付け無し)	○	○	○	○
ASIST-ST	ステアリング ドライブ アシスト	○	○	―	―
D/R-ST	ステアリング デュアルレート	○	○	○	○
D/R-TH	スロットル デュアルレート	○	○	○	○
D/R-BR	ブレーキ デュアルレート	○	○	○	○
CUR-ST	ステアリング カーブ	○	○	―	―
CUR-TH	スロットル カーブ	○	○	―	―
SPD-ST	ステアリング スピード	○	○	―	―
SPD-TH	スロットル スピード	○	○	―	―
ALB	アンチ ロック ブレーキ	○	○	―	―
OFFSET	オフセット	○	○	○	○
AUX1	AUX1	○	○	○	○
AUX1[CD1]	AUX1[コード1]	―	―	○	○
AUX1[CD2]	AUX1[コード2]	―	―	○	○
AUX1[CD3]	AUX1[コード3]	―	―	○	○
AUX1[CD4]	AUX1[コード4]	―	―	○	○
AUX1[CD5]	AUX1[コード5]	―	―	○	○
AUX1[CD6]	AUX1[コード6]	―	―	○	○
AUX1[CD7]	AUX1[コード7]	―	―	○	○
AUX1[CD8]	AUX1[コード8]	―	―	○	○
AUX1[CD9]	AUX1[コード9]	―	―	○	○
AUX1[CD10]	AUX1[コード10]	―	―	○	○
AUX2	AUX2	○	○	○	○
AUX2[CD1]	AUX2[コード1]	―	―	○	○
AUX2[CD2]	AUX2[コード2]	―	―	○	○
AUX2[CD3]	AUX2[コード3]	―	―	○	○
AUX2[CD4]	AUX2[コード4]	―	―	○	○
AUX2[CD5]	AUX2[コード5]	―	―	○	○
AUX2[CD6]	AUX2[コード6]	―	―	○	○
AUX2[CD7]	AUX2[コード7]	―	―	○	○
AUX2[CD8]	AUX2[コード8]	―	―	○	○
AUX2[CD9]	AUX2[コード9]	―	―	○	○
AUX2[CD10]	AUX2[コード10]	―	―	○	○
TIMER	タイマー	○	○	―	―
MAX-CLR	テレメトリー MAX クリア	○	○	―	―
R-MODE	レーシング モード	○	○	―	―
CUSTOM	カスタム	○	○	―	―
MOTION	モーション ステアリング	○	○	―	―

画面表示	機 能 名 称	SW1	SW2	トリム	ダイアル
TRM-ST	ステアリング トリム	―	―	○	○
TRM-TH	スロットル トリム	―	―	○	○
TRM-A1	AUX1 トリム	―	―	○	○
TRM-A2	AUX2 トリム	―	―	○	○
D/R-A1	AUX1 デュアルレート	―	―	○	○
D/R-A2	AUX2 デュアルレート	―	―	○	○
CU-R-ST	ステアリング カーブ レート	―	―	○	○
CU-R-TH	スロットル カーブ レート	―	―	○	○
CU-R-BR	ブレーキ カーブ レート	―	―	○	○
SP-ST-F	ステアリング スピード フォワード	―	―	○	○
SP-ST-R	ステアリング スピード リターン	―	―	○	○
SP-TH-F	スロットル スピード フォワード	―	―	○	○
SP-TH-R	スロットル スピード リターン	―	―	○	○
ALB-PO	ALB ポイント	―	―	○	○
ALB-ST	ALB ストローク	―	―	○	○
ALB-LG	ALB ラグ	―	―	○	○
ALB-CY	ALB サイクル	―	―	○	○

設定可能・・・「○」 設定不可・・・「―」

INDEX へ戻る

インジケーター機能（RX-DATA 機能について）

アールエックス データ[RX-DATA]

● MT-5 Z は RX-493i / RX-492iと組み合わせることで送信機から受信機へ送信された電波の受信状態を送信機で確認することができます。
受信状態を確認することによって機器の故障や車体への受信機の搭載方法を確認することができます。

受信状態は 2 種類のデータで確認することができます。

・受信強度（RSS）
受信機が送信機から受信している電波の強さを表示します。
受信機やアンテナ線の搭載方法やサーキットや操縦台の環境により数値が変化します。
新しい場所での走行される時やプロポセットの搭載を変更された時などは
数値が低くなっていないか注意してください。

・受信率（PDR）
受信機が送信機から受信している電波の受信率を表示します。
同時走行の台数が多い時や他の 2.4GHz の機器などの混在で悪くなる事があります。
また、受信強度が極端に低い時なども受信率が悪くなります。

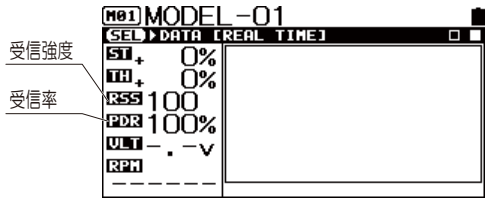
データの確認方法

受信強度の確認（RSS）
1) マルチセレクターで [テレメトリー] を選択し、エンターボタンで決定します。
TLM1 の [DATA-TYPE] で [RX-DATA] を選択します。

受信率の確認（PDR）
2) マルチセレクターで [テレメトリー] を選択し、エンターボタンで決定します。
TLM 2の [DATA-TYPE] で [RX-DATA] を選択します。

テレメトリー画面に移動し、各種テレメトリーデータの項目に [RSS] と [PDR] が表示していることを確認します。

テレメトリー画面



数値の目安
RSS の数値が 20 以下と低くなっている場合は車体への受信機の搭載方法を変更して
RSS の数値が向上するように変更してください。
※（P.2）の搭載時の注意点や（P.10）のアンテナの取り扱いを参考に見直してください。

PDRの数値が40以下になっている場合は送信機の電源のON / OFFをくりかえしPDRの数値の変化を確認してください。
それでも変化がない場合はセーフティーリンクの数値を1つ上げ、再度 BIND 操作をおこなってください。

※テレメトリーデータの注意点
テレメトリー画面の表示が「---」となっている時は送信機が受信機からの
テレメトリーデータを受信できていない状態です。
必ずしも受信機が操作データを受信できていない状態ではありません。
受信機からのテレメトリーデータの送信出力は送信機からの送信出力より弱い為、
距離が離れる事により先に受信できなくなり、上記の様な表示になる事があります。
「---」の表示になった場合は、送信機の操作に対して車体の動きに問題ないか確認してください。

INDEX へ戻る

索引

あ
アンチ ロック ブレーキ [ALB]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 33
インターバル タイマー [INT TIMER]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 41
エル イー ディー [LED]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 59
エル シー ディー [LCD]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 59
エー ユー エックス [AUX]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 35～38
エー ユー エックス ミキシング [AUX-MIX]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 37
エンド ポイント アジャスト [EPA]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 29、30
オフセット [OFFSET]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 34
アールエックスデータ [RX-DATA]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 65

か
カーブ [CURVE]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 23～26
キーアサイン スイッチ [KEY ASSIGN SW]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 53
キーアサイン トリム [KEY ASSIGN TRIM]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 54
キャリブレーション [CALIBRATION]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 61
クイック セットアップ [QUICK SETUP]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 19、20
グラフ セッティング [GRAPH SETTING]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
コード エー ユー エックス [CODE AUX]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 38

さ
サブ トリム [SUB TRIM]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 28
スピード [SPEED]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 22
ステップ エー ユー エックス [STEP AUX]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 35
スロットル タイプ [TH TYPE]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 34
システム [SYSTEM]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 51～62
セッティング [SETTING]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 21～32

た
タイマー [TIMER]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 39～41
ダウン タイマー [DOWN TIMER]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 41
テレメトリースイッチ [TELEMETRY SWITCH]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 46
テレメトリー セッティング [TELEMETRY SETTING]・・・・・・・・・・・・・・・P. 45
デュアル レート [D/R]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 21
トリム [TRIM]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 31、32

は
バインド [BIND]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 51、52
バッテリー [BATTERY]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
フェール セーフ [F/S]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 27
4 ホイール ステアリング [4WS]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 36
ブザー [BUZZER]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 58
ベース [BASE]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 28～32
ポイント エー ユー エックス [POINT AUX]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 35

ま
モデル [MODEL]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 47～50
モデル クリア [MODEL CLEAR]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 50
モデル コピー [MODEL COPY]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 49
モデル セレクト [MODEL SELECT]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 47
モデル ネーム [MODEL NAME]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 48
モーション ステアリング [MOTION STEERING]・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 63
モーター オン アクスル [MOA]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 36

ら
ラップ タイマー [LAP TIMER]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 40
リバース [REV]・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 28

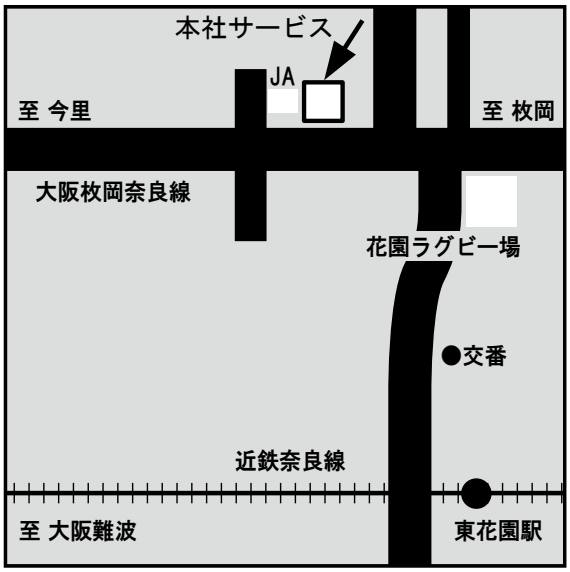
索引

現 象	原 因	処 理
電源が入らない。	乾電池またはバッテリーが消耗している。 乾電池の入れ間違い。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。 極性表示とおりに入れなおす。
ときどき電源が切れる。	コネクター等の接触不良	サンワサービスへ
距離が届かない。	乾電池またはバッテリーが消耗している。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。 直らない場合はサンワサービスへ
アラームが鳴り止まない。	送信機のバッテリー電圧が低下している。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。
キーを押してもクリック音が鳴らない。	BUZZER機能のVOLUMEがOFF（0）になっている。	BUZZER機能を確認してください。（P.58）
サーボのスピードが遅い。	SPEED(スピード)の機能で設定がマイナスになっている。	SPEED(スピード)の機能を確認してください。（P.22）
	受信機バッテリーの電圧が低下している。	新しい乾電池または充電されたバッテリーと交換してください。
	車体側のリンケージが重い。	車体側のリンケージが軽く動くか確認してください。
左右の舵角を合わせても、左右の舵角が違う。	トリムニュートラルがズレている。	トリムを合わせ、EPAを再設定してください。（P.31、32）
操作したとき両端でサーボが動かない。	D/R、EPAの舵角設定が大きすぎる。	どちらかの値を100%以下に設定します。（P.21、29、30）
トリムを操作してもサーボが動かない。	トリム動作範囲の片側いっぱいになっている。	サーボホーン、トリムセンターを再設定します。（P.31、32）
送信機、受信機の電源を入れても動作しない。	BINDができていない MODEL-DATA、 SAFETY LINKの番号が違う	MODEL-DATA、SAFETY LINKの番号が間違っていないか確認してください。 BIND設定をおこなってください。
送信機の電源をOFFにしても電源が切れない。	システム異常が発生している可能性が考えられる。	電池ボックスのコネクターを抜いて強制終了してください。

INDEX へ戻る

サンワ サービスについて

調子が悪いときはまずチェックを。この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
それでも異常のあるときはトラブルの状況を詳しくご記入の上、本社サービスまで修理依頼してください。
オーバーホールや点検時は点検内容を詳しくご記入ください。
また、ご質問、お問い合わせ等がありましたら、本社サービスにて受付けております。
電話でのお問い合わせは土曜、日曜、祝日を除くAM9：30~12：00、PM1：00~5：00です。



〈本社サービス〉
東大阪市吉田本町1丁目2-50
〒578-0982　　072(962)2180

INDEX へ戻る